續編孝義録料 八十九

西海道二

豊前
豊後
筑前
備後

拾九十六

共十二

内閣文庫
和書
三四五九四
五八 函
九 冊
三。架
類 號

内閣文庫
番號 和 34594
冊數 90(80)
函號 157 401

綴じ部（喉部分）の文字等が開きが不鮮明な場所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

豊前国小倉領

孝行奇特之者名面書

小笠原大膳大夫家来
楮岡叙恭

内閣文庫

小笠原大膳大夫領分
豊前国企救郡 高槻村
百姓 善太郎
当巳年拾八歳
持高三石三斗四升弐合

右善太郎儀常〻父親江孝心致シ農業無怠
致出精候趣相聞候ニ付別紙相糺候處右様目立候儀も
無之候得共幼少之時より今ニ至り父親の申付

少茂違背致し候事無之平日父親ニ
對し顔色を悪しく見せ候事無之
稼穡耕耘之儀ニ付何事も父親之申付を請
働候ニ付或時外方え出候共内ニ居候共其元之如く何事も
父親ニ任せ置致し候て農業一之損亡も無之候て
現在父親儀老年ニ候事も不叶との事ニ候得ハ

自分ニ斟酌して諸事承知して何事も一ハ
老衰之大事ニ怖れ候顔色ニ而云候其恩念を
辱く候是私性質莞爾なるものにて中ニ父親乃
胸ニ背き何事も存寄候ハヽ申ひとしく候ハヽ
冬春近候ニ付而ハ猶有ニ厚く謝して今も
其後年を經て種子物蒔付之節畠之種子おろしの

利害之界ニ付始て親之指図を拒ミ候處果して
悉く當り申候て不遠候其時村中ニて始て悉く當り
誠ニ非さる儀与存候諸事右之通ニて人之目立候ハヽ
無之候而其常ニ母親を大切ニ致シ耕作を励ミ
諸人ニ恭敬をつくし上之儀を懇ニ相続致候國を
不憂生得篤實者之儀村中無双之者ニて其者共
委細申上候仍之寛政七卯年為御褒美米弐俵
被下置候

同國同郡矢山村
百姓
半平
持高壱斗四合
當巳五十六歳

右半平儀親江ニ事ヘ初年之時分孝心深き趣
一
相聞候ニ付右見届之通ニ申上候

一 幼年織元来極く貧窮者にて幼稚より父親に孝養を
尽し候得共不相叶貧窮其事而已を悔憂ひ其中にも
心懸候ふ父ハ年若にて不顧父親の気に逆ひ兼候に
業隙之節も病死致し候て自らハ母と二人に成り旅
渡世の手立も無之故同村之百姓家農業手伝致し
わつかの給金を請ひ其内にて自分於高之租税をも

年々無滞収納仕来り中ニハ右老母之為心ニ掛ひ
様子にて日々主家之働無懈怠出精致し明暮共
朝夕休ミ候ニハ家に帰り安否を伺ひ一日ニ
極めて一二度も帰り庭井をも致し家之働も宗絢
草鞋を作り或ハ莚縄を綯ひ其上又体を省ミ母を
見舞ひ又明暮共に仕事を一同に仕候ひ夫より

主家之薪菜なとを雑ひ草鞋を作り是を売代
替へて母の為に衣服等を拵へ万事飢寒之愁
憂ひなき様に致せり婚禮替りに而ハ或ハ自分家の
菜園ニ野菜を作り是を売払ひ先祖之牌前ニ供へ夫ゟ
母へ給させ其外を主家にも贈り隣家之父老抔にも
分チ与へ其外も有之時ハ売払ひ家之修覆之助ニ

致し又ハ母の好物抔とも買求め候て進め又平生
不相替追々母も極老ニ及ひ目も薄くなり耳も
悪く言も成かね候得共兎角母へ孝養ニ自由なりしを
奉公を止メ日雇稼を致し薬其外食事等を心を尽し
り而も致方無之上猶看病いたしなから勤め勝り候
相見へ候右様之実情ゟ是迄村中之交りハ不及申

掟筋益堅く相守り候右ニ付文化丙寅年為御褒美
米三俵差遣申候

同国同郡独行村
百姓
庄七娘
志川
当巳二十七歳
持高四斗五升七合弐勺五才

右志川儀常々孝心奇特者之趣相聞候ニ付則状
相糺候処左之通ニ御座候

一 志川父庄七当卯より二十六ヶ年以前相果志川儀母ニ而
育チ候処母追々老衰ニ及ひ足痛ニ而歩行も
難成遂ニ不具之身ニ罷成極々難渋ニ暮し候
依之村役人共折々心を附遣候処志川十一歳ニ
相成候時親類之者ニ申候ハ母も不具之身ニ相成候得者
居喰ひ致し方無之候而者孝道具之上ニ貴賤ニ而候得者

縦ひ村中ニ而御苦労ニ成り候ても末永き事ニ事
ハ川と云ふ娘も雇ひ候成せめて私事子守り
奉公なりとも致して壱人口を減し候ハヽ母
一人ニ而も成夫故村中ニ而御苦労も軽く可相成ハ
何卒母の近き所ニ奉公致度旨頼むと申候付其元ニ
但も隣家迄奉公ニ差出し候夫より奉公先ニ而おのれ

雖ひ候ても其給持帰り母に給させ又或ハ奉公先ニて
甚多之衣服なとを着せ候様ニ申聞候得共なきに
着せ候ニ付切代雖ひ請母の衣服ニ仕立遣し
自分ニハ見苦しきを着候ても私ハ稀ニ居之
不申事ニ而其事初心ニも不ニ存しく稀成ル者ニ
御座候

一志川常ニ村中之ものとも醫者なとニ書物よみを
請し或ハ檀那寺ニ僧の法談なとを聴き又ハ今ニ
草紙類なと讀候を聴り度ニ少しも女乃正しき
風俗ニ而なきニ候得ハ返すしく口ニ結ふを致し候處
村中ニも不及申し近村ニ而其を追ゝニ相及ひ珍しき
姓質と譽申候

一志川十六歳ニ而嫁り候よし給金とも取り候得共
不残母ニ而方へ差し遣しるの年貢抔足ニ致し
少しも手もとニ其身ニ附候事無之其上去ル十一歳ゟ
奉公を致し候得共昼夜ニ暇ニ候すに暇を見合せ
母抔安否を問ひ候得共母も心を安し居ニ而家内ニ
居候様ニ貴ひ申而願ひ候由ニ御座候

一五節句其外休ミの日ニハ主家ニ至り我家ニ
帰り候日薪等沢山ニ取置或ハ母を背負ひ氏神
佛寺抔へも参り母之心を慰め候事早晩ニても
不相替候由主人公先よりも神妙之儀とかへ並ニ又と
おもし候ハ給金とも所望ニ差し当時ニてハ母乃
難渋いたし候程之事も無之孝養ニ流れ候

得ニ相見へ尚又主人公先ニても貞實ニ勤申候
一右同人事公先ニて村中之者共ニても戯乃子共
申候ニ及其外之者ニも立腹し其者共へハ来ひ
云事を憂候儀無之極めて身を慎ミ望老ニて
後ニハ村中之老も其行ニ敬ひ候様ニ成り
女子ニ至てハ稀成者ニ老ニ及候人之稀村役母

隣家之者迄も存知候而文化五辰年為褒美
大麦五俵差遣申候

同国同郡赤坂村
持高八石三斗九升四合七夕
百姓
喜助
当巳五十歳

右喜助儀生得親江懇ニ而専一他人之交も厚き故
兼々承候ニ付相糺候処左之通ニ御座候

一 喜助十四五歳之時分近隣及他村江参り候節ハ必
何方何所江参り凡何時頃ニ者帰り申与親江告候而
一度も相違無御座候夫故親共も殊之外安心致し候

一 耕作ニ出候時ハ親ニ先立田畝江行き仕廻候とも遅より
帰り候ニ付常々之百姓共とハ別而身を入働候故
喜助作り候田畑ハ旱損水損之難指別之

換亡も無之後ニ至ハ村中之者怪ニて全く孝心之
所為と互ニ申合候
一右躰之實情孝心之所よりて村中ハ不及申近村之者
迄も一度も虚言申候儀無之人ニ約束致候ハヽ
風雨寒暑病氣之難其外限ニ遠路候共無之候
一係之人之格別慥ニ存し如何様之儀ニても

來郡中ニ至迄ハ不申及候村中之出入等之
皆喜助方ニ而用ひ致候ニ付右之者ヲ相違候右之類
村中近隣之者共ニ申合候儀ニ付文化五辰年一為
褒美米弐俵遣之申候

同国田川郡南木村
持高拾三石三斗弐升九合五夕
百姓 合蔵
当巳六十一歳

右分蔵儀孝心者之趣相聞候ニ付相糺候處平生之
行状左之通ニ御座候
一 分蔵儀父十八年前相果母子ニ而相暮候處分蔵
性質孝行之心有之母へ事へ諸事念を入候ニ付雖
母より先ニ起き飯の支度致農業之下拵を
仕廻ひ候夫ゟ母へ朝飯為給させ耕作ニ罷り出候
早晩とも不相替父存命之内者父与共ニ耕作候得共
一 分蔵者今ニ至り候ても益励を事と致し母に
心を尽し想ひ候を若キ之ひ専事に気を附念を入
母乃心を安め候儀をのミ心掛申候
一 分蔵母年増しに老衰ニ及ひ大凡十ケ年余歳
追々目落く相成り家内之歩行而已致し候処

分家内外之世話ニ両道ニて申合押来り村中より
妻を迎て遣し候處家内も睦敷子供も二人出来候
生来多病の者ニ而何事も心ニ不任候得共
其事ニ一度も母ニ知セ候事無之候
一 分家妻儀迎へ候砌其妻母ニ申含候而言渡候を
分家方付其後逐出て申由申渡候ハ親類之者
共寄り親言渡し候を分家不受入申候を
我幼年之時ゟ一度も親ニ口答致し候義無之
まして世の中ニ大切なるものハ親ニ越るもの無し
殊ニ我百姓なるにも親ニ背けは氏神之冥罰も
恐しき事なり人ハ息も何れ我妻ニ候へ共ハ
親乃心ニ背候てハ一日も連添ふ事なりかたし

申候を漸く飢り在凍申候都合之儀乃
律義者成村中何れも取扱ニ而相續致し
及ひ候得共縁者の無き所へ双方和熟ニて及ひ
穏ニ暮し、兼而村役人共も頼ニ致し候程ニ
御座候ニ付、文化五辰年為褒美米三俵
被下申候

同國同郡伊方村
百姓
孫平妹
ゆき
当巳四十三歳

持高無御座候

右ゆき幼年之時父ニ離れ兄弟二人母ニ育れ候
又兄も死候ニ付、女の身として母を養ひ候ニ付
六ケ敷候得共兎や角として母ニ暮し候處
母も七十八歳ニて相果候とても自由難叶

益産業を精勤仍て村中并上役人共感心

日々雇之其賃銭を以母を養ひ飽まて

辛苦致し候得共其苦労をも顔色ニ貞實なる

いたし方其上河ニ而日雇稼ニ参り候ても

何ニ而も味能き品物ちよと貰ひ候得は少も自分ニ

給ハ不申直ニ持帰り母ニ給させ何事ニよらす次

艱の仕方村中ハ不及申他村迄も感心致候段

達御聞ニ付去ル巳年村役人并近隣之者

一同奇特ニ存文化五辰年為褒美大麦壱俵

差遣申候

同国同郡下弓削田村
百姓

持高九石壱斗壱升八合五勺　勝六

当巳四十七歳

右勝六儀貧窮之百姓ニ而候処去ル初年より
両親に事へ孝心深く兄弟之睦敷殊ニ村
右紀以處之之通ニ御座候

一勝六母は六ヶ年前お果又右六ハ盲目ニて自由
不相成妹も盲目ニ相成難渋之旅ニ罷在候時
又右六娘親子ニて悔ニ罷在候老ゟ親子共ニ不具ニ

滅り候上老ハ勝六兄弟ニ老ゟ厄介ニ相成り候ひ
勝六兄弟難儀ニ及候得共ニても貧窮之内妻子居合ニ
及し候てハ如何ニ親子とても難渋ニ無之
語り候を勝六妻村甚迷惑ニ存し兄弟共中合セ

一益々農業ニ相勤其隙ニハ他人之方ニ雇ニ
雇候もの宛を稼ひ又妹娘人々衣食等不自由

無事ニ相続致し候迄他人の憐を加へ養育いたし附遣申候
一 或時勝六弟ニ申聞候ハ兄親ニ扶とも育ハ人成別而苦労も
致し候其上妹も盲目ニ成り因果之不為ニ候ハヽ兄申
兎角兄を憐し介抱致し弟之事一心ニ越
候と如何にも老ニ任致し候ハヽ外之孝行と申ものハ
無之と語候由夫故兄弟ニ互ニ親しく大切ニ仕候

妹をも憐ミ致し候故家内之睦しき事比ひ
無之候右者村中之者共委く存候ニ付文化五辰年
為褒美大麦五俵差遣申候

同國同郡河原弓削田村
百姓 両七
当巳三十三歳
持高拾壱石八斗
右両七儀養子ニ而此家ニ入候處生得篤實ニ而老母へ

養父母ニ事へ孝心なるよしの上ニ而相聞候付村役人并
近隣之者共相糺候處為指儀も無之候得共平生養父母之
誠實を尽し家内多人数ニ候得共一度ニても
悲しませ不申顔色にも不仕又愠り候儀ハ曾而無之
夫婦家内何れも温和柔順之風相見へ農業も親子
とも出精ニ付年々年貢収納等も人ニ先立皆済し

又村中他人ニ交り候ニも信義を専一ニ致し候故
自然与村中之者致歸服孝人奇特之者と申候
依之文化五辰年居屋敷免大麦五俵充遣之申候

同國同郡見立村
百姓
忠蔵
當辰三十八歳
持高三石七斗弐升六合七勺

右忠蔵儀極貧ニ而去ルより相続候得共高弐石抱持
只才ニ而農業ハ勿論風雨晨夜ニ而厭ひなく働キ
専ら致し掟筋ハ不及申年貢収納ハ人先キニ皆済
致し候故自然と村中ニ而者共見習ニ相励候且又村役ニ
人交ニ出候ても同村ニ而者共度ニハ休息烟草揚り抔
致し候得共忠蔵儀ハ和らけ諸人ニも中好候ハ

何儀上ニ者役目ニ而我不働候ハヽ御家中ニ者當勤ニ
難有事ニ付さま〳〵ニ家内共分ニ當候儀全く
御国恩ニ厚き所なれハ其御恩報しの為ニとめて
主意大切ニ御役目を勤候よし我〻も宜敷加と申者之ニ
潜り候故何事も儀村中ニ者若者共迄當情ニ働候よし
又村役人ニハ小使を勤役方世方ニ立入候迚又役候ニ

数年来叮嚀ニ勤を尽して怠り候事なく困窮を
遁し候故村役人共茂誠ニ常ニ誉し候由
又娘壱人ありしに親ニ事へ候処ニ大切ニ致し懇ニ
養候由右之趣篤ニ相聞候ニ付村役人并親類共之者
相糺候處少茂違候事無之奇特ニ付文化五辰年
為褒美大麦五俵ニ而遣申候

同国同郡上弓削田村
百姓
傳内
当三十五歳
持高六石八斗余六合九夕
右傳内幼少之時ゟ篤実奇特者之由相聞候ニ付
相糺候處何れも左之通ニ相違候
一傳内幼少ゟ父母ニ事へ懇ニ仕候処追々父母共ニ
相果兄弟三人ニ相成候然處季ニ弟二歳ニ相成候と

母方之親類共ニ預ケ養育為致来妻娶候ニ
自分兄弟ニ而家業ニ情出し昔ニ両親同様思罷
等之儀者尤之事ニ候得共養育等ハ親類共も
無残所親しく猶又高式抱持て田地を耕し
年貢等一年茂無未進相収メ村役等ニ出精いたし候
無怠相勤候而村中困窮之者有之候得者自分儀

貧しき内ニ衣類并質物ニ入候分少々ニ而も才覚いたし
與へ其後返済之儀如何様ニ延引いたし候而茂催促
不致猶又不返済いたし候得共再其事ヲ不申ハ土却而
前々之通ニ睦しく致し候故村中之者深く実義ニ
伏し互ニ睦間風義を慕ひ候様ニ成候由申候
右之趣村中之者共存知候ニ付文化五辰年

為御褒美大麦五俵被遣申候

同国京都郡馬場村

百姓

持高壱石八斗九升七合歩

利七

当ニ六十三歳

右利七儀母ニ事ヘ孝心ニ而素ニ相聞候ニ付

相糺候処行状左之通ニ御座候

一 利七父存命之内ハ貧窮ニ者候得共持来り候田畠

凡五反程茂有之候処十ヶ年以前借物ニ入請作のこ

致し候得者今ニ自分抱持之時之如く念を入耕作

出精致し刈取之節者早晩とも借主之差図を受ヶ

無残所世話いたし年貢収納等者殊ニよ

念を入候故父儀能ハ常ニ安心いたし被申利七ニ任せ

致し候得ハ如何成事ニ候共父ニ為悪を不致してハ
取計事ニ候

一父相果候後ハ母ニ事へ家事ハ皆母之差図を請て
取計ひ其後妻を入娘共他人を縁付候後ハ世話懸入候
而嫡子ニも成長候後ニ至候へ共母之願ハ不背ハ
継之家ハ一日たり共其母之儀ハ不致して

村役人之小役人ハ役義を致し其身を以て年貢
諸上納之足ニ致し余ハ上へ納させ候ものより
先ニ皆済ハいたすへく候

一村方百姓之身分ニ応し候而武州等ニ比較仕
換し役之母浦之外難渋之候得共新規ニ
拵ひ来候儀ハ不相成候毎夜農業ニ疲労を不厭

夜間ニ至迄母之側ニ罷在、暇を乞ひ候由、村中之者迄も
少及其志之篤きを感し、手寄り暇状をも求て
猶御褒美之利七人之世話ニ成り候を昔ニ恩ハ候也
固く辞退して不受、御取達之村中一同之寸志ニ
中御褒美之金物其侭請、大ニ歎ひ母ニ差
申出て村中之孝志を謝し、其後謝礼人々江

一 右人之儀農業之手隙ニ而自分ニ母養を持
一 三度宛御役しハ、少成雇賃を取り不申候
一 盆暮節句等ニ者菓子吸物等母を看顧寺抔ニ
参り先祖之墓参ハ不怠、又ハ親類抔ニ母参り候ニ
中御褒美頂戴而何さ御来常之儀被仰
村中之者共其心を感し、致候中御褒美被下

村中之交り茂信實ニ出精致候ニ付文化五辰年
為褒美米五俵差遣申候

同国仲津郡節丸村
百姓 儀次郎 当辰二十五歳

一 持高無之候

一 右儀次郎孝心者之趣相聞候ニ付相糺相遂候処

一 儀次郎父当辰七十二歳母六十七歳ニ相成兄ハ病作右
申候元来貧窮ニ相暮候処母ハ眼病相煩候同ニ
相成候ニ付儀次郎一己ニ而請養候父ハ兄病身ニ而
儀次郎ヲ隣家之絹屋清右衛門と申者奴ニ罷出候而

一 郡之者ニ奉公致年々当年迄茂農業ハ勿論
致居候ニ付毎日食後抔ニ而帰宅致看病致母之口
余り安居ニ而同人顔を相尋帰り母之側ニ附添一二便

髭剃等ハ公ヲ對不自由ニ無之様ニ致シ候處明此頃も
早天ニ清右方ヘ參り御申候
一清右方ニ而五節句成ル盃正月其外村中寄合ホ
有之候時ハ平日ニ替リ一葉ツヽ指シ家内之膳ニ付候
織次郎ハ早晩之義自分ハ給不申持帰り母ニ
給させ候ニ付清右追而公ヲ對今ノ孝心之趣ヲ感シ
右之葉ヲ椀二ツニ盛り織次郎ト共ニ與ヘ候ハ母ニ
給させ候とて自分ハ給候様ニ申候得共シ候て外
痛入逢而節候得共清右不申入して申候ヘ
葉二ツ迚別ニ公ヲ以て義なし然右合之物ヲ椀二ツニ
盛りと云て返之事也ニ申候處不得止事義公ヘ受ケ
申候右押て公之應友奉公義方義極而實義ニ

御〆数年之間服方ニ給金為ニ而茂孝心尽仕候

一兄儀作助別家ニ分レ父儀一別居仕候儀ニ付日夜

少之透も見合候而ハ父之元ニ参り安否を問ひ

食物衣服之事迄も尋て父何ニ而も欲しと申

顔色好ミ見候得ハ悦て帰り申候又義次郎ハ不調法

母を養ひ大兄源義々方ニ一所ニ居申候而

多人数ニ而候得共家内之睦敷事他人も感候義

大ニ差支申候右之趣村役人共追々承及居候

文化五辰年為褒美米五俵被遣申候

同国同郡道場寺村

百姓

持高凡七斗弐升弐合六勺　　佐之助

當辰五十六歳

右躰ニ正路篤實成者ニて致孝行打続候而
生来貞實ニ而若年ゟ親ニ懇ニ事へ候段兄弟共ニ
万事心遣ニ而不得親ニ存分ニ孝養を遂候事不叶
候ニ付自分趣願ニ有之候処其家を守忠孝ニ勤り
其身志厚を養候處存し乍ら其後中々相尽し
忠孝之段ニ而不怠ニ付候儀候尤別而奇特之者ニ付

被存候處体ニ而中ニも手段を以寄合候処ニ而親を
存分ニ叶候仰を以被成候ても事義不叶候ハ其方ハ此上絶候ニ
未り候家を大切ニ相続被致其上ニ先祖ニ對し
孝行ニ中々難尽我身老母ニ一生ハ如何成ニ候て
心安く其元ニ而も世安候處ニ付候処も難忍之ニ付程能々渡世候而
漸く合点被致忠孝之道ゟも家を大切ニ

守り先祖之香花をも守り申候然処外ニ出を
村中壮者共より使ひ抔して其儀を終へ並之方ニて
年貢等ニて足しと致し又夫より後ニて暇ニ者草履を作り
縄を綯ひ抔して売払ひ其代銭を以茶烟草抔を
小肴抔買求母ニ給させ或ハ夏冬ニ衣服を拵遣ス
致し并ニ兄嫁事をも懇ニ致し又何方ゟ何品を
貰ひ候而も其品者先母ニ進し抔して兄方ニ而
一先祖之家を続させ母ニ孝行を尽し方ニ付
慈悲之心深く有之候者故村中ハ勿論他村迄も
孝心奇特者と感申候右之趣村役人共ゟ
陣家ニ而者其要ニ存候ニ付文化五辰年
為褒美米五俵被下置候

同国葉栗郡越路村
百姓
良助
当亥五十歳
持高拾石弐斗七升壱合有之
右良助儀幼年ゟ篤実ニ而者ゟ承候ニ付及候趣
相聞候ニ付糺候処村役人共左之通申候
一良助儀幼年ゟ農業ニ出精仕両親江孝心を尽し罷在候
母ハ先年相果父ハ存命ニ而今以健ニ罷在候良助
耕作之隙ニ深屋之業と致し繁用ニ者当候得共
昼夜無怠父ニ事へ父之安便之儀妻揃て良ニ
然に他に自分ニ介抱致し父儀性質寛源ニ而
ものニ而親子ニ而和順ニ一家円睦ニ暮候得共中ニも
其上村中極難渋之者有之候得共自分ニ飯米之円義
おゐて充分ニいたし又村中ゟ親子之者中悪敷者

有之候得共済々利害を説聞せ孝行いたし候に
向ひ候而懇ニ申なため候故成哉時々ニ事起候
儀も他村迄茂見習候ニ付自然と良助と申者も改心致候
右之趣村中者不及申他村ニ而も者迄委敷存居
申候ニ付寛政七卯年右庄屋兵衛ニ褒美遣之申候

同国同郡上河内村
百姓
持高五石九斗
儀兵衛
当亥六十歳

右儀兵衛儀兼而孝心之趣相聞候ニ付相糺候処左之通ニ御座候

一 儀兵衛若年之時父相果其以後母を養ひ朝夕
叮嚀ニ事へ何事茂母之心ニ不背其上母老年ニ及ひ
歩行不叶候ニ付寺参り抔致候時も早晩ニ不限自分
背負参り申候其後母相果候得共困窮之内ニ而

葬式等厚く致し日々墓参を致し三回忌迄も
怠事なし年忌之節ハ僧を招き法事致し親類中并
近所之者共を招き饗応致し候、右体之篤實者故常々農業
情出シ不及申捉節大切ニ相守り年貢收納も
いつも人先ニ皆済致し候ニ付奇特賞揚之者ニ付候
右之趣村役人共并近隣之者迄申立候ニ付寛政七卯年

為褒美米二俵被遣申候

同国同郡傳法寺村
百姓 忠三郎
當巳五十二歳
持高五石五斗弐升七合三勺

右忠三郎儀農業ハ無懈怠相勤候而村役目等人ニ勝レ
叮嚀ニ相勤其上親江も孝心之趣相聞候ニ付相糺候処
別而日頃之行状之中ニも全正直ニ候而村方之者共名主之時分

両親江事ヘ至極懇ニ介抱いたし貧困之内ニも安食
之儀者存分致させ遣し候得共行末者両親之気ニ
背き候而ハ自ら事を平日農業ニ出候節ハ時々両親之
安否を伺ひ少し候親之不快之顔色有之と見候得ハ
外ニ不出ハ顔色之好きと見済して又農業ニ出申候
右等之性質ハ仮年貢収納之節ハ村中之者ニ先達し

村役所江出候而ハ外々之者ゟ一廉出精致し
諸事行届候ニ付出精仕候儀之寛政七卯年
為褒美米二俵被下置申候

同国同郡真如寺村
百姓　新吉
当巳五十五歳
持高弐石八斗壱升壱合
右新吉儀平日実情之者ニ而相励候付相続候處

村役人共申候者、新吉儀生来之初ニ而虚言と
不申、掟節大切ニ相守り、農業ハ不及申、出精、米貢ハ前
年々早ニ相納、村中之交り他人親類之隔なく
万事信實ニ致し、聊不束之者ニ無之候
右之趣ニ付、百姓共之励ニ茂可相成候、依之寛政元年
為褒美大麦壹俵被遣申候

同国同郡下涼野村
百姓
傳兵衛
当巳七拾一歳
同人養子
清蔵
当巳四拾二歳
持高五石四斗五升六合八夕

右傳兵衛儀、父子共ニ篤實者之由ニ付相糺候処
村役人共申立候ハ、左之通申候

一傳兵衛儀ハ小高之畑田計抱持、家内少き者ニて

一 百姓ハ得と兼て正直ニ有之候事第一之掟節要ニ候
家内睦敷互ニ禮義を正し候事在郷ニ而ハ
稀成者ニ候百姓ハ其處々耕作ニても父子家内共ニ
出精致し互ニ働候ハヽ衣食ニハ難渋之事も無之
仍之常年之年貢も一番ニ皆済致し傳馬役納ニ
米ハ俵迄も撰捨念入有之様致方其上米穀
不熟之年ニ至而も未進致し候事なく是全上を
大切ニ存し候ゟ常々之心懸宜しきの事ニ百姓之肝要
村方之内ニ而も一和成者ハ百姓ハ又村役目抔も大切ニ
相勤若村中ゟ所行不宜者ハ之支配之見候を
加へ候段自然ゟ一村中之和睦成候
一 養子遣候儀傳家督方ニ入家し聟ハ親を大切ニ

致し候事によらず親の心に背ける事無之

自然と父傳兵衛風儀ともおしも移る事なく追々ハ

家督を譲、家業之世話行届、両親睦敷暮し

由ニ而右之趣村役人并隣家之者共委く申候ニ付

依之文化五辰年右傳兵衛父子ニ而為褒美

大麦五俵差遣申候

同國同郡湊村

船頭　友四郎

當巳三拾四歳

持高七斗九合

右友四郎儀幼少より無極忠者ニ而親に孝行之心懸深

其外少しつゝ自分手元ゟ少々宛友之通し候

一友四郎幼少之時父ハ病死母壱人ニ而困窮ニ付

渡世致し来候友四郎追々成長ニ随ひ家業ニ精出し候ニ付

一切母しんニ不背女兄弟迄入候者有之候ハヽ其身も
睦敷衣食ハ勿論何事によらす母及ひ初而ニ
兄弟を一列ニ致し自分之我まゝなる者無し
兼食を食ひ家業ニ働を専一と致し候者は猶更
交り宜しく兄弟之人と口論抔一度も致す事なく
人とし喧嘩口論ニ携不申るして立寄候事無之都る

喧嘩致し候共是を静め候る遣ニ而候者ハ酒抔飲せ
気ニ入候様和らけさせて後ニ利害を説候ニ而宛
其者恥入て後ニハ友人口論其處ニ相済候之
自然る争ひ事も間ニおゐてハ又捉節之
勿論大切ニおゐる海濱ニ流れ寄る枯木ニても
自分ニ拾ひ取候事ハ致し無之候役人共ニ之

一去ル寛政十一年十一月廿日未明ゟ常之通漁猟ニ出候
処組之者渚ゟ出候処、同村之良助与申者之楫舟
有之候ニ付家移候得共財布壱ツ有之候ニ付上ケ
見候処銀子壱貫五百目入有之、船も良助財布ニ
見知候ニ付其船良助船仲津表ニ参候ニ付答候
藤四郎加子二居候与申者取扱候ニ付定与船ニ落し

置候よしニ而財布人々合漁猟を相止其儘右
楫舟を漕出し或ハ余程漕行候良助船も
漕戻り候ニ付財布を見セ候得共相違無之由ニ付
良助並ニ加子与申者ニ相渡し候ニ付右船之篤実
寄特成者也村役人并道庵ニ而委く承申候ニ
寛政十二申年為御褒美藤四郎ゟ鳥目壱貫文

若者共ニ而茂四郎が子ほと見事之者有

同年同日為褒美銭文若者共ニ而

同国上毛郡小祝浦

漁人 若三郎

当巳四拾六歳

持高無之候

右若三郎孝行者之趣去ル卯年相知候処

左之通ニ候

一 若三郎幼年之時父相果、母養育致し候処追々

成長ニ随ひ母ニ能ク事ヘ貧窮之内ゟ夜業ニ母ニ

見苦敷無之様相致し却而大切ニ心を附ケ食事抔ニも

母ニ好キ候品ニ候ハヽ廉食を給候得共夜ニ

相掛ケ母ニ為自分ハ相伴を致し少しも食を

不喰又中食夕飯ニ至迄支度を致し置漁猟ニ出

甚以氏神江祈所へし秘慶り候を無不届之
病起申之砌ち返し之候て鑑て祈念し候而明業
仲間之無拘て笑ひ候ヘ之又扨て稀ハ早晩ニも節之
毎之氣色甚之事と思召し候ハゝ継ひて稀にも船旨之
致し候者を何角申立無之是ハ只今迄ニ候而毎度させ申之

一 船仕舞致し候ハ又常之佛神と信仰致し漁稀ニも出候ニも
経を讀誦し候信心之験ニ而も致し申之
漁稀ニ而も他人之道扨御座候得共多くハ申之候
右之経村役人并講親之無之様ニ候ハゝ寛政七卯年
為廣候人并五貳俵差上申候

〇国〇郡〇浦
商人
新蔵
當巳五拾二歳
持高三斗七升六合四夕

右新規儀無之事ニ而孝心を有し候趣相聞候ニ付
相礼候處、又者通候儀ニ者

一 新規初メ候時分在中ニ而高田茶挽渡世致し
来候處、新規之人合高内林、無ニ者差障致セ候事ニ而早晩も
自分ニ相挽、其日過ひ候得共、水ニも渡世高ニ出候得共
隣家之者ニ而無之事氣を付て猶又取着隣合也
有之候處も是非共申返ニも得与一ト通申重
相頼候得共無之至極難儀ニて大ニ歎候ニ付
何事ニよらす候無之所ニ背候事無之家業出精ニ
働申候、右八浦役人并隣家之者共委細申候
寛政七卯年為褒美米弐俵差遣申候

同國同郡東下村

庄屋　庄内
當巳六拾六歳

持高六拾弐石六斗弐升六合壱勺

一　右庄内儀孝行者之趣承及候付相尋候処庄内儀数年大村庄屋役相勤来候処村中惣而貧窮之者多ク年貢収納ニ付而も未進候者有之候節ハ庄内身上ニも相應ニ貸遣候付貧窮之者ニハ取続出来候様ニ手當致遣し耕作不精ニ有之候者ハ庄内異見申し田畑をも見廻り篤ク世話致し自然と農業ニ勤候様ニ致候故村中庄屋も宜敷相成候ニ付其上親を大切ニ致萬事心掛宜敷者ニ候庄内者ハ父庄内存命之内生涯心掛申候元服迄ハ全子何年前ニ

其頃ハ夜中迄ゟ當庄内江申出并寛政之三亥年
取立候金子百両并在中江相渡候、右孫篤実ニ付
為勧善酒肴代并毛氈永代門構并年始
門松并在免除申候

同國同郡大村
百姓
孫左衛門
當巳四拾三歳
持高八石八斗三合弐勺

右孫左衛門儀篤実者ニ而農業出精致し當孫左衛門迄
三代之間年貢収納一ヶ年も不穏候、殊ニ先年番
皆済致し代々相続之實情之者ニ而少年ニ付
奇特ニ付為褒美金子弐百疋差遣申候

同國同郡八屋浦
漁人幸助妻
さ満
當巳五拾八歳
持高七斗九升

右さよ儀貞實之者ニ而十九才ニ而當年三拾弐歳ニ
幸助ニ嫁し翌春幸助眼病相煩ひ自程く
療養いたし同醫師之功無之故ニ盲目ニ而
困り候て十里二十里之處ニ而もさよ自分之夫を
業ヽ抹雖ニ其ニ往来致し候得共遂ニ能之無之ニ付
困りニ大社ニ立願致し其後幸助ニ手を引さ

右大社ニ順拜ニ罷出候處夫幸助無心盲人ニ
相成候得共邪路ニ及び候さよ日雇稼致し
夫養育仕ニ付未貞實之儀浦中ニ而無妻有之ニ
仍之寛政八辰年御褒美大麦弐俵被下置候

同国同郡當門村
百姓　治右衛門
當[illegible]六拾五歳
持高九石九斗九升三合九夕

右治兵衛儀生得實情者ニ而親ニ事ヘ叮嚀ニ致し
播州国え出稼ニ罷出候処先年生親亡ニ
不肖親ニ申付罷出候ハ妻要よく相守両親
果候以後ハ月之ニ幾度も墓ニ参り回向ニ罷越候と
治兵衛儀も只管實儀信心と申し致し候故
睦敷暮し村中之交りも厚く始終一筋之心得ニ

稀成神妙之者ニ候旨村役人共
迄講ニ之者ニ而孝心之處兼而遠近ニ而聞へ文化五辰年
為褒美大麦三俵差遣候

同國同郡薬師寺村
持高九斗九升六合八勺
百姓
市郎兵衛
当巳六拾九歳

右市郎兵衛儀幼年ゟ両親ニ離れ至而實儀成

性質之趣及聞候ニ付相糺候処、左之通ニ御座候

一 右□郎儀、元来小前之者ニ御座候得共、常々
兩親江孝心を尽し、親病氣之節抔ハ別而側を
不離介抱ニ念を入、薬餌等ニ至迄も身ニ引請、老父ハ
却而右ニ仕方、親共果候得共、葬式佛事等迄
叮嚀致し、神佛を敬致方ニ御座候、貧窮之暮ニ候得共
常々心不正之業而も無之、縦令差支之節ハ
銀子ニ他借致し候得共、節季ニ至り候ハヽ兼而以て不借返
約月之返済一度も申候期限も違候事無之
今日之村跡親孝特奇特之者ニ御座候ニ付、文化五辰年
為褒美大麦三俵差遣申候

一　同国企救郡小倉魚町二丁目
米屋吉七借家
勝花
当巳二拾八歳

右勝花儀孝心之趣ニ相聞候ニ付相糺候処、父文左衛門儀
勝花儀幼年ゟ母親ニ孝行ニ有之、十五歳ゟ父六十六歳之時
随ひ相遂、商物を荷ひ在中ニ罷出商売いたし、商物も
直段卸も高利を取不申、其上代ニ物買入候ニ付、尤
心を用ひ能々心を調へ売候故、自然と在中ニ而も
贔屓之者多く、商内繁昌致し候ニ付、然ル処七十六歳之時、老衰及ひ
足痛相煩候ニ付、勝花壱人ニ而商売いたし、相続致し来候
十七八歳よりも相応之事ニ而、足腐り田畑等之売買、又は六八人之者共ニ
小遣ひ致し、然る処相煩候内六十歳之時以来足痛烈しく
剰りも難相成、其上家内多人数之所、勝花壱人之

荷ハ高上ニ而ハ手傳も出来兼候程ニ御座候処父母之
申事を相守り益出精致し候而勿論朝夕之給物も
麁合ニ當り候故母親勝兵衛申候ハ其方米搗
者御働候得共米し販給候得共何分ニも申當候處
其後ハ夏冬ニ不限一夜逢候後之米し販給申候母も
持病ニ而も有之時ハ煩候得者早晩ニ而も家内之若ニ介抱

致させ候事なく勝兵衛自分ニ而便宜を与へ介抱致し申候
妹壹人有之候処近く縁組致せ又ハ年季奉公ニ出し其後方
奉行宿ニ有之候右之者儀ハ病性ニ而我儘成申候処
何事によらず始終氣ニ不入月並ニ酒好ニ付日々夜毎ニ
質入致候而酒を為給させ看病致し孝悌
篤實之志ニ御座候右之趣町役人共申立候者奇特成候

仍之享和二戌年十一月より褒美米五俵宛被下候

同国同郡東町拾丁目
桝屋 長次郎
当巳四拾二歳

右長次郎儀生得貞実者之趣相聞候ニ付
承糺候處左之通ニ御座候

一 長次郎儀元来日雇稼世渡之者ニ有之候得共
母江孝養月々常ニ念を入、平生孝心殊勝成段不申尽候
扨又妻も無之、平生不申候付妻縁を組候様町内之者共
相勧候得共、長次郎申候ハ、縁組候ハ、職業渡世之上
他人も増候へハ、支配之事を出来、有之、左候得ハ私在宿之
御座候得共、今日何ハ、頼之親族ニ及候而も何卒
母存命之内ハ私壱人ニ而ゆる／＼御世話いたし、母之不自由之

無之候ニ付、段々及見聞候処、私共ゟ世話致候町内ニハ
不及申、何れ之人ニ而も附合候者も相拘不申趣ニ而、篤与穿鑿
仕候処、右体之儀我等ニ而も致し候者共ゟ右之通町内ニ而ハ承
知罷在候も能存申候、依之文化二寅年十一月乃度奉申上候
申候

同四同行

古船場町

米屋文右衛門

京町三丁目

住吉屋音右衛門

同五丁目

久屋源右

田町四丁目

寶来屋武兵衛

室町四丁目

播磨屋善蔵

竪町

亀屋勘八郎

米町三丁目

萬屋継次郎

右之者ハ何事も篤實ニ而特ニ性質ニ而家業ニ厚余
常ニ出精致し高利を不貪猶又在中城下共ニ分チ
并ニ萬事商賣町内ニ而も及貧窮ニ而今日之産業も
出来兼候者有之を承及候得ハ猶々救ひ遣候ハ
或ハ日雇賃を貸し又ハ販米等も並ニ之直段合ハ

壱割も同様ニ相成候ニ付、事書持し共、此度急度
叱り置、申付候処、町役人共何れも存候
仍之吹聴之上、酒肴差出申候

同国同所奥町二丁目
米屋米蔵代
又七

右之者儀、米蔵方へ養子ニ参候処、当米蔵父
相果、当米蔵初而遣候、又七儀ハ同家之者ニ而困窮
候ニ付、家名相續可致旨、御自分之利徳ヲ
致し候処、数多之儀家内之者相守忠孝候
二付、此段承候町役人共、其外右之者
素行等ニ付候、吹聴之上、其町内之小年寄ニ申付候

同国同所京町壱丁目

蝋燭屋重助

同六丁目

専吉郎

島町四丁目

灰屋祥助

同町

津国屋弘八

奥町四丁目

山口屋治郎右

私領町

守口屋安兵衛

室町二丁目
紙屋忠作

大門町
守屋助次

京町六丁目
茶屋新蔵

同町
富士屋源右

右之者共兼々性質實体ニ有之家業方専一ニ出精致し商売之儀ハ代物も直段も廉ニ利を不取施しを好ミ貧窮之者を救ひ候段常ニ相聞候ニ付相糺候處相違無之旨町役人共申之

右講之老妻支配中ニ候之文化三寅年
十二月吹抜之上酒肴共差出申候
同国同所寶町四丁目
貝塚屋吉兵衛店住
分内
當巳四拾七歳
右分内儀生得實儀なるゝ之趣申候付

相糺候處左之通申立候
一分内儀豊後国東郡之者ニ而去ル卯年ゟ
吉兵衛方江奉公致し酒造方之働いたし當年迄
十五ヶ年相勤罷在初ゟ私儀丁寧なる致方ニ
候ニ付其後吉兵衛酒造相止メ酒場服方江
預ケ置候ニ付借受之分内と雇入候ニ付文邑へ

若黨方ゟ御通内外落日用之分を別
拵候人ニ見及神妙なるものと申候其後
又ゝ若黨ゟ酒場支度致し候得共不仕合ゟ
莫太之損毛有之本宅酒場共ニ他人ゟ借渡し
本宅之脇ニ狭き店ゟ有之書中ニ而借り候處若黨
家督忠吉迄来別ゟ病身ニ而殊渡世方も難出来

一 若黨ハ追々老衰ニ及ひ渡世方出来不申
家内極々困窮ニ当て候付今内日々東西致
難渋之並々実入之人を返かし又ハ不実より
浪交無之直入多候ハ、亥渡付其内ニ而究
其口浅候を嫌ひ其外ハ日雇稼致し貸札抔を
取り帰り若黨夫婦忠吉を養育致し極難貧ニ

於勤中ニ候ハゝ其處若為右躰之雑説於有之ハ
若者ハ本人不届身持されこそ暇差出候而も
家内之取締難成ハ付之候得共被申付主人草履
取儀ヘ申付候代之令ニ而其身不存不顧
共之主家之為ニ成候而事を生一己を捨可申候

一七ヶ年忘忠者書難儀ニ付可申家内親類中ニ

一気を請申候分内存寄之として不忠之神ニ
主人之疑を請候ハゝ其詮なき事ニ而御座候ハゝ其身を被
何事も飲候分内ニ而信實之不届之成候ハゝ其後
毎月七日一日ツゝ断食之心ニ而令節食被申候
仮之其日一日ツゝ荒働ハ不被申候若者ハ書
申候ハゝ其一日食事を不被下候而働を相止申候ハ

歌舞之本意ニ非ず申候而平日之通御申候

一 若年之痰症ニ而年中喘嗽絶なく
寒中抔ハ別而発起り難渋之様子ニ有之候時ハ
昼晩ニ而も夜半或ハ暁迄茂按摩抔取り
不怠看病致し候

一 右之通数年不怠実儀ニ勤候段奇特之儀甚以

如何ふしても不相分候付分門人としら見へ為よ
或時申候ハ是を方儀家事ニ而捨候ニ付今ニ妻
有之候而ハ始終之儀者如何ニ致様り為候ハヽ
幸ひ相応之者儀有之候ハヽ世話致し一生
不儀女之候ハヽ外方ニ宿縁令出し是方を抱へ
申出ニ申しものゝ老之候ハヽ先又世話致し

一老たるいしく賓しげに中候対しも合門中候共
夫ハ妻縁にて居候ニ付既ニ生而分も女兄弟ニ
親にて能後候ハゞ帰り異ハ候ハゞ毎ニ申述し候付候に
只今帰り候ハゞ御自分様方御老人事夫婦
御難儀にて候ニ付一向ニ夫ハ不申候を上若輩ニ付
只無ハ申ニ付の夫婦共ニ中風お煩ひ候子供ニても

云ハ御座候合門日ニ集り看病致し若輩ニ付居候ニ
世話致し申候

一夫ハ若輩ニ而御座候平日ニ格子戸ニ而付致し候處
自分端用ニ草鞋草履ニ而張置ニ候ニ而急ニ用事ニ
婦ニなりしき日扱ニ御分ニ仕り立れ無し申候處
濃布帷子を夜雨後ハ而も傘を不用竹築ニ而立ハ

微細ニ被仰付急度諸物ニ而身分不落様ニ被仰
付候ニ付テハ是迄町々ニ而抱候月行事ニ付ケ候儀ニ以
此上一途ニ相成候事ニ相成候深切被仰付候
一他事者勿論右之諸般町役人并家主共年寄共
引此度取存中候依之文化五辰年閏六月
為後證申合一札之儀差出申候

同国同郡新宮町壱丁目
鍵屋次郎右

同二丁目備前家
紫錦屋太郎倅
喜助

同八丁目
鍋屋吉兵衛倅
傳吉

舩頭町
大黒屋新兵衛

同町
豊後屋喜右衛門

同町
綿干屋治助

大坂町六丁目
新次郎

新奥町
忠兵衛

同人妻
ます

右之者共儀、兼而貞実ニ而家業出精致し
商ひ抱ニ而も利を不貪、兼而正直之趣相聞候ニ付
奉行所町役人共より相届候ニ付、文化五
辰年閏六月御聴ニ達し、酒肴被下置候

同姓近江守領分
豊前国上毛郡市丸村
百姓 忠兵衛
当辰五十七歳
持高拾壱石七斗七升五合九勺
右忠兵衛儀孝心之者之趣相聞候ニ付、相糺候処
左之通ニ御座候
一 忠兵衛儀幼年ニ而父ニ離れ、母之育を以生長候

一溫厚ニして子供ニ至迄外方ハ勿論何ニても睦ひ申候
引も自らを給不申持候直様母親江孝行致し候
母親ニ方ハ老人ニ而少々も隔候者頂ニ給候様致させ候
ニ儀ハ兄弟ハ御長設ニ益孝心深く一世三度く
食事進候様仕何ニても相逸候汁菜ハ聞ニ常ニ心を
農業出精致年貢ハ例年早皆済致

村役同來ニ而も人ニ陰乙相働き何事も心を済
村役人之世話成仕候ニ而神妙之者ニ而難給候
寛政七卯年為御褒美米二俵被下置候

同国同郡黒土村
百姓
新六
當巳七十一歳

持高七石八斗五升二合五勺

右新六儀常ニ孝心ニ而也ニ付

相紀候ハゝ左之通ニ可有之候

一新年常之農業成跡之第一様助豊相守
年貢収納之義ハ滞儀を務可　餘儀人請ヶ申切済し
申候又ハ新年初年ニ附ニ相果無ハ九十八歩を拾命致し候
母始命之内毎日朝夕養之孝を致ハ眷属ニて
追澤ニ致り或ハ母何を後せしと申付候得ハ農業致

打捨て先母之申付候ものを成弁し又或ハ何にても
何成とも好み候品成給度しと云ハゝ十里ある所へも
速よりて求メ来りて進メ候類ニハ凡ニ不背候得共
手傳ニ農業ハ成丈出精いたし申候平日之度々
食事ハ極貧ニ候ハ一汁一菜成間しく市町ニ
出候時ハ小肴干物にても求め帰りて母ニ進メなとして

心儀候はしめ母之儀兼て自分ニも文盲
類之縁ニ諸人ニも見及ヶ間敷其上親類共ニも
篤ク心掛申候家内ニても常ニ兼而宜敷取合
和睦して道よ一段者りをも世話致し候ニ付
其外方々申候ハ、平日孝心を尽し母之氣ニ
逆ひ候様成事無之取合自然与村々相ニ長命成

孫千代儀ハ農家之処補役ニ付右之村役人并近隣之者
共褒美申候依之寛政七卯年為御褒美米
二俵被遣申候

同国同郡同村

持高拾二石四斗四升二合四勺　百姓　常七

当巳六十四歳

右常七儀平日自分家業之間ニ提灯之内編

村役目ニ迄大切ニ相勤農業格別ニ出精致し
年貢収納之儀者縄俵迄念入年々無滞
皆済致し申候村中茅屋之中ニ而子供迄倹約相守
家内八人同居致し候得共常々篤実なる性斗
相続り候ニ付一同睦敷相暮し奇特者ニ付
去ル此村村役人并近隣之者相訳候得者何レも
無程存候ニ付宝暦七卯年為褒美米二俵
遣之申候

同国同郡古来村
百姓
庄兵衛
當巳六十二歳
持高拾二石七斗余

右庄兵衛儀親類共貧窮之者共ニ候所取続候様相計
年貢収納年々速ニ皆済致来り候上銭

定として村役目無大切ニ相勤申候ニ付去ル
御領主ゟ褒美ニ可遣筈之処父死して後母并ニ弟
後家等ニも別而厚く世話いたし申候中年ゟ不快ニ付
罷成り父伯母命ニ因り候而も大切ニ療治いたし候故母も
心安く暮し家内睦敷相暮候由ニ而年来奇特之者ニ
候処此度年来之孝行ニ付成丈ケ心掛候し

備り候段聞ニ及候奇特之者ニ付候由相聞候ニ付
相糺候処村方迄評判之者ニ付褒美被下候様
寛政七卯年為褒美米二俵被下之

同国同郡三郷村

百姓

持高七石七斗九升三合壱勺

甚蔵

去辰六十七歳

右甚蔵儀孝心之趣相聞候ニ付相糺候処

右之通ニ御座候

一 幼稚ニ而早ク母ニ離レ父継母を迎入レ候ニ付継母性質
悪敷して幼稚を悪ミ若キ子供ニ付多く者之候得共
幼稚之義なんとすへ 幼稚ニ悪事ナレとも気ニ逢せ候ニ付
父相果候後継母之自因ニ相成候得共朝夕之義ニ付而
難渋之上何事ニよらす次第ニ母ニ隨ひ挽候得共用ひ不相済候間

進テ継母も心ニ叶ひ候て幼稚常々村中ニも
其の人中ニハ 母も勝手弱キ而已思ひ打志候迄ニて
数ケ度申有無申何事も継母之腹ニ立候得共
幼稚ニて義ヲ違之言候得共何事も進テ成長致し申候
其後継母も相果且扨も年増ニ老衰ニ及耕作も
難成ニ付 御奉公ニ付年中村中之者ゟも存之

ニ付老若其外村中之者共も能覚へ耕作をも助ケ老
申ハ素ゟ年若之時ゟ年貢収納ニ年〻遅
皆済致し寄特之者共ニ出精いたし都而村役人并
近隣之者迄も能存候得ハ寛政七卯年為御褒美
米二俵被下置候

同国同郡岸井村
持高六石壱斗三升六合七夕　百姓
栄助
当巳三十四歳
右栄助儀惣而孝心者ニ而親ニ仕へ相続いたし候
右之通ニ御座候
一栄助儀年中農業出精ニ而何程之荒田ニ而も栄助
手ニ入候得ハ尽し候而作付いたし耕作出精ニ致し収納相増候

出来家有之候様ニ申習ハし候得共、日々稼仕よ
おゐて躰ニ付ても宿ニ帰り右親之様躰相伺ひ又田畑ニ
赴き候朝夕之薬水も自分ニ取賄食物之様も
介抱致させ候様心を用ひ年之半日ニて不怠相勤ニ
右親も心強安心して老後を送り候由右親追々老衰ニ
及ひ候ニ付追孫之老長米助へ妻縁取組之儀

相進メ候得共文吉不同心ニ付如何と尋候得ハ白
分幼少米助申ハ右親之有様ニ付右之人ハ吉
請と申も右親も気ニ入申間敷と
後ニ難渋致し候ハヽ他人之縁家ニ入ニ候て
若右親之気ニ入り申度候ハヽ就縁ニて右親之気ニ
入り候ても私気ニ入不申候得ハと存候て

両親ニ対し不孝致し候ハゝ不届至極之儀ハ勿論
家内睦敷無之覚束なき事故両親孝行之儀ハ私
心得親之心底安堵いたし候様申付置候者ニ有之
性質宜村中之者ともニ至迄大人ニ対して仮初にも
慮外致し候儀無之正路ニ相勤候様ニ付右之段奇特ニ付
文化六巳年為御褒美鳥目五貫文被下候

右之通申渡候以上

文化六己巳年十二月

小笠原大膳大夫家来

椿鋼叔（花押）

豊前国小倉領
奇特之者名面書

小笠原大膳大夫家来
猪飼叔述

小笠原大膳大夫領分
豊前國小倉室町弐丁目
住吉屋岩吉別家ニ而
同所同町
住吉屋
傳吉
當未四拾五歳
同四丁目
住吉屋
和助
當未六拾六歳

右安兵衛儀岩石屋岩吉祖父岡田儀左衛門と申
ものニ而幼年ゟ奉公仕其後役引家屋敷所持候処
一躰律儀ニ而当時岩吉儀幼少ニ付後見致
家内萬端貞實ニ心を付主家を大切ニ
相立候段町役人共ゟ申出候奇特之儀ニ付糺之上
当未年相應之褒美被遣申候

同国同所
大門町
守口屋
熊次郎
当未弐拾七歳

漆搗師町
釜屋
常蔵
当未弐拾弐歳

右之者共去未年若者ニ語、徒党致候商売向
出精いたし町内居合宜諸事身実ニ有之趣
町役人共申出候間紀之上当未年相応之褒美
差遣申候

同国同郡
赤池村
百姓
年左衛門
当未六拾八歳

右之者一躰清實ニ有之候上年来心懸宜候ニ付
年貢米之外米弐俵差出し候神妙之儀ニ付
当未年相応之褒美差遣申候

同国同郡
上今任村
百姓
市郎左衛門
当未四拾八歳

右之者家相續之砌迄ハ難澁之處去ル申年来
心懸近来悴共義生長いたし農業ハ方相勵
家内和熟ニ和睦右ニ付為冥加と有之年貢米
之外米壱俵差出之神妙之儀ニ付去年年
相聞之褒美ハ差遣之候

同國仲津郡
流末村
百姓
磯助
當未弐拾七歳

右之者一躰貧窮ニ有之去年秋年貢速ニ相納
其上為冥加と有之年貢米之外ニ米壱俵
差出神妙之儀ニ付相聞之褒美ハ差遣申候

右之通御座候以上

文化八辛未年

小笠原大膳大夫家来

猪飼叔親

奥平大膳大夫家来

孝行並奇特成者書上帳

奥平大膳大夫家来

小尾林蔵
文化四卯年八拾六歳ニ而死去仕候

同人妻
さ祢
寛政九巳年六拾二歳ニ而死去仕候

右之者母ニ事へ方並人ニ勝レ実躰之趣
相聞候ニ付右親林蔵義幼少ゟ孝行
之者ニ而不如意ニ相暮朝夕之渡世

并又は継母え世話致老母久く中風相煩其上
寄藥始ニ付夫役等迄も格別世話致候
不具之弟も介抱致候得共第之儀孤ニ付
より別而心を付當分歴は致方も親身
ゝる心を有道ゝ後先は得と永く
痛半付よ當方六ヶ敷ねより八奇特之趣
相聞候付天明五巳年褒美被下置候
同村 林右衛門 拾四歳
同 法印 四拾三歳

同足柄

百姓卯平次妻
うし
當巳四拾九歳

右之者姑え貞実ニ致世話候付相続
之處卯平次儀も母ニ而も姑母ニ而久く
中風相煩兼而短気有て介抱方六ヶ敷候
得共仏え参り候後ゝ卯平次儀世人

日勤之半夜ニ相勤居候処巳之去ル
去ル人ゟ永々病気ニ付暇被下方ニ
妻江相付寛政九巳年養子相続仕候
廿四ゟ
二拾七歳

同家来
磯田庫助
當巳五拾三歳

右者実母死去之砌当所町寄ニ而被
之叔母妻江相付支配ニ預ケ置候
他家へ嫁ニ而其儀ニ付當子迄も大概
有之其上列之勤方ニ付當時相勤居
実母去之実方之兄小松源三右衛門届置

方へ差出候ニ付毎日機嫌をも相伺寛政元
巳年より実母中風相煩候ニ付昼夜
母之病床ハ勿論ニ義母度等之世話迄も
行届候様自分之宅又者姉方中揃へも
二義病床中候者夜分揃を脊負候而
始末色々永々之病中至而奇特なる
致方ニ付寛政十一未年褒美銭被下之 当巳拾壱歳

同　家来

妻木啓蔵　當巳拾壱歳

右之者実父へ者奇特なる致方専要ニ付
相続候處妻木啓蔵養来唯ハ当方仕官ニ而
家老方へ相勤居候而も無之文蔵
生得酒好ニ而家業ニ而も無之不如意ニ而
不相当之廃義も有之ニ付啓蔵義理之者

家老之用向迄ニまて委細等いたし
其節刀を渡酒肴調夜分機嫌等まて心を盡し
之御相続気遣いなく当時一躰之行状
律儀ニ有之旁奇特之趣達ニ付
寛政十一未年褒美被下置候 此時右衛門三拾壱歳

同家来
亮苑文
武田文左衛門 當巳五拾五歳

右之者母江孝行之趣達ニ付相糺候處
家内大人数ニ而勝手向賄方無之不究竟
之者ニ有之候得共難渋之中より万事心を
相用母之気ニさからハぬ様諸事之親子之為
又ハ当人之儀ニ候得共右難渋家内大勢之取なし

一 弥之丞儀奇特ニ付寛政十一未年
褒美鳥目被下置候 此忰又兵衛 巳拾五歳

同 足姫

山本勘六 當巳六拾七歳

右之者老母へ叮嚀之取扱方ニ付相応ニ
之處右母及極老候ニ付勘六妻共須
拾弐三ヶ年前死去いたし夫より以来
朝夕之給物自身ニていたし幼少之娘共を
老母月仕日勤之中より為致之扱方奇特ニ

有之其上勤方も律義ニ相勤候ニ付寛政
十一未年褒美銀被下候 此時勤六 五拾七歳

同足軽
山本勤平 當巳六拾八歳

右之者從母ニ叮嚀ニ致世話候ニ付相續
之處右勤平義生得実体なる者ニ而
人附合等も柔和ニ有之右從母至而
我儘氣随ニ而以之外短氣ニさらひ候儀も
無之様世話致他人之交ニ而無恙安心も致候

妻も不遠方に衣類ハ自縫身分ニ衣服
等ハ自身洗濯等いたし日勤ニ并
より万事奇特之致方ニ付寛政十二
申年褒美被下之（此時勤年五拾九歳）

同家来
中山孫郎妻
津ゝ
当巳二拾壱歳

右之者兼而貞実なる趣相聞江候ニ付相糺
孫郎祖母中症相煩候処不叶ニ付去亥七八年
以前より廉直津ゝ親切ニ看病致候処
追々老耄いたし無理なる義有之時ゝ中心雖居
さゝつ八年孫郎義も勤向之第ゝ出居

之儀少も厭ひ候者無之右ニ付猶更酒抔等ハ
勿論毎度之所業何角至而叮嚀ニ
之取扱奇特なる者ニ付遠藤江之付
文化三寅年七月褒美銀遣ス 貳拾八歳

同足軽
三宅薫平
當巳三拾四歳

右之者老母へ叮嚀ニ致世話候ニ付
之處右母無而病身ニ有之ニ付日頃
之年より朝夕之世帯等も母之手を
掛させ不申出入ニも万事心を附け其身を
不厭至極実躰之致方有之文化弐卯年

褒美銀被下之　此時寅年之拾弐歳

同家来

服部嘉兵衛　当巳七拾壱歳

右之者親へ孝心之趣相聞候付相糺候処
父太郎左衛門八拾余歳ニ相成持病之疝
積ニ而難儀致候節者夜中ニ不限看病致
志常々世話致候上、其上ニ而当耳遠ニ而
朝夕之出入ニも挨拶等致、尚更無音

奇麗好之手跡茂多ニ浪之浄瑠璃等
之儀書読候ニ付教方丁寧ニ而暫代
まても習ひ致せし由親子之者申候
右之始末勤方烈しく从役前中村並ニ知
奇特之致方有之ニ付文化六巳卯年褒美
差遣ニ付 巳年附壱人 巳拾九歳

同水呑
右畑治兵衛妻
いし
當巳三拾八歳
右之者舅姑ニ貞実之趣奉行ニ付
相親ニ而處相親候ニ付極老之上中症而
其須一両年病身ニ付其身姑之無自
氣随而起きもり両便等迄も世話
多有之節も悪日之趣始末認ニ而いたし

當村初而之子供貳人共ニ德行有之
得と諭し置候義看病等よく勤方別而ニ
し候とハ、男為面ニ付右躰ハし其人々
働ニ而暑寒ニいとひなく奇特之致方
有之ニ付文化巳卯年褒美為取之
附せい
三拾八歳

同家来

中西彦作抱
同　里
當巳三拾二歳

右之者姑ハ半ハ方正敷ニ付於親類而縁
ニ而無之那須治右衛門方江仕等も心懸
まく也次第多く姑右外迄年老甚いし
其之病苦ニ而并度等ニ取賄来近他へ
手よくけさせ常ニ右ニ而猶ニ而取扱

其外万事心ニ付世話致方ニ重
随而舅姑夫婦之者共も実躰ニ相稼
候是も親方江厚孝養ニ付文化五辰年
褒美為鳥目被下 〔村方之重 五拾之歳〕

右之通御座候以上

文化六巳年十二月

奥平大膳大夫家来

筑紫是助

奥平大膳大夫領分在町
寛政ニ被書上洩候分

孝行并奇特成者書上帳

奥平大膳大夫領分
備後国神石郡永野村
百姓
長三郎
持高并年齢及死去
仕候年月不相知

右之者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
之処無筆ニ而貧しく暮候得共諸人ニ相勝
生得実躰なる者ニ而極老之父母へ孝養いたし
平日之行状穏なる者ニ而万事諸人之

手本ニ可相成者ニ有之、田畑農業
并稼等無怠出精いたし、衣食等不自由
不致様心を付、律義ニ而奇特なるものにて
孝心ニ付遂詮議候ニ付、享保五子年九月
褒美被下置候

豊前国宇佐郡釜口村
百姓
持高五石弐斗弐升八合　新平
明和六丑年八拾五歳ニ而死去仕候

右之者孝心之段村役人共申出候ニ付相糺候
之処、生得実体なる者ニ而諸人ニ相勤候旨
公儀を大切ニいたし、極老之父ハ孝養いたし
平日之行状誠ニ稀なる者ニ而万事諸人之

年来右之様成者ニ有之、勿論農業ニ無
懈怠出精いたし可也ニ渡世いたし罷
在、自ら奇特なることゝみえて孝心ニ擢遠候ニ
付、享保六丑年十月村役人召連、城下へ
呼出、孝行奇特之持高之分諸役
生涯免除申付、尚當社之褒美被下置候 此時年三拾六歳

越後國汁石新牧村
百姓 六三郎 年齢不知 明和五子年七月死去仕候

持高拾壱石七斗

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處、兼而諸人ニ相尋候も実体なる者ニて
罷在、丁寧ニ父母へ孝へ、勿論農業ニ無懈怠
出精いたし候而可也ニ渡世衣食等ニ至

無之相応いたし平日之行状穏なる之由ニ
有之殊奇特なる者ニは遠路を厭ニ付
享保十四酉年十月褒美銀被下之 此時六十二歳 年齢不知

筑前国怡土郡神在村
百姓
持高拾四石九斗四升八合 市兵衛
延享元子年六拾壱歳ニ而死去仕候

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而実躰なる者ニて父母へ至而孝心ニ而
衣食等之義も心を付せ不自由無之様いたし
勿論農業出精いたし一日も農業へ

ニおゐて諸出入少も父母之安否を気遣ひ
尚又病身等ニて御擁他行いたし候而茂
於旅毎ニ付返留守致候段源之ニ候義ニ而父母
安気致させ候仍状奇特なる者ニ付御褒
美被下候享保十九寅年二月褒美遣之　但附市郎兵衛　四拾六歳

筑前国怡土郡神在村
百姓
八郎兵衛後家
文六　寛延二未年六拾七歳ニ而死去仕候

孝行

右之者主人を大切ニいたし候旨村役人
訴出候ニ付相糺候処無面実体なる者ニて一円
主人之為を存農業ニ而出精いたし候処

其頃安永二年より續て四方出稼して古後家
困窮におよひ難儀に成しを誠に一日成
とも怠らす育くみ昼夜をわかたす次て稼
き見えしを主人の例にも及ひ格別之苦難
奇特なる者とて遠諸在に付享保十九
寅ノ年二月褒美取らせ遣し候 此時文六五拾壹歳

豊前國宇佐郡上矢部村
百姓
伝兵衛妻
持高三石壹斗六合九夕
いち
明和五子年十月六拾八歳にて死去仕候

右者孝心貞節之趣村役人訴出候に付
御糺候處伝兵衛義持高九石餘所持同人合三
伝兵衛も齢四拾有餘之者にて常々病身

並着甚須七ヶ年以前より眼病發し
既ニ當歳雑ニ相成候ニ付、いち所茂ニ厭ひ寧ゟ
介抱いたし居候処、添甚清母齢ひ七拾余ニ而
甚弱ニ付、五ヶ年前方より眼病相成療治不叶
終ニ去ル冬ゟ相成候其上添甚清弟今二六歳者
足又甚須三ヶ年前より兄ゟ同病ニ而渡世茂
不相成追々困窮ニ相成取持いたし居候ニ付
田畑茂殘く質物ニ入置當時ハ他所茂
惠地ニ出居候ニ付、いち獨り身ニ而身命を抱
相働諸稼等之次之人々者を凌當月ニし
此等者看病いたし、諸費之儀貧家之上
女之事業ニ候ニ付、幾重ニも追日之しく相成
甚苦しき極難渋ニ而、誠ニ一日も難相凌
當時ニ付、いち少茂不厭之人々介抱所茂ニ奉
懇意ニ相頼候其内農作之隙ニ茂薪を伐採
所々ニ至り賃銭茂隔以凌ぎ、錢を以ル宿ニ仕ル

市へ出足を売其價少て　糠麦等求め渡
夜ともに人に雇はれ僅の賃銭を取色々と営漸く
飢渇を凌凌中は其子辛苦等苦可愉方無之
不其勞見る小は不悪過に此親里へ働今く
辛苦する程其身を多年く労を可慰由無之
勤は物を言す寂寞得ず却る天命定業の理を
解はる益負擽不撓親を扶持し或年正月
大雪降りし時も市へ出はに半出来兼候に付ても
可作の術もなく家に在り秋の掛銭は僅にして
備史に給を求めおく究益に載せ初春の礼
とて家並に配は廻返村の者ども嫌く
果て其施は是非も無く飢を為凌は半も有は
送て不其勞死去し毎しは其は哀哭見るに
不堪を其父に出は其後親類への憐より
不其勞先達て見る唯は上も足ぬ親里へ
海は程つく未勤はも左姑小男病身なるを

可見総とのも無之甚以一旦親方相続罷
権延候得共本家より次とて孫丹誠を
尽し孝養は勿論其外常々農業
手稼等昼夜をも不言心懸出精いたし
孫養病中より貸物ニ入置候田畑何年
請返候故幼年精力を励御年貢
窮ニ人を是し其後状ともう申是世話
少茂相違無之候給宝暦元酉年七月

御褒美銀三枚被下之（此時いち三拾壱歳）尚又同年九月賞し合
請候同いち生涯無程中付其後又々孫増
孝養は勿論いたし候ニ付右名同村役人へ
差遣させ城下へ呼出し孝貞奇特之趣
之次第尚又御褒美銀三枚被下其孫村役人へ茂
いち儀も請人いたし候ニ付もも御褒美
有之候時其後之御事別之事ニ付嫌之事
御領中之名前有之候早速可申出

之旨申渡并其後倅共ゟ申出候村役人
申出ニ付右いち生国同郡猪須宮佐村ニ出生
之處右之趣相續人茂無之ニ付持田畑
好身之者江相渡可然者等吟味之上以
之儀申渡置候文化己卯年尚又申渡遂
吟味候處右者負之儀ニ付且吉蔵人ゟ茂
可申段申立石衛門迄を差遣し候而右之状
多田畑も御免同村同字小坂下りとゝ申地ニ
譲り候段申付置候處ニ付右いち
血縁之者茂有之候ハ、跡株取可取建旨
尚又遂吟味候處近親之者茂無之候ニ付與得
百姓傳蔵ト申者いちを相續之者ニ有之ニ
之付当着二男亀松と申者江同年八月
以来跡式相續為致家作竹木並之諸
道具持田畑分相渡其餘質地請返料
並農具牛馬料并宛として銀子等

格別ニ善事ニ候亀松殿御褒美白銀被
下させ候

豊前国下毛郡野路村
百姓
茂七妻
ふち
享和二戌年
七拾又歳ニ而
死去仕候

持高ニ石弐斗

右者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候處
兼而貞實ニ有之姑ニ孝行ニ而小事ニ而も夫
茂七儀生得人柄宜敷者ニ而隣家隣家

有之節右妻嫁候而より自我ら病走り
夫婦ともニ母へ丁寧ニ仕へ候ニ付隣家之
交茂厚其外為近邊之女童迄風俗相直り
其為奇特なる者与相違無之候ニ付宝暦
十三年二月褒美為取候（此時ふち二拾五歳）其後相渕節
右姑死去致し候後尚又叔母七へ丁寧よ致し候
ニ付又々寛政八辰年褒美為取候（此時ふち六拾九歳）

豊前国下毛郡助新村
百姓
三六（享和三亥年七拾四歳ニ而死去仕候）
持高三斗

右者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
處貧しく相暮初年より奉公稼いたし
居候處父母へ兼而丁寧ニ仕へ候處父死去致し
相残候母へ弥増丁寧ニいたし其上先より

日々に商ひし、其中より衣食等ことに母
不自由なきやうに心を用ひ、昼夜等も自身そはを
ふ厭ひなく用ひし、兎角和らかに母へ為悦候事
為孝養候状奇特なる者にて孝道無怠候付
宝暦十二年年十二月褒美として銀を給ふ（此時三十六 三拾二歳）其後
不相変孝養叮嚀によくいたし候に付、猶孝養仕候に付又寛政
八辰年褒美として銀を給ふ（此時三十六 又拾九歳）

豊前国下毛郡下伊藤田村

百姓

持高弐石七斗弐升

卯平（寛政二戌年 又拾七歳にて 死去仕候）

右者孝心にて惣村役人共申出候に付相糺候
処兼る実躰なる者にて、父死去の後は母へよく
孝養いたし、極老の父へは兼る叮嚀に仕来、朝夕
食物等ことに母不自由なきやうに心を用ひ、若

右之者酒好ニ有之候而素貧窮ニ而
價等ニ而ニも候間次候而農業之勿論
相励其隙ニハ日雇ニ而稼其上夜分ニ
縄をおよひ候迄も手揃い無之程ニ
出精い無之候而ニ絶酒を求め為致色
並困物等之儀も此度候而其上夜等
段夜なと又妻又ハ自分孔ニ酒い無之め
老しに出来難有特ニ而候者ニ付遂候處候而
七歳年三月廣長…

此内卯年
三拾七歳

豊前国宇佐郡大副村

百姓
利兵衛妻
こよ

安永七戌年
五拾五歳ニ而
死去仕候

持高弐石七斗

右者貞心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
之処兼而諸人ニ相勤ニ付貞実ニ有之候処
夫利兵衛儀其頃弐拾ケ年程相煩其中七ケ
年来夫之起臥茂不叶病気共ニ初終手ニ而介抱候

渡世迫之極難渋ニ付於私共ニも所茂
之宛多年之看病昼夜之交灘迄等閑
叮嚀ニ及抱いたし其際ニも農業乃ひ
手織等昼夜と且々も渋出精いたし薬用等
之後養困窮之身ニ而手より女之手業ニ而稼之
作男ニいたし丹誠を尽し叮嚀ニ及抱いたし候
右様寄特なる者ニ付御褒美銀下置候ニ付明和
七寅年二月御褒美取之候ニ付（此時之より七拾歳）
筑前国鞍手郡波多村

治高
百姓
八百吉
（寛政二戌年四拾壱歳ニ而死去仕候）

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺
候処、貧しく相暮其上病身なる老母ニ而
農業茂人並ニ出来兼候ニ付家業樹稼子
之類茂拾ひ売いたし、平日実体なる者ニ而

父母江常々丁寧ニ仕候事ハ勿論、極困窮ニ而
候得共自分ハ粗食いたし父母江ハ種々作り
差置候品相求いたし候而、其上為相慰候処
自身も酒好ニ候得共右之通聊不給候
然処父母ハ色々もつれ候而、殊ニ究
酒好ニ而及毎々母眼病相煩候ニ付、同国甲良郡
之医師共相頼遠路之処ニ而も罷越薬相整
候段服薬等之儀其外何々丁寧ニ致し
いたし候以之外奇特なる者ニ付、褒美遣候
付、明和七寅年褒美金壱両遣之 此分八百匁 弐拾壱歳

豊前国中津城下
堀川町
商人
重松屋
喜兵衛
年齢[illegible]
[illegible]

右之者兼而親へ孝之方宜敷町役人共訴出
ニ付去乱[illegible]極不勝手ニ付去寒[illegible]
甚し[illegible]分其身を給之[illegible]

居候得共親ニ者布子を為着親ニハ中皮之衣も
為着申事も無之親共迄誉候得共申候由
妻持候後茂人数も相増親之介抱
之節ハ先ニ何よりも申妻茂不違背
寄特成者ニ付遂吟味候ニ付明和七
寅年褒美被下候

此時善兵衛
年齢不相知

豊前国下毛郡大池村
百姓
茂兵衛

享和二戌年
拾七歳ニ而
死去仕候

持高七石八斗

右者孝心之趣村役人願出候ニ付相糺候
之處無違ニ候者人ニ而相糺候実体なる者ニ而
幼年より父母へ至而孝ニ而事へ万事
父母之命を背候儀無之勿論農業無

手稼等昼夜之無差別出精いたし衣
食等呈露之憂無之様叮嚀ニ心懸候ニ付
孝躰奇特なる者ニ付領主より安永
七戌年三月褒美として米遣之 此時[illegible] 弐拾七歳

豊前国宇佐郡上高家村
百姓 甚吉 当巳七拾壱歳
持高六石八斗

右甚吉儀孝心之趣村役人訴出候ニ付承紀候
処兼而実躰なる者ニ而父母へ至而
叮嚀ニ仕就中母長病相煩其頃拾年程
起臥不成之病ニ候得共数年之間他行も不致
別看病致妻子ニも不任自丹誠を尽し

叮嚀ニ扱ひいたし、勿論農業出精
いたし、日々の稼ニ而得候而も食料分ニ成
丈ケ魚類ニ而食物等ニは心を付差出
両親扱ひ一同大切ニいたし、薄暮ニ及
候頃ニ而寺抔へ連参、病苦を慰候様いたし
其後父母死去いたし、跡残候父へ猶叮嚀ニ
事へ候、奇特なる者ニ付、遂糺候
ニ付、安永四未年褒美遣之 此時志吉三拾二歳

豊前国下毛郡中畑村

持高弐石弐斗七升弐合

百姓 甚之丞 寛政七卯年五拾八歳ニ而死去仕候

右之者孝心之趣、村役人訴出候付、承糺候処
兼而実体なる者ニて、若年之頃より叮嚀ニ
事へ、朝夕食物等を貢ぎ、昼中より稼之
心を付差出、叮嚀ニいたし、其後自身妻子迄茂

其風儀押移り家内一統右躰ニいたし
自海農業出精其暇ニも色々手稼等
いたし其代を以衣食等全ままも不自由
無之様いたし右躰奇特なる者ニ擢遣居
ニ付天明元丑年十二月褒美遣置候（此時甚之丞三拾歳）

豊前国中津城下
新博多町
商人
松中屋
幸助
當巳年拾八歳

右之者兼々実躰ニ致町役人而出候ニ付
親并老母江孝心ニ有之老母儀去
病身ニ而家業尚又右躰ニ取扱其外他人

之交茂正業奇特なる者ニ付褒美遣置候
ニ付天明元丑年褒美為取候（此時者七拾歳）

豊前国中津城下
米町出町
商人
松本屋
吉兵衛（寛政五丑年十月六拾八歳ニ而死去仕）

右之者親へ事へ方正敷町役人訴出ニ付
相糺候処兼而実躰なる者ニて何角渡世
孝心なる者ニ付褒美遣置候ニ付天明元

丑年褒美人名書ニ 此時吉五郎 又拾六歳

豊前国中津城下
豊後町
商人
米屋文七悴
源吉
天明五巳年
死去仕候年齢
不相知

右之者兼而親ニ孝心之趣町役人訴出候
ニ付相糺候処何角行届孝心なる者ニ
相違無之候ニ付天明四辰年褒美

若吉　廿村源吉
年齢不知

豊前国中津城下
角木町
商人
広津屋吉兵衛悴
文蔵
寛政五丑年
二拾歳ニ而死去
仕候

右者孝心之趣町役人申出候ニ付相糺候
之處無高ニ而実体なる者ニ而夜分等茂
外出不致段且父母へ孝心ニ而他人之交も

近来奇特なる者ニ相違無之ニ付
天明四辰年褒美被下置之
亡父附文蔵
弐拾歳

豊前国下毛郡大野村
百姓
持高壱石弐斗八升余　萬蔵
当巳六拾九歳

右者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺
候処至而実躰なる者ニ而極老之母へ
万端叮嚀ニ事へ衣食等も貢し日中
稼之者も見ハ無之尤よく存ル自由
致候儀も津出向編農業等ハ手本ニ相成

農業出精いたし尚又家内睦しく鄰家
との交も厚有之段奇特なる者ニ付遠
藤但馬守寛政元酉年有褒美遣之 附彦兵衛 六拾九歳

豊前国宇佐郡上田河原村
百姓 磯重
當巳七拾壱歳
持高弐石三斗九升
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處至而貧しく相暮候処極老之父母
へ常ニ丁寧小事ニ而も細心農業出精
いたし夜分等ハ深更ニおよひ候迄も稼置
暇なし稼き相働候ニ而衣食等不足なく

憂を払ひ無く居候処父死去いたし其後
母へ深切ニ孝養尽し候処母老病発し臥
自由難成有之候処尚又深切ニ介抱
いたし薬用等成田寺の中より種々
心を配り其上夜等ニも自身抱ニ添寝いたし
寝させ候右躰奇特なる者ニ付褒美遣候
三府寛政元酉年五月褒美遣候 此時歳五拾壱歳

豊前国宇佐郡奥之府村
百姓 助蔵妻
いろ 寛政十午年 六拾八歳ニ而 死去仕候
持高壱斗六升
右之者貞心之趣村役人訴出候ニ付相糺
候処無高貧しく其上夫助蔵義長病
ニ而甚煩ニ付年来臥居候ニ付介抱追々
必至と難渋ニ付右いろ儀ハ厳敷候

交灘迄村々ゟ召抱候而漁農業無
手稼等昼夜之無差別相働其餘ニ者
近邊江日雇稼ニ出候者貸銭・薬用等
被差出且誠ニ差支候ハ召抱候而渡方
何分手厚ニ致し候処貧窮ゟ逃り候もの有之
ニ付右者共ニ無益員操出等自分ニ献事之
目ニ近村ハ袖乞ゟ出候者ニ当ス之月ニ行
前書之者共ゟ褒美佐之付寛政元
酉年五月褒美として青銅 此附いろ 弐拾八歳 尚又其後ニ者
村々ゟ召抱候ニ付同八辰年又々
褒美として青銅 此附いろ 三拾又歳

豊前国下毛郡大野村
百姓 文次郎
當巳年拾弐歳

持高九斗弐升壱合八夕

右之者奇特なる趣村役人共申出候ニ付相糺候
ニ相違無之貧しく暮候得共生得実躰
なる者ニ而極老之伯母有之病身ニ而老者
不仕合之者ニ而其頃六ヶ年来家内ニ残
死絶候ニよるへもなく乏しく相営

ニ生れ右文次郎儀貧窮之中ニ
而父親同様ニ丁寧ニ致介抱農業
諸稼等無懈怠出精いたし衣食等宛置
之憂無之様いたし候段奇特なる者ニ遣
候旨被仰付寛政元酉年五月褒美為取之
此時文次郎 二拾弐歳

豊前国宇佐郡下矢部村
百姓 久右衛門 當巳七拾六歳
持高弐拾弐石九斗八升
五合七夕
同人妻
つね 當巳五拾八歳
右之者兼而孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺
之処無相違諸人ニ相尋候生得実躰なる
ものニ而父母へ至而丁寧ニ事ハ勿論農業

出精いたし可也渡世いたし候ニ付衣食
之憂茂無之然ル父母ハ食物等別ニ拵
為給尚又起臥茂叮嚀ニ取扱諸事父母之
義を大切ニ仕候者一もいたし候也近所之人々感心
致取扱其上旅籠屋勤方出精いたし　村中
極難之者も有之候得者施を被遣方便ニ茂致遣
承知いたし候由村中并組合近所之寺
奇特なる者ニ相違無之ニ付賞美致し
戌年三月褒美として遣之　此時父[illegible]六拾七歳　同　つね　弐拾九歳

豊前國宇佐郡浜田村

百姓

忠兵衛倅

奇篤　傳蔵

當巳七拾壱歳

右之者主人江大切ニいたし候ニ付村役人

訴出候ニ付奉公致初メより右忠兵衛方江

其頃迄三拾八ヶ年程奉公いたし候

実躰なる者ニ而数年之間農業を無油

諸稼等迄無油断出精いたし候ニ付忠孝之
道ニ相叶候処追々相勝レ小前之者迄年来
孫合等茂消遣無之実躰ニ而相続候処夫ニ而相続
候実体ニ而相続主人之為ニ一ヶ所懸候ニ付
夫妻共病身ニ而平生添不増貧窮ニ付
相成候ニ付自身耶識之縁もいたし居候一回ニ
主人之大切ニ存丹誠を尽し相勤候文
其勝ニ付被下置候ニ付致相勤候ニ付寄特
なる者ニ付御褒美被下置候付寛政二戌年
三月褒美として銀 此時何歳 文拾弐歳

豊前国宇佐郡小山村
百姓　安右衛門
當巳五拾四歳

持高拾五石八斗

右之者孝心之趣村役人并出役江付相糺候
之処無る諸人ニ抜群之実ハ称る者ニ而
父母へ至る叮嚀ニ事へ初年より父母之
命を背候儀無之勿論農業無怠出精いたし
衣食等寒暑之憂無之様叮嚀にいたし候

ニ付自然妻子迄其風義相移り家内
一統萬事懇勤ニいたし候段相聞候段
奇特なる者ニ付遂吟味候処ニ付寛政
二戌年三月褒美銀被下候 此時安兵衛三拾五歳

右之通御座候以上
文化六巳年十二月
奥平大膳大夫家来
筑紫某是助

奥平大膳大夫在所

孝行并奇特成者書上帳

奥平大膳大夫家来
筑紫是助

奥平大膳大夫領分

豊前国下毛郡[illegible]村

百姓

持高五斗余

鶴松

当未十五歳

右之者奇特なる趣村役人訴出候ニ付相糺候

之処幼少之節両親死去いたし祖母之養育

父追々農業出精いたし年貢諸役目等
村役人之世話ニ不成其上太祖母をも丁寧ニ
取扱老年まて孝寄特なる者ニ相違無之
此段ニ付文化六巳年正月褒美為取之
洪内鶴松
十二歳

豊前国下毛郡上之永村
百姓　順蔵
当未二十六歳
持高四石六斗
右之者孝心之趣村役人ゟ訴出ニ付相糺候
之処至而実躰なる者ニ有之父母并祖母へ
孝向丁寧ニ仕へ農業出精いたし候段奇特

なる者に付遠方吉郎ニ付文化六巳年正月
褒美被下置候 当村政蔵 二十三歳

持高七石壱斗壱升
豊前国下毛郡深水山村
百姓
文次郎
当未五十六歳

右之者無之趣村役人訴出候ニ付相紀候
処、篤実成者ニ有之農業出精
いたし両親存生之内兎角可く孝ニ而

く手稼等昼夜之不分相励ミ重奇特成る
者ニ付遂言上候ニ付文化六巳年御褒美被下置候 附文ニ有 二十四歳

豊前国下毛郡加来村
百姓
順吉妹
とミ
当未二十八歳

持高六斗余

右之者奇特なる趣村役人訴出候ニ付相糺候
処兄順吉病身ニ有之候故其上稼等
いたし町場小商農業出精いたし

家苗相續之儀を相考へ縁付等も致す
奇特なる者ニ付為御褒美青銅三貫文文化六巳年
五月褒美遣之　二十六歳

持高拾八石九斗余
豊前國宇佐郡上拝田村
百姓
次郎兵衛妻
志を　當未三十九歳
右之者孝心之趣村役人共申出ニ付相糺候
之處篤實ニ而舅夫へ事へ舅利兵衛
久しく病氣之上ニ中痛食物等進之

並ニ付薬用之儀者勿論看病等之儀も深切ニ致させ
昼夜叮嚀ニ介抱いたし候ニ付、奇特成る
者ニ付遠江守方ゟ文化六巳年六月
褒美遣之

沢村志左衛門
巳十七歳

豊前国宇佐郡寒水村
百姓
與三郎
当未四十歳

持高五石七斗八升余

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處、父者眼病相煩盲目ニ而相ならす致難儀ニ付
孝心之深く、別而叮嚀ニ仕、尚又農業出精

いたし家内睦敷奇特なる者之由達
御聴候ニ付文化六巳年十二月褒美として為取之　此時与四郎　三十八歳

豊前国宇佐郡小稲村
百姓
金蔵　当未年十六歳

持高拾石壱斗余

右之者孝心之上ニ村役人并出役相勤候
ニ而両親へ至而丁寧小事へ其上農業
念入り出精いたし諸役目等村役人

世話よく致し家内睦敷育候段相達奇特ニ付

文化六巳年六月褒美又若松江 此時金左衛門四十四歳

豊前国宇佐郡上西恵良村

百姓

喜蔵

当未年十七歳

持高七石九斗

右之者孝心之趣村役人共申出ニ付相糺候

処無高ニ而実躰なる者ニ而孝身ハ丁寧ニ

其上父大病老母ニ病身ニ而別而介抱薬用等世話致

行届其上家内睦敷農業出精いたし候

遂 上聞文化元子年六月褒美として遣す

此時吉蔵

四十六歳

持高四石四斗九升余

豊前国宇佐郡下矢部村

百姓

唯吉

当未二十八歳

右之者孝心之趣村役人許出候有之紀

之處至而実躰なる者ニて有之農業稼方専

相入り困窮之中より老母ニ事へ給物等

候を法帯相進候段奇特なる者ニ付遣ニ
御代官所ニ文化六巳年八月為褒美大小麦等
差遣之 此村唯吉 二十六歳

豊前国下毛郡万田村
百姓
治兵衛
当未二十九歳

持高弐石五斗

右之者孝心之趣村役人訴出江府相聞
之躰、畠而困窮ニて村内へ日分稼いたし
其稼賃を以母親之好物等之を法帯相調ニ

事ニ致奇特なる者ニ付、於遠當在ニ而右之上候、
巳年十二月褒美として石者
此附治諸　二十九歳

豊前国下毛郡高瀬村
百姓
持高六石余
権七
当未三十四歳

右之者兼而実躰ニ而村役人江申出ニ付
相続之為農業出精いたし田畑追々相増
年貢諸役目等相勤候段奇特なる者ニ

御返済等相済候ニ付文化六巳年褒美被下置 此時拾七 二十二歳

豊前国宇佐郡森村

百姓

金作

当未四十六歳

持高拾七石四斗余

右之者篤与実躰之趣村役人訴出候ニ付相糺候

処常々農業出精いたし田畑追々相増年貢

諸役目等相勤候段奇特なる者ニ付御返済

當巳二月文化六巳年褒美五石差 此附合作 四十二歳

豊前國宇佐郡六郎丸村

庄屋

竹屋

當未四十七歳

持高拾五石余

右之者篤實躰ニ而村役人申出ニ付相勤

ニ而役方並入用村方之締正算事行届候

奇特なる者ニ付遂詮議當巳二月文化六巳年

褒美被下置

同村[illegible]
三十九歳

持高八石七斗余

豊前国宇佐郡恵良村
庄屋
喜三郎
当未四十二歳

右之者兼而実躰ニ而村役人許出精いたし候ニ付
之儀役方へ入り村方取締方諸事行届
候段奇特なる者ニ付遂吟味候処文化六

巳年寝〆人足書　此附壱人前　四十四歳

豊前国宇佐郡[illegible]村

庄屋

信蔵　當未四十七歳

持高拾壱石九斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人許出ニ付

私組惣代役方并入り村方取締世話事

別而庄屋寄特なる者ニ而[illegible]遣[illegible]ニ付

文化六巳年褒美之者左ニ 此内仕置 平十二歳

持高拾弐石八斗余

豊前国宇佐郡板場村

庄屋

谷蔵 當年六十七歳

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候ニ付

相糺候處兼々役方念入り村方取締宜万事

行届候段奇特なる者ニ付御褒美被下之ニ付

文化六巳年褒美被下置候者　此附公儀へ　六十二歳

豊前国宇佐郡妻垣村

百姓

忠五郎　當巳二十二歳

持高七石弐斗余

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候ニ付

相糺候処農業出精いたし年貢諸役

等相励候段奇特なる者ニ付相違無之候ニ付

文化六巳年褒美名書　并持高年齢

豊前国宇佐郡妻垣村

百姓

善三郎　当未二十二歳

持高七石八斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人申出ニ付相糺候
之處農業出精いたし年貢諸役目等
相励ニ候奇特なる者ニ相違無之候ニ付

文化六己巳年褒美人名書江 洩村寿三郎 二十歳

豊前国宇佐郡[illegible]村

百姓

持高拾六石余

儀助 当未三十三歳

持高八石五斗余

村右衛門 当未四十二歳

持高拾弐石三斗余

甚兵衛 当未六十九歳

右之者共篤実躰之趣村役人訴出ニ付

相続以前より農業抜群出精いたし其上手余地
等開き主附に而奇特なる者より相達候ニ
付文化六巳年褒美人ハ右之者ニ
忰 儀助 二十一歳
忰 村松 四十歳
忰 甚蔵 六十七歳

豊前国宇佐郡江之坪村
百姓 助蔵
当未二十六歳

持高五石七斗余

右之者兼而実体ニ而村役人申付以ニ付
相続以前より農業弐反入り諸稼等無油断
相励ミ奇特なる者より相達候ニ付

文化六巳年褒美米五苞遣ス 当時相続 二十四歳

豊前國宇佐郡山口之坪村

百姓

久右衛門 當巳六十六歳

持高七石八斗余

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候付相糺
之候處農業諸稼等昼夜無油断相励候
奇特なる者ニ付相達之處ニ付文化六巳年

褒美之者共　洪村文五郎　六十四歳

豊前国宇佐郡大口田村

百姓

松蔵　當未二十四歳

持高七石九斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人訴出ニ有之候
ニ付家内睦敷農業出精いたし候段奇特
なる者ニ付遂糺候ニ付文化六巳年褒美

若老ニ 此村松右衛門 六十二歳

豊前国宇佐郡庄村

百姓

久左衛門 当未七十歳

持高拾七石弐斗余

右之者無欲実躰之趣村役人訴出ニ付

相糺候処農業抜群出精いたし候而奇特

なる者ニ付御褒美被下候 文化六巳年褒美

若老人 世附介衛門
二十八歳

豊前国宇佐郡佐村
百姓
改蔵
当未六十歳

持高七石二斗余

右之者篤実ニ而兼〻村役人訴出候ニ付
相糺候処農業諸稼等昼夜無油断出精
いたし候段奇特なる者ニ付擢遣候旨ニ付

文化六巳年褒美米五俵　出村政右衛門　五十八歳

持高拾五石余

豊前国宇佐郡広村

百姓

清左衛門　当未六十歳

右之者兼而実躰ニ而村役人訴出ニ付
相糺候處農業無油断相励候段奇特なる
者ニ付遠江守在役中文化六巳年褒美

若也江嫁附候處
五十八歳

豊前国宇佐郡東恵良村
百姓
民治
当未五十六歳
持高八石弐斗
右之者篤実律義ニ而村役人訴出候ニ付
親共江孝心なる者ニ付先年褒美被下置
其後農業出精いたし候ニ付寛政二戌年

褒美鳥目二貫文荒地起返等出精いたし候ニ付

寛政十一未年褒美鳥目二貫文不相替出精いたし

行状常々諸人ニ相勝候奇特なる者ニ相違

當役ニ而文化六巳年為褒美年々小麦

壱俵宛生涯名主より 此村民ニ 又拾口歳

豊前国下毛郡今若村

庄屋

松居東一

當未二十一歳

持高弐拾壱石余

右之者兼而実躰ニ而村役人所出ニ付

相勤候役方骨入り村中取締方萬事

行届候奇特なる者ニ相違無之ニ付

文化六巳年褒美ニ預候者　此内松平　二十九歳

豊前国宇佐郡小坂村

百姓

勇助　当巳四十歳

持高九石弐斗余

右之者兼而実躰之趣村役人申出ニ付
相続ニ而農業出精いたし年貢諸役等
諸人ニ相勝れ候段奇特なる者ニ付遂吟味候

ニ付文化六巳年褒美銀五枚　洪村勇助
二十八歳

豊前国宇佐郡菅籠村

百姓

利右衛門
当未年六十二歳

持高三石余

右之者兼而実体ニ相勤村役人訴出ニ付
和紀以篤ク農業出精いたし年貢諸納物等
相励候段奇特成者ニ付御遣銀被下候ニ付

文化六巳年褒美鳥目ニ 此時利右 五十四歳

豊前国下毛郡大貼法村
百姓
谷蔵
当未五十二歳

持高七石八斗余

右之者兼而実躰之趣村役人ゟ申出候ニ付
相糺候処昼夜之無差別農業出精いたし候
之段奇特なる者ニ付被遣沙汰候ニ付文化六

巳年褒美人名並ニ世帯之分 〆十一歳

豊前国下毛郡助次村
百姓
浅吉娘
すみ
当未二十七歳

持高七升余

右之者兼而実躰ニ而村役人訴出候ニ付
相糺候処農業出精いたし幼年之時より
至而貧窮ニ有之候処丈夫ニ而近辺之田畑等

相励候段奇特なる者ニ付被遣置候旨文化六
巳年褒美銀三枚被下置　二十五歳

豊前国下毛郡西田村
百姓
久兵衛
当未五十八歳

持高七石余

右之者義ハ実躰ニ而村役人申付ニ付
相守り農業出精いたし年貢諸役等
相励候ニ付文化二丑年褒美銀三枚同四卯年

國恩を存し冥加を懐ひ若年より其後々農業
相勵候段奇特なる者ニ付遂吟味候ニ付文化六
巳年褒美として若右衛門 此附ノ金 又十六歳

豊前國下毛郡下深水村
百姓
徳右衛門 当未二十一歳
持高三石二斗余
勝右衛門 当未七十歳
持高五石余
右之者儀兼而實躰ニ而村役人并出役相勤
其親代々農業出精いたし年貢諸役

等無遅滞之段奇特なる者ニ付遠無
其外ニ付文化六巳年御褒美被下置候

当時惣兵衛 二十九歳　当時勝蔵 二十八歳

豊前国下毛郡諫山村

百姓

持高八石四斗余

相蔵 当未五十九歳

持高七石三斗余

伝七 当未五十二歳

右之者共兼而実躰之者ニ而村役人申付候ニ付

兼而家業之農業出精いたし年貢諸役目等

右遅滞之段奇特なる者ニ付為褒美遣之者也
文化六巳年十二月　後藤兵右衛門名印
松村相馬　五十七歳
松村伝七　五十歳

豊前国下毛郡東田口村
百姓
茂兵衛　当未六十二歳
持高八石九斗余
佐右衛門　当未七十歳
持高八石五斗余
源吉　当未五十歳
持高拾石六斗余
右之者共兼而実躰之趣村役人差出候

平日農業出精いたし年貢諸役等
無遅滞ニ相勤奇特なる者ニ付御褒美被仰付
文化六巳年褒美受候者ニ

世附為蔵
六十一歳

世附佐吉
六十八歳

世附源吉
四十八歳

豊前国下毛郡西田口村

百姓

七兵衛
当未三十八歳

持高五石四斗余

右之者当実躰ニ而村役人申付候ニ付
平日農業出精いたし年貢諸役等
無遅滞ニ相勤奇特なる者ニ付御褒美被仰付

文化六巳年褒美申渡

沼津七藩 二十六歳

豊前国下毛郡佐知村

百姓

清四郎

当未二十七歳

持高六石二斗余

右之者篤実ニ而実躰ニ相勤村役人并出精ニ付

相続以来農業出精いたし年貢諸役目等

無遅滞相納奇特なる者ニ付御遣済被下ニ付

文化六巳年養父入名跡
此附清之郎
二十五歳

豊前國下毛郡上深水村
百姓

持高弐石七斗余
安右衛門
当未二十八歳

持高壱石五斗余
安次郎
当未二十八歳

持高壱石六斗余
儀助
当未二十歳

持高二石七斗余

儀作 当未五十歳

右之者兼而篤実躰ニ而村役人之許出ニ付
相紀ニ茂農業出精いたし　年貢諸役等
相励候段奇特なる者ニ付御褒遣之者ニ付文化六
巳年褒美被下置候

同村安兵衛 三十六歳
同村安兵衛 三十六歳
同村儀助 二十八歳
同村儀作 四十八歳

豊前国下毛郡原ニ村

百姓

太七 当未七十二歳

持高拾石弐斗余

右之者兼而篤実躰ニ而村役人之許出ニ付
相紀ニ茂農業出精いたし　年貢諸役
等無遅滞之段奇特なる者ニ付御褒

出精ニ付文化六巳年褒美ニ被下置　当時右七十一歳

豊前国下毛郡上深水村

年寄　卯平治　文化六巳年五十歳ニ而死去仕

持高凡弐斗余

右之者篤実辨ニ而村役人所出ニ付
相勤兼而役方并入り且農業出精いたし
諸納物等無遅滞之候奇特なる者ニ付遣

當巳廿ヶ年文化六巳年褒美銀三枚被下

豊前国宇佐郡寒水村

百姓

芳兵衛

当未五十八歳

持高四石八斗余

右之者兼而実躰之趣村役人共申出候ニ付

相糺候之処両親江孝養を尽し睦敷農業出精いたし

年貢諸役向等相励候段奇特成者ニ付

御褒美被仰付文化六巳年[illegible]
此時六十六歳

豊前国宇佐郡廣連村
百姓
儀兵衛
当未九十二歳

持高壱石六斗余

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候ニ付
相糺候処老年ニおよひ候迄も農業出精
いたし候段奇特なる者ニ付御褒美被仰付

文化六巳年褒美被下置候　九十歳

持高拾石八斗余

豊前国宇佐郡大上村
百姓
利兵衛
当未五十一歳

右之者兼而実躰ニ而廼村役人申付置
就中農業出精いたし年貢諸役
等無滞相勤奇特なる者ニ付御褒美被下置候

文化六巳年褒美被下置候　沢内利兵衛
四十九歳

豊前国宇佐郡今井村
百姓
為蔵
当未四十七歳

持高拾七石八斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人許出ニ付
相続篤又家内睦敷農業相励其上
然ル処近年年貢方年々村中未進ニ及

いたし候段奇特なる者ニ付遠藤若狭守ゟ
文化六巳年褒美として銀被下之 此附箋 四十五歳

豊前国上毛郡安子村
百姓
甚作後家
さく
当未年五十一歳

持高六石弐斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人申出ニ付
相糺候処夫甚作死去いたし以後農業
出精いたし大勢之子供を養育いたし

作勉し田畑等不残自作いたし候
奇特なる者ニ付御遣當其府文化六巳年
褒美被下置候 当時四十九歳

持高拾石六斗余

豊前国上毛郡上唐原村
百姓
忠助
当未七十一歳

右之者兼而実躰ニ而村役人申出ニ付
相糺候處農業出精いたし年貢諸役同等
相励候奇特なる者ニ付御遣當ニ付文化六

巳年褒美遣之 沼村忠四郎 六十九歳

豊前國宇佐郡大所村
百姓
甚左衛門
當未七十歳

持高拾弐石之斗余

右之者無高実躰ニ而村役人并出入ニ付
相紀等之農業出精いたし追々田畑等
相増候奇特なる者ニ付相違無之候ニ付文化六

巳年褒美之人若老ニ 此内孝養 六十八歳

豊前国宇佐郡香下村

百姓

健助

当未三十二歳

持高七石壱斗余

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候ニ付
相糺候處農業出精いたし田畑追々相増
然ルは一段奇特なる者ニ付御褒美被仰付

文化六巳年褒美被下置候 北村徒助 三十七歳

豊前国宇佐郡大重見村
百姓
倉吉
当未年六十歳

持高七石四斗余

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候ニ付
相続罷り農業出精いたし年貢諸役目等
相勤候段奇特なる者ニ付褒遣之旨被仰付

文化六己年褒美書出　北村倉吉　五十二歳

持高拾七石余

豊前国下毛郡多志田村

庄屋

園右衛門　當年七十六歳

右之者兼而実躰ニ而村役人新出以ニ付
相続之後役方罷入り村中川立方行届
其上農業出精いたし年貢諸役目等

相励候段奇特なる者ニ付地頭より文化六
巳年褒美遣之 [illegible] 四十四歳

持高拾弐石余

豊前国下毛郡宮永村
百姓
弋助
当未弐拾五歳

右之者兼而実躰之趣村役人申出ニ付
相続篤と農業出入り村中之手本ニ相成
間立候ニ付相成候段奇特なる者ニ付地頭

益候ニ付文化六巳年褒美差遣候　此内戈助　五十二歳

豊前国下毛郡湯屋村
百姓
平助
當未弐拾九歳

持高七石六斗余

右之者兼而実躰之趣村役人申出候ニ付
相糺候処農業出精いたし年貢諸役等
相励追々田畑等茂相増候奇特なる事ニ付

相違無之候ニ付文化六巳年褒美被下置候　当時平助　弐拾七歳

豊前国下毛郡中殿村
百姓
久七　当未五十五歳
持高拾弐石弐斗余
仁兵衛　当未四十七歳
持高七石斗余

右之者共篤實躰之趣村役人申出ニ付
相糺候処家内睦敷農業出精いたし

年貢諸役目等相勤候奇特なる者ニ付

相違無之ニ付文化六巳年褒美被下置

当村仁右衛門 四十五歳

当村久七 六十二歳

豊前国下毛郡上池永村

百姓

周吉

当未四十八歳

持高五斗余

右之者兼而実躰之趣村役人申出候ニ付

相糺候処農業出精いたし田畑等追〻

相増年貢諸役目等村役人世話行届候

格別介抱いたし候段奇特なる者ニ付褒美
書付ニ而文化六巳年褒美被下置候 此内用吉 同十六歳

豊前国下毛郡樋田村

年寄 與兵衛 当未六十八歳

持高三石弐斗余

右之者数年役方実躰ニ相勤村中
取締方行届候ニ付村役人并出精ニ付相勤
候段奇特なる者ニ付褒美書付ニ而文化六

巳年褒美差出ニ　満与次郎　六十六歳

豊前国宇佐郡小山村
大庄屋
小山継兵衛
當未六十一歳

持高拾壱石五斗余

右者無欲実躰なる者ニて役方茂入り
近組中ニ而締方行届困窮之村方茂
追〻有付方役近組中之者別而帰服

いたし居合宜敷村役人共申出候ニ付相糺候
ところ奇特なる者ニ付御褒美として文化六
巳年給米高二石増申付候

当村　作兵衛
五十九歳

豊前国上毛郡吉岡村
庄屋
新兵衛
当未六十二歳

持高九石余

右之者役方ニ入り近村中茂一統申合
農業出精いたし年貢米等他村より
早く皆済いたし諸事ニ締方行届候

之泥村役人申出ニ付相糺候處奇特なる
者ニ付為差遣候處ニ付文化五辰年褒美
為取置候處又々奇特之有之ニ付同六巳年
褒美人為取置候 此内新右衛門 六十四歳

豊前国上毛郡土屋垣村
庄屋
滝右衛門
当未七十歳
持高拾七石

吉江村
庄屋
貞右衛門
当未五十八歳
持高七石弐斗

吉岡村
年寄

持高三石八斗　定右衛門　当未六十歳

右之者儀若年より匹度村中茂一統
中合農業出精いたし諸納物年々他村
より早く皆済いたし諸事ニ締方行届
之段村役人許出情ニ付其外奇特なる者ニ付遂
吟味当村文化己巳年褒美として鳥目遣之　付添六十八歳　付自分五十六歳　付定右衛門五十八歳

豊前国宇佐郡福貴野村
百姓
庄兵衛　当未五十歳

持高七石六斗余

右之者儀至而実躰ニ而村役人許出情ニ付
其外二而農業出精いたし田畑等迄
自分手入いたし其上困窮之者江度々貸遣其外朱之儀

并孝奇特なる者ニ付御遠[illegible]ニ付
文化六巳年褒美被下置　此村庄屋勤　四十八歳

豊前国下毛郡上宮永村
百姓
重助
当未四十歳

持高三石余

右之者村中難渋之者共へ助情いたし
其段村役人共訴出候ニ付御糺之上奇特なる
者ニ付御遠[illegible]ニ付文化六巳年褒美

善七江　世附重助
三十八歳

豊前国下毛郡下宮永村
百姓
平兵衛
当未七十二歳

持高八石余

右之者並百姓農業出精いたし諸上納
年々早く皆済いたし其上村方難渋
之者共江助情いたし諸事村方用立候

或ハ隣村役人共申出候ニ付相糺候処奇特
なる者ニ付相達領主より文化六巳年褒美
差遣し 此時年齢四十一歳

持高弐拾八石六斗余

豊前国下毛郡樋田村
百姓
孝吉 文化七午年四十八歳ニ而死去仕候

右之者居村并他村難渋之者共へ施行
いたし候段村役人共申出候ニ付相糺候処其上
冥加米等差出し旁奇特なる者ニ付相達

孝行ニ付文化六巳年帯刀苗字差免

此時中年
四十七歳

豊前國上毛郡宇野村

百姓

猩寓婦

せめ

當未三十五歳

持高弐斗弐升

右之者儀ハ元組村役人ニ被出候ニ付右紀ニ
ニ參り夫婦ニ而御父死去いたし難渋之
母并老父病身小児をも抱伯母ニ而お敷

同居請させ自分ちから業ニ稼いたし右

両人を叮嚀ニ扱何角行届奇特

なる者ニ付遠藤但馬守文化七年

為褒美小麦五石遣ス 洪村妻ちめ 二十四歳

豊前国下毛郡万田村

百姓

庄作 当未四十七歳

持高四石五斗

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候

之処父ハ兼而叮嚀ニ事へ困窮之中ニも

荷物等を持歩其上農業出精いたし

質物ニ入置候田地等追々受返し奇特
なる者ニ付松遠江守ゟ文化七年褒美
差遣ス 岩附広作
二十六歳

豊前国宇佐郡福貴野村
百姓
忠助
当未二十二歳
持高四石五斗余
右之者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候
処常々実躰なる者ニ而父母へ丁寧ニ
事へ家内睦敷農業出精いたし候段奇特

なる者ニ付遠江守殿ゟ文化七午年褒美
差遣ス　沢村忠助 二十二歳

豊前国宇佐郡今井村
聖光寺店ニ
慶蔵 当未二十七歳

孝行

右之者奇特なる者ニ有之同村役人
訴出ニ付相糺候處兼而實躰なる者ニ而
年来主人ハ勿論大切ニ致シ農業出精

悪田ハ分ヶ置追々熟田ニいたし外よりも
一際目立候程ニ有之候ニ依而別家ニ取建ニ而も
いたし度候ニ中ニ者是迄貯置候其家業ニ而も
申出候處入用お勤候奇特なる者ニ付達
御聴候ニ付文化七年年番褒美其者江生涯
年々小麦壱俵宛遣之 此村庄屋 三十六歳

豊前国宇佐郡下高村
百姓
利兵衛倅
新兵衛
当未二十六歳

持高拾六石七斗余

右之者孝心之趣村役人并出入之者より申立
之候ニ付実躰なる者ニて両親へ孝順ニ
常々家内睦敷農業出精いたし候

奇特なる者ニ付遣達置候ニ付文化七午年
褒美として銀遣之 北村新右衛門 二十五歳

豊前国宇佐郡小山村
百姓
安次郎
当未二十一歳

持高弐石八斗三升余

右之者孝心之趣村役人共申出ニ付相糺候
処兼而実躰なる者ニて両親へ丁寧ニ
事へ農業出精いたし年貢諸役目等

村役人世話ニ不相成奇特なる者ニ付差遣
諸事心付有之文化七午年褒美被下置候 此時年三十七歳 二十歳

豊前国宇佐郡大塚村

年寄 吉兵衛 当未六十二歳

持高拾八石六斗余

右之者孝心之趣村役人ゟ申出候ニ付相糺
之処父長病ニ而起居不自由なる由ニ付中ニも
御蔵不厭大小役迄も余人へ不相劣相勤且

叮嚀ニ小事ハ且農業出精いたし追々持高も
相増家内睦敷奇特なる者ニ付遂御
褒美ニ付文化七午年為御褒美小麦壱石遣ス 此時左衛門 四十二歳

豊前国宇佐郡香下村
百姓
牧右衛門妻
ちか
当未二十四歳

持高六石三斗八升余

右ちか者貞実なる生れ村役人并出生村親類
ともゝ愛通る姑夫ハ至而叮嚀ニ小事ハ大夫
牧右衛門悪病差発ニ付仁方好薬求より

呼返し候處難病ニ而發候ニ付可見捨候處
法をも申し聞候人も大切ニいたし家内
睦敷寄特なる者ニ相聞候ニ付文化七
午年為褒美小麦壱石差遣候　此村ちの　二十三歳

持高四斗六升

豊前国下毛郡大塚村
百姓
新兵衛娘
ぬい
當未二十一歳

右之者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候
処幼少ゟ貞実ニ有之父へ叮嚀ニ事へ
又病身之母之儀ハ稼等昼夜とも不分出精

いたし薬用海物等ニ油津町江

ニ而奇特なる者ニ付為御褒美去ル文化七

午年為御褒美小麦弐石被下候　油津町ぬい　当二十歳

豊前国宇佐郡矢津村

百姓　長兵衛妻

せて　当未四十二歳

持高弐石弐斗

右之者貞実之段村役人ゟ申出候ニ

付委夫長兵衛八九年来難病ニ而臥候ニ付

介抱いたし且農業出精いたし諸納物

村役人世話ニおよひ候女ニ而分ニ過て奇特
なる者ニ付、遂吟味、其所文化七午年褒美
差遣ス　此時四十二歳

筑前国怡土郡神在村
百姓
新平娘
類　二人
当未二十四歳

持高五斗余

右之者孝心之趣、村役人訴出ニ付相糺候
ニ、類ハ兼而貞実なる者ニ有之、他ヘ嫁し
居候処、又新平困窮ニ及、極老外ニおゐて

老衰いたし候ニ付甚以相歎候得共離別いたし其上ニ
嫁いたし其後病身ニ罷成候ても叮嚀ニ介抱いたし
候者ハ有之候主人夫婦之儀格別ニ病身等
之儀も是迄申聞候而已無之主人へ夫婦叮嚀ニ世話いたし
之段奇特なる者ニ付御褒美として文化七午年
為御褒美小麦多目等被下之 此村るい 二十二歳

豊前国下毛郡西屋形村

百姓

源蔵 当未二十五歳

持高三石弐斗余

右之者村方難渋之者有之節ハ別而情出し
之段村役人共訴出候ニ付御聞及ひ奇特なる
者ニ付御褒美として文化七午年御褒美被下之 同村源蔵 三十四歳

豊前國宇佐郡佐野村

百姓

文兵衛
當未二十九歳

持高拾九石九斗

右之者村方難渋之者共へ助情いたし

殊村役人ニ出精いたし旁奇特なる

者ニ付御遣銀被下候文化七午年褒美被下置候
此時文兵衛
二十八歳

豊前國上毛郡岩水村
百姓
定七郎
當未七十六歳

持高八石八斗

右之者平日実躰之趣村役人并出入ニ付
相糺候處農業出精いたし年貢諸役
等村役人世話ニ不相成其上家内迄茂

其段役所ニ相成ニ付当実躰ニ諸事相励候
奇特なる者ニ付御遣[illegible]被下候文化七午年
褒美人若老ニ　悴 定四郎 四十七歳

豊前国上毛郡塩水村
百姓
治助　当未三十七歳
持高八斗

同国宇佐郡廣若村
百姓
貞四郎　当未二十歳
持高八石七斗

郡右　当未五十四歳
持高拾石四斗

持高八石弐斗　百姓　万次郎
当未四十七歳

持高拾四石六斗　甚右
当未四十五歳

右之者共農業出精いたし年々
作徳等相増諸納物村役人世話ニ不
為致候段村役人訴出ニ付相糺候処奇特
なる者ニ付御褒美遣之候二月文化七午年御褒美

差出候
此村治助　二十六歳
此村貞次郎　二十九歳
此村弥吉　五十二歳
此村万次郎　四十六歳
此村甚右　四十四歳

豊後国宇佐郡松本村

百姓

持高九石七斗余
紋治
當未二十三歳

持高六石二斗
松五郎
當未二十八歳

持高五石六斗
徳左衛門
當未四十歳

持高拾石弐斗
丈吉
當未四十一歳

持高七石五斗

信蔵
当未四十一歳

持高七石七斗

九左衛門
当未四十七歳

持高五石六斗

和平
当未五十歳

持高五石六斗余

亜左衛門
当未二十四歳

持高拾八石四斗

常右衛門
当未五十二歳

右之者共何茂実躰ニ而村役人申付相守
且親ニ孝昼夜無怠別農業出精いたし
自作高等追々相増万事相励候段
奇特なる者ニ付褒遣之候旨申付文化七午年
褒美之者共

忰紋作 二十二歳
忰松治 二十七歳
忰伝右衛門 二十九歳
忰文吉 四十歳
忰信蔵 四十七歳
忰九左衛門 四十六歳
忰和平 五十二歳
忰亜左衛門 二十二歳
忰常右衛門 五十一歳

豊前国宇佐郡松本村

百姓　清篤

當未六十一歳

持高七石六斗余

右之者篤実農業出精いたし年貢

諸役自分等村役人世話ニ不及年〻

皆済いたし候ニ付村役人申出江府相糺

ニ而奇特なる者ニ付被遣候旨被仰有文化七

午年褒美被下置候　同村清六　六十歳

豊前国宇佐郡[illegible]村

百姓

持高拾石五斗　光右衛門　当未六十一歳

持高拾石八斗　紋右衛門　当未二十一歳

持高拾石五斗　加右衛門　当未五十四歳

持高拾五石　與右衛門　当未二十七歳

持高七石七斗　六兵衛
当未五十七歳

持高九石五斗　岩兵衛
当未五十一歳

同国宇佐野川庭村
百姓

持高拾二石八斗　忠兵衛
当未五十七歳

持高拾弐石　嘉兵衛
当未二十六歳

持高七石余　庄吉
当未四十二歳

持高六石余　孫兵衛
当未五十八歳

右之者共田畑農業出精いたし年々
作高等相増相励候段村役人訴出候ニ付
相糺候処奇特なる者ニ相違無之候ニ付
文化七午年　長八右衛門
忰光吉　六十歳
忰紋吉　三十歳
忰春吉　五十二歳

同村兵蔵
三十六歳
同村品蔵
五十二歳
同村嵐蔵
五十歳
同村忠蔵
五十六歳
同村喜蔵
三十五歳
同村佐吉
四十二歳
同村孫蔵
五十七歳

豊前国宇佐郡大副村
百姓
甚蔵
当未五十七歳

持高八石九斗

右之者篤実成る趣村役人訴出ニ付
相糺候処農業出精いたし年貢諸
役目等諸人ニ相勤其上万事志宜

奇特なる者ニ付遠江守ゟ文化七午年
褒美ハ若干遣之 当村喜三郎 丑十六歳

豊前国宇佐郡下矢部村
百姓
清吉 当未二十七歳
持高弐拾三石八斗
右之者兼而実躰之段村役人申出候ニ付
且親孝行追々取立等相増年貢諸役
等無遅滞且出精之上猶買加来等若出

萬事相勵ニ心掛奇特なる者ニ付御褒美被下置候
文化七午年褒美銀三枚 出内清右 二十六歳

持高八石余

豊前国下毛郡海田村
百姓
己助 當未二十九歳

右之者萬暮実躰ニ而村役人申出ニ付
御糺篤追々非分相増家内睦敷有之
之心掛奇特なる者ニ付御褒美被下置候文化七

年々褒美ニ遣之　[illegible]二十八歳

豊前国下毛郡諫山村
百姓
文六
当未七十七歳

持高七石八斗

右之者無当実躰ニ而村役人并出精有
相続ニ致シ年貢諸役割等村役人世話よく
家業格別農業相励候奇特なる事

于遠藤但馬守江相伺文化七午年褒美遣ス 此時文六七十六歳

豊前国下毛郡西田村

持高弐石

百姓

喜七

當未ノ六十二歳

右者兼而実躰ニ而村役人并出入ニ付
孝心篤農業出精いたし村中疫病
相煩候者麦粥上等茂不相欠有之以来

右之者壱人ニて昼夜出精ニ世話いたし
遣し候段奇特なる者ニ付褒美遣置有
文化七午年褒美人ニ而遣し此時歳七
六十五歳

持高拾弐石九斗

豊前国宇佐郡水車村
百姓
庄蔵
当未五十歳

右之者兼而農業出精いたし其上別家
之弟生得病身ニ有之農業出来兼候ニ付
同人世話いたし遣し万事お励以て候

村役人并出役ニ付申立候奇特なる者ニ付遂
吟味候ニ付文化七午年褒美として鳥目遣之 此時年四十九歳

豊前国宇佐郡元村

百姓

傳蔵

当未四十二歳

持高七石七斗

右之者兼而農業出精いたし諸納物
無遅滞万事ニ申励候 村役人并出役ニ付
申立候奇特なる者ニ付遂吟味候ニ付

文化七年褒美取候もの　付附紙　四十一歳

持高壱石七斗

豊前国下毛郡湯屋村
百姓
初右衛門妻
とん
当未二十二歳

右之者貞実之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之処夫初右衛門十八九年来ニ而足ふ叶ニ付
困窮ニ付右者昼ハ縫もの稼又ハ賃菜等出精

候其代ニも猶相共外寄ゟも津并叮嚀ニ
事ニ候段奇特なる者ニ付遂吟味候處文化八
未年褒美銀被下候

豊前國下毛郡蠣瀬村
百姓
利吉倅
太助
當未二十六歳

持高拾石

右之者孝心之趣村役人ゟ申出候ニ付相糺候ニ
之ら寄ニ逼る實躰なる者ニて兼而父母へ之ル
叮嚀ニ致し事ニ尚又兼而家之伯父伯母等江

川々家内睦敷且農業も稼等出精いたし
奇特なる者ニ付御遣銀被下置候旨文化八未年
褒美被下置候

豊前国下毛郡大九村
百姓
甚兵衛妹
ちよ
当未二十歳

持高七石八斗

右之者奇特なる趣村役人ゟ申出候ニ付相糺候
ニ聞合候処母ハ実体なる者ニ而兄甚兵衛ハ盲
相聞候処長病ニ而聞所不叶母ハ極老ニ而平生より

薬用活物等汲油候ゟ津出及農業并
稼等出精いたし女之身分ニて奇特
なる者ニ付遠江守在所ニ而文化八未年褒美
差遣候

豊前国宇佐郡尾永井村
百姓
甚助
当未十九歳

持高三石五斗余

右之者孝心之趣村役人ゟ申出候ニ付相糺候
之処至而実躰なる者ニ有之又ハ一町小
半ニ而且農業出精いたし右父之病身之節

諸事行届奇特なる者ニ付遂吟味候ニ付
文化八未年褒美被下置候

持高五石余

豊前国下毛郡大新田村
百姓
和助
当未四十六歳
同人妻
とわ
当未三十八歳

右之者共孝心之趣村役人并出入之者共申立候
ニ付遂吟味候処農業出精いたし且亡父存生之内

孝心叮嚀ニ取扱ひ且先年儀褒美被下置候
其後母病中忠次郎夫婦共叮嚀ニ事へ候
奇特なる者之由相達候ニ付文化八未年
褒美被下置候

持高弐石三斗

豊前国下毛郡大新田村
百姓
忠次郎後家
やゑ
当未二十八歳

右之者自身之了簡村役人江訴出候ニ付相糺候
之処夫忠次郎癈病ニ而数年ニ候孝心叮嚀ニ
事へ貞操稀なる段奇特之事ニ付去ル辰年

褒美被下置其後宿並次第[illegible]いたし候
ニ付悴共へ申付初而農業之外
や忠孝之道出精いたし候段奇特なる
者ニ付猶又遠近迄評判ニ付文化八未年褒美被下

豊前国宇佐郡上宇佐村
百姓
手尾後家
さく
当未三十六歳

持高三石四斗余

右者貞実之心ニ而村役人并当村ニ而
いたし夫年寄候之節病気ニ付親ニ而
隠り池へ嫁入いたし先年夫中ニ而一旦夫帰り候

若年寄

沙汰ニ及ひ見捨置候儀は、前々申付置候通、長病
者ニ付、小者病ニ而届無之差出しニ
并置候より、又々親元へ帰り、一様ニ中ニ
極老之置捨候ニ付、病身を顧ミ、其儘置中ニ
益可申ニ付而、且農業出精いたし、諸上納物等
村役人世話ニ而、前々ニ随ひ、貧窮ニ相成者ニ至迄
当時之儀、文化之末年、度々ニして小麦高同等

豊前國下毛郡藍原村

百姓

七兵衛
當未六十七歳

持高拾弐石弐斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人并出府
相勤候壮年より諸人ニ相勝農業
出精いたし追々田畑等相増諸納物等は

勿論役目等村役人世話ニ而致候
奇特成者ニ付遂吟味之上文化八未年
褒美差遣候

豊前国下毛郡藍原村
百姓
茂吉
當未四十六歳

持高八石二斗余

右之者篤実ニ而村役人許ニ出入有
兼而第一農業出精いたし追々田畑等
相増諸納物其外諸人ニ相勝相励候

奇特なる者ニ付遠江守様ニ而文化八未年
褒美被下置候

豊前国下毛郡蠣瀬村
百姓
持高弐石七斗余
善次郎
当未二十九歳

右之者兼而実躰ニ而村役人江申出ニ付
相見候ニ而家内睦敷農業出精年貢
諸役向等村役人世話ニ不相成様相勤奇特

なる者ニ付遣ニ常ニ居候ニ付文化八未年
褒美取らせ候

豊前国下毛郡宮永村
百姓
弥四郎
当未二十一歳

持高拾石八斗

右之者兼而実躰ニ而村役人申出ニ有
親孝ニ農業出精いたし諸稼等致
身持宜納物等村役人之世話ニよらず弁納致手若

兼て萬事心かけ正路奇特なる者ニ付
御達有之候ニ付文化八未年褒美被下置

豊前國宇佐郡山下村
百姓
貞蔵
当未二十九歳

持高八石五斗

右之者至而貧窮なる者ニて農業諸
稼昼夜相励追々田地等相増諸納物等
無遅滞出精いたし候段村役人訴出ニ付

孝行之奇特なる者ニ付遠藤但馬守ニ付
文化八未年褒美遣候

豊前国宇佐郡宮熊村

百姓

武兵衛

当未二十四歳

持高拾石四斗余

右之者兼而實躰之趣村役人訴出ニ付
孝行之儀ハ家内睦敷農業諸稼等精入
村中之者見習ひいたし候様ニ有之

之愿奇特なる者ニ付遂吟味候処文化八
未年褒美被下置候

豊前国宇佐郡上庄村
百姓
秀蔵
当未四十一歳

持高九石八斗余

右之者至而実躰之者ニて農業出精
いたし年貢諸役向等村役人世話ニ
不相掛殊ニ家内睦敷ク有之候処村役人并出口

ニ有之紀ニ付奇特なる者ニ付差遣候旨ニ有

文化八未年褒美下ケ置候

右之通御座候以上

文化八未年十二月

奥平大膳大夫家来

筑紫是助

奥平大膳大夫領分在町

孝行并奇特成者書上帳

奥平大膳大夫領分

備後国神石郡安田村

百姓

持高壱石八斗八合　八助

當巳五拾七歳

右者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候之処無比實躰なる者ニて母并祖母へ至而丁寧ニ事へ妻人ともも及極老候得も

不自由成故、能中祖母ハ起臥も自由ニも
成難候寄心を尽し、難渋ニ而も細御苦労ニ不
存、朝夕之給物ハ勿論、安否ハ更ニ聊無怠
右之者独ニ而昼夜無怠介抱いたし、右等之
為隙ニ者農業出精いたし、右等之
老人ニ己ニ而間遠方之稼方ニ者不罷出
手稼ヲ以老人之衣食等寒暑之憂無之様
心を尽し、第一国ニ而病人を大切ニ取扱候由
候而看病いたし、極貧之者先婚姻要い無ニ付
之程ニ近隣之者共も感心いたし候ニも
他人をも入候事ニ者都而孝養廉恩ニ可
相成之趣ニ而益丹誠を尽し、可嘆ニ
事ニ而寄特なるものニ付、褒美遣之候
付寛政三亥年二月褒美被遣候　此附八助　三拾九歳

豊前国上毛郡小犬丸村
百姓
新次郎妻
とわ
当巳年拾七歳

持高弐石五斗

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處兼而貞実成る者ニ而姑及極老
起臥等も不自由ニ有之處至而丁寧ニ
介抱いたし縫物等之世帯打捨

為養なる事とも中ニ切々申候ニ付一同
大切ニいたし候段達地頭江ニ付寛政三
亥年九月褒美遣之旨申

此時とわ
弐拾九歳

豊前国宇佐郡大根川村
百姓
浅平
当巳五拾歳
同人妹
せて
当巳四拾八歳

持高七石五斗

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
之兄妹共実躰なる者ニて父母へ至而
叮嚀ニ事へ兄妹申合父母之心ニ不背其外

先祖之佛事等無怠弔之農業出精
いたし妹共え養育為致嫁女子
壱人出生候處以前之通可寧ニ来候
之困窮ニ迫り候處より諸稼ニ對之女子
壱人ニ至迄暫離縁同様ニ而浅平方へ
被申付候處浅平妻無之病身ニ而出生後
右共え万事申付之律義農業世帯等迄
物ニ出精いたし一統睦しく出生之者可相
なる者有之ニ付遂吟味候ニ付寛政四子年
八月褒美為取之候

當時浅平三拾二歳
同　せて　三拾壱歳

豊前國下毛郡永添村

百姓
惣助
當巳六拾歳

持高二石

同人姉
らく
當巳七拾四歳

右之者共孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處兼而實躰なる者共ニて極老之
母有之別而貧しく相暮候細〻兄弟申合

並ニ町内ニ而放埒者等ニ而貧しく候中
よりも彼是心を付世話致し衣類等も与へ
有之者ニ者夜具等ニ而も夜分ニ付世話いたし
遣し候、且又親類近隣之者共ニ至迄
家内睦敷他人を入候事無之、且自分も母之義ハ
出来不申、かゝる者等ニ候を、右様一図ニ孝養
之道を心掛、町内之者もいつれも感
他ニ而も格別之事ニ候由申候、惣助ニ付、兼而農業
世話等之、無怠何れ厚く右様ニ相勤、少之
相遣候旨ニ付、寛政八辰年二月褒美
為取候 此時惣助ニ拾七歳 同 らく六拾壱歳

豊前國宇佐郡松永村

百姓　又兵衛悴

持高六石八斗八升三合七夕　茂助

當巳四拾二歳

同人娘　こと

當巳四拾歳

右之者共孝心之趣村役人訴出候ニ付相紀候

処篤実神妙なる者共ニて母壮年より

悪瘡有しか老年ニ随ひ益盛ニなり脚ニ
發し膿汁常ニ流出歩行もかなはす
不自由にて此上ニ難渋ニ至れは兄弟
申合抱置益ニ同き妹とも一但せ
並農業出精いたし手透も有之候
其外とふ厭薪賣ニ出其價ニて
塩噌或ハとゝも見持海母へ寸免候
白湯母之側をとふ離不申此等いたし
病苦を慰め色好物を遣勤る者ともニ
憐ミ看病手あつく事夜姫をも相慰
度ニ馳込も絶入をも入候ニ昼見候老母
ニ随ひ定も那斗母存生之内ハ右等ニ
存意無之由申之一旦ニ老母をも叮嚀ニ
取扱中以来ニ付夜益ニ同しき妹とも
獨ニて彼是心を配り右悪瘡ニ事在
やうやくこのたひ本卿切ニ不申脚半弁ニ不と

救ひ多く掛置候ニ付疱瘡ニ而脚より悪瘡膿汁を
拭ひ洗ひ清メ候ニ付、其身手当致候
冷し、冬夜等ニも右女脚を懐ニ入
温め、其外度々洗濯等迄病人之随意ニ
致し、救丹誠を尽し候段奇特なる者ニ付
相違無之ニ付寛政八辰年四月褒美
為取之

右村　実母妹之　三拾歳
同　とと　弐拾七歳

筑前国志摩郡神在村
百姓　長六
当巳五拾八歳

孝行

右者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
処、平生実体成者ニて父母へ至而丁寧ニ
仕、別而父常ニ酒を好候ニ付其身貧窮ニ而
價等ニ相応ニ月ニ度ニ買調、又ハ色々
手細工等を夜ニ至り迄出精いたし右代と宛

相求め為給、丁寧ニ申入、居間又ハ雪隠まて残し
母並ニ病身之者共人々如く有之候を
申等ニ気付し候故、其度ニ当惑之躰も無く
弟申聞ニ丁寧ニ介抱し、或ハ近辺
出会之者稼ニ出候とも、かねて居所ニ宿之泊母へ
安否を窺ひ、夜分其向ニ帰母之側をはなれ
一圓ニ大切ニ取扱候故、奇特なる者ニ付、ほうひ遣
於江戸ニ而寛政八辰年七月[illegible] [illegible]

備後国御調郡阿下村
持高弐拾石余
大庄屋 佐瀬安兵衛 当巳六拾四歳
同人弟 同 新十郎 当巳三拾五歳

右者幼少之頃より孝心之趣ニ付、其始末を尋候処
母極老ニおよひ、久しく病身ニて床ニ
付き居候ニ付、家内大勢之事ゆへ、看病も行届かず

中より孫抱等ニ至迄万事心を用ひ看病等
叮嚀ニ致候段孝養奇特なる者ニ付
其趣達候ニ付寛政八辰年十二月褒美
差遣候

此時妻きよ 五拾壱歳
同 新十郎 四拾弐歳

豊前国上毛郡中村
百姓 為蔵後家
かつ
当巳六拾歳

持高三石五斗

右之者奇特なる者ニ有之趣村役人
訴出候ニ付相糺候処、至而貞実なる者ニ而
極老之祖母をも叮嚀ニ孝養致し家内大勢難渋
之中より孫抱等迄も心を尽し農業之合

出精いたし持田畑之分ハ独身にて自作
いたし其外諸稼昼夜ともに怠りなく丹誠をつく
し母寿々孝行なる者ニ付遂吟味候
ニ付寛政十午年三月褒美として銀三枚
亡附加津 四拾九歳

豊前国上毛郡[illegible]熊村
庄屋 定四郎 当巳四拾三歳
持高三拾六石壱斗
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之処兼而より実体なる者ニて老母江丁寧ニ
尽し何事も老母之心ニ随ひ宜しく取斗夜食等
不自由無之様心を付妻子迄も老母之心ニ中付
置家内一統も老母へ丁寧ニ取扱候由其上

役方若入り并農業出精いたし奇特
なる者ニ付擾遣置候ニ付寛政十年
六月褒美銀差遣
六十 定七郎
三拾歳

備後国神石郡永野村
組頭　権八
當巳六拾五歳
持高八石九斗七升六合
右者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處無篤実神なる者ニて母へ至而丁寧ニ
事へ右母極老ニおよひ候ニ付中症を発病いたし
勿論起臥も成難く自由等ニ不叶成候者
昼夜付添抱いたし介抱等も能く

取ニ来迄ハ父役ヲ勤メ妻子へも不自由
老母ニ随ひ居候ニ付外ニ他行いたし候ても
役用ニ付無據遠方へ罷越候節ハ一日ニ老母ニ
大切ニ致し又農業出精いたし候段
奇特成る者ニ相違無之候ニ付寛政十一
未年九月褒美銭被下候　十八村 権八 五拾五歳

備後國神石郡草木村
大庄屋
横山兵衛妻
女　し
當巳五拾歳

持高三拾石四斗三升五合

右者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺
兼而貞実成る者ニて舅姑へ孝行丁寧ニ
仕へ候由女人ニ在極老ニ相成候ゟ或ハ無病成る
召仕共中ヘ申付候も少も苦労ニ不致夫兵衛ハ

役用出て何毎り在宿も元来如右無記
獨ニて外抱し無し大切ニ取扱世話
之處より好身近隣之交り睦しく有之
兵仕舞ニ至候迄ニ律義者ニ而奇特なる
ものニ付遣候旨ニ付寛政十二未年
十二月褒美遣之　此時西記四拾歳

豊前国宇佐郡大村
百姓
孫兵衛妹
とめ　當巳二拾六歳

孝行

右之者兼而奇特なる者ニ有之村役人
所出ニ付兼紀ニ處其親者初より附添
兄弟斗ニて至而貧しく暮ニ者吉
之処右叔母ハ律義者ニて又獨身ニて扶家

雖立行候ニ付ニ先度其以前ゟ其
治合之次世話いたし并常用ニ付中悪
相煩候処孫共勝手儀も病気差発候得者
必止て雖然よ如何ニ付たとへ儀共差上
其日稼いたし種々才覚して独身者差遣
米を求置夜々看病等ニも怠らす丁寧ニ致候ニ
し由孝行奇特成者ニ付遣之銭候ニ付
寛政十一未年十一月褒美として鳥目 十七 弐拾 六歳 時之免

豊前国宇佐郡大村
百姓 澤吉
當巳 弐拾八歳

持高弐斗五升

右之者孝心之趣村役人訴出ニ付相糺候処
無高実体成者ニて耕作之間ニ者浜治
いたし家内大勢成を貧しく相暮
し候上ニ処又ハ兄ゟ丁寧ニ事ハ兄
よいたしいたし候上ニ老母衣類之外飯等ニ

老父附く無油断事なく中にも尤も養生其余
不肖成儀等致候趣申に得と承候以而手当
致させ其外俳諧のため夜分等迄も承候
条、長病之内も養生遠慮山家之儀より夜
市之沙汰も相聞候奥取等求め並進之間、比
中より身持丁寧にて、都而趣奇特なる
者に付遣之候旨寛政十二未年十二月褒美

[illegible]

備後国神石郡高蓋村
百姓
松蔵娘
志ち
文化三寅年
七月弐拾七歳にて
死去仕候

持高四石六合

右之者幼少之頃村役人共出候に付相知候処
篤く至る貧しく老父松蔵存生之節も
老父別而病身にて歩行致兼候節は労致必止へ

難澁ニ有之候処右之者獨身ニ而彼是仕を砕り
昼夜之差別致養育且農業ニも出精いたし牛
馬等自身ニ世話致し或山路を踏候而薪を取候義
其外ニ稼等昼夜となく心丹誠を尽し候ニ
付又松蔵も去戌之前より難澁之者ニ而家も被橫
多候者も去戌凶作ニ有之候処右之者壱人
ニ而倆をも返し家作等いたし益父母を大切ニ
取扱家内一同和合いたし候段孝弟奇特
之者ニ付御褒美被下候旨寛政十二申年九月
褒美ニ白銀被下　此附志ち　弐拾壱冊

佐渡國雑太郡木澤和村

百姓　庄助

當巳六拾歳

持高五石二斗弐升

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
處無益ニ實躰なる者ニて老母を以孝行ニ
取扱無之貧しく候者ニ而居候處是迄之縁
等いたし衣食之憂無之様ニ相心ニ懸常ニ先
年妻ニ離候後相合之通復離縁ニ其後近隣

之者方再縁致し候処、先家内多ニ相成候ニ付、
先母江毎月致無沙汰候得共、猶一ヶ月度々遣
中過年老母別而老衰いたし起臥等も
自由不相成候ニ付、猶丁寧ニ看病致
奇特なる者ニ付、遠江守在所ニ而寛政十二申年
九月褒美として鳥目遣之 此時庄助 五拾壱歳

備後国神石郡草木村
百姓
菊次郎 当巳五拾壱歳
持高弐石八斗
右之者孝心之趣、村役人共申出候ニ付相糺
候処、実躰なる者ニ而平生両親江丁寧ニ仕
候、貧しく相暮候処、亡父老母ニ随ひ
起居不叶候ニ付、平生も少々之事ニも心を付居
介抱いたし、亡父生得酒を好候ニ付、此山家

之儀迄も追々ハ有合せ之市ニ付市之度ゝも
少ゝ宛不絶求来差出為給候尤父并百姓業好候
作物見分ニ罷越候節ハ召連申候得者夫婦共身より
自作田畑出来立之程父ニ為見相悦候由
妻儀平家之娘ニも無之他より迎入候得共
何角行届候と叮嚀ニ取扱致方奇特
なる者ニ付[illegible]寛政十二申年十月
褒美として鳥目[illegible]

豊前国宇佐郡[illegible]村

百姓
為五郎妻
さよ
当巳三拾三歳

持高三石

右者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候処
貞実なる者ニ而姑久しく相煩候節丁寧ニ介
抱いたし孫ものも勿論[illegible]交[illegible]迄
病人之随意ニ取扱且又為五郎義茂無[illegible]

なる者ニ有之候得共さよ独り出て農業
諸稼等出精いたし衣食之費無之様
丹誠を尽し至而奇特なる者之趣
達候ニ付寛政十二申年十月褒美遣之　此時さよ弐拾四歳

豊前国宇佐郡下庄村
百姓　徳兵衛　當巳三拾四歳

持高五石弐斗四升

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而実躰なる者ニて至而貧しく暮
居候處極老之母久しく眼病ニ而起臥心止て難渋よ
有之処行屆可申様介抱いたし且農業
出精いたし種々之稼を以老母江衣食

己不自由無之様心を附常々大切に取扱候由
奇特なる者に付遠江守在役之節寛政十二
申年十月褒美為取之 此時徒吉四拾五歳

豊前国下毛郡小俣村
百姓 安兵衛 当巳五拾四歳
持高六石壱斗七合
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而実体なる者にて母へ至而丁寧ニ事へ
兼而困窮なる暮ニ候得共母之食物計は
別ニ心を附常々拵並其外農業之稼等
昼夜之無差別出精いたし衣類等暑寒之

憂ひを払ひ生涯一図ニ母儀大切ニ致
右等之處より好身近郷之交り等睦しく
奇特なる者ニ相違無之候ニ付寛政
十二申年十二月褒美銀被下候 什村安兵衛 四拾五歳

豊後国宇佐郡山口村
百姓
持高拾六石七斗二升 弐合五夕
栄作 當巳四拾九歳

右者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候
處実体なる者ニて父母へ至而叮嚀ニ仕へ
衣食等心を尽し大切ニ致扱ひ父死去後
母へ益叮嚀ニ仕へ且農業出精いたし

諸役目等少も村役人世話ニ而手数不為掛
一統右老母を大切ニ取扱候由申等之處
より近隣之交り睦しく有之右躰
奇特なる者ニ付遠藤若狭守ニ而寛政
十二申年十二月褒美被下置候　此時景作四拾歳

豊前国宇佐郡山本村
百姓　嘉兵衛
當巳弐拾八歳
持高七石七斗三升四合
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處父ハ嘉兵衛三歳之時死去母壱人
有之右母無為之慰極貧ニ而老者ニ而農業出精
いたし　右嘉兵衛を養育いたし　幼年
嘉兵衛追々成長いたし　正直実体なる

者にて諸事母之言ニ不背農業ニ精
出し及壮年並母を叮寧ニ致親類
和之睦し母義今以息災ニ罷在候
極老ニ付てハ殊ニ附夜食等之其持随意
ニ計養母も右等之心底を悦ひ楽ミ暮
し申候奇特成る者ニ付遠慮ニ居候ニ付
寛政十二申年十二月褒美被下之　此時右之倅　拾九歳

豊前国宇佐郡平原村
百姓　忠五郎　當巳六拾弐歳
持高八石七升七合三夕
右之者孝心之趣村役人共申出ニ付相糺候
之處兼而実体成る者ニて母ニハ至而叮寧ニ
事へ家内ニも申教正直一統右母を大切
ニ致候処右母近年老耄いたし時々
患療成る事のミ申も中ニ山遊なと出候へ共手をとり携

食物等ニ至迄心を尽させ夜具等迄
弟兄共暑寒之憂無之様心を付律義ニ一同
大切ニ致し殊ニ其上農業出精いたし諸
役目等茂村役人世話ニ不成様心懸奇特
なる者ニ相違無之ニ付寛政十二申年
十月褒美被下置候 此時甚左衛門四拾三歳

豊前国下毛郡小袋村
社人
小袋田宮
當巳四拾四歳

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而実躰成者ニ而父久々大病相煩候節度
々看抱無怠丁嚀ニ取扱食物等相好進之
尚父死去いたし候ても取並仏事等なる
迄ニ取計其後残候母へ益丁嚀ニ事

社参怠なく近隣之交等迄睦しく
有之旨称奇特なる者ニ而遠近ニ而称候ニ付
寛政十二申年十二月褒美銀被下 [illegible] 三拾五歳

豊前国下毛郡大野村
百姓
巳之吉妻
さて
当巳四拾弐歳
持高三斗弐升四合七夕

右さて者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而貞実なる者ニ而姑へ至而丁寧ニ仕
給物等貧しき中より種々手稼を以
生得不自由之病身之上夫巳之吉儀も

遠方へ稼ニ出候ニ付留守之間も右ニて
獨ニて農業ニ出精いたし殊ニ近鄰と
交り等睦しく奇特なる者ニ付達
御聴候ニ付寛政十二申年十二月褒美
為取之 当時三拾三歳

豊後国下毛郡上植野村
百姓 長兵衛 歳巳五拾歳
持高四石五斗四升九合
同人妻 さよ 歳巳四拾八歳

右之者儀孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺
候處兼而実躰成る者ニて父母へも常々叮寧ニ

未タ弱年之節父死去いたし母も久しく
相煩老年ニ随ひ程なく相果候ニ付
愚癡なる者ニ而己中ニ而も左少歳ニ而夫婦
之者右申合女抱候得共何事茂随ひ申候小
前斗其上農業諸稼等昼夜とも之次
出精いたし右稼之處より衣食之憂
無之様ニと心懸津無田畑も追々買入不廣
自作いたし候得共当村ニ而も宜敷兵清当高之
者ニ而独身ニ而女抱いたし孫抱も身届
就中至而役之丈夫ニ而丁寧ニ致世話
奇特なる者ニ付遺言ニ付享和元酉年
五月褒美として銀被下置 右村 長兵清 四拾弐歳
同 さよ 四拾歳

豊前国宇佐郡椎谷村
百姓 次郎兵衛
當巳四拾四歳
持高二石五斗二升九合
右之者孝心之趣村役人并出候ニ付相糺候處
兼而実躰なる者ニ而母へ至而叮嚀ニ仕へ
兎角右母腰痛強病発老年ニ随ひつのり
なへ必至と難渋ニ候得共右之者妻とも
まゝ世次獨ニ而介抱いたし或ハ佛参

彼是致中ニ而も其身之余(?)諸役致無之
貧しく相暮し候得共母ニ孝行を尽し別而
心を懸弟並ニ家内睦敷自由ニ致させ候様丹誠を
尽し其上農業も諸人ニ勝れ出精
いたし候由奇特なる者ニ付褒美被下置
ニ付享和元酉年六月褒美として銀被下置 其節廿七才 次郎左衛門 当三拾六歳

豊前国下毛郡下池永村

百姓 源蔵 当巳四拾壱歳

持高弐石九斗九升七合

右者孝心之趣村役人ゟ申出ニ付相糺候
処右実躰なる者ニ而極老之継母并亡父之実母(?)
半(?)右母儀へ孝養ニ而(?)遠方迄見送り候
ニ付而も心掛右准し昼夜等ニ八(?)拝(?)
何毎ニ心を用ひ貧しき中ニより給物等ハ

種々工夫を以収納不残済させ候上其上
農業も諸人ニ勝れ出精いたし奇特
なる者ニ付遠近ニ聞居候ニ付享和元酉年
七月褒美として鳥目被下候　此時源兵衛二拾二歳

豊前国宇佐郡山本村
百姓　蔵重　当巳六拾二歳
持高七石六合壱夕
右者奇特なる者ニ有之趣村役人共申
出候ニ付相糺候処全実体なる者ニ有之
右之者妻同村彌平治娘ニ而右彌平
家内死絶老母壱人相残り困窮いたし
殊ニ眼病相煩眼止ミ難渋ニ及候ニ付引請

世話いたし、何角不自由なき様心を付、叮寧ニ
取扱、其上、以前右夜盲眼病を発し候
始、自分も病苦なから、小敷農業を遂させ
彼是心を尽し、数年之間少も怠なく
叮寧ニ取扱、至而奇特なる者ニ付、褒美
寛政元酉年九月、褒美として鳥目を遣し候

此時茂左衛門五拾五歳

筑前国怡土郡平原村
百姓　長助
當巳四拾六歳

持高拾七石弐斗壱升四合

右之者孝心之趣、村役人訴出候ニ付承糺候
之処、兼而実躰なる者にて、父母へ孝行叮寧ニ
事へ、勿論農業諸稼等、諸人ニ抽出
昼夜之無差別相励候、可也ニ渡世いたし
し、以後父母之食物之儀ハ別ニ相拵

叮嚀ニ致看病又は夜起臥
自由ならさる節ハ付添抱介抱いたし其外便溺
等迄病人之随ひ心ニ致扱又死去後も手厚く弔ひ
母江益叮嚀ニ事ひ従寄特なる者ニ付褒美遣
置候旨寛政元酉年九月褒美遣候　当時長助　七拾八歳

豊前国宇佐郡西之谷村
百姓　友蔵　當巳四拾五歳
持高三石八斗六升八合壱夕

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處老母久々相煩病床ニ付方左へも溲ニ
中寄せ候之叮嚀ニ致扱何事ニ老母之
心ニ不背其上農業諸稼等精出して出精
いたし奇特なる者ニ付褒美遣候

ニ付享和元酉年十二月褒美被下置候 此時五拾七歳

備後国神石郡草木村
百姓
持高四石壱斗壱升八合 与之助
文化元子年
三拾五歳ニ而
死去仕候

右者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候処
実父七之丞儀拾八ヶ年以前死去いたし未
幼少ニ而相続相成兼候ニ付親類共之者
母へ継父取組右継父難病差発候迄許

其後継母茂追〻同病ニて歩人在勝手ニ付

歩行も不自由ニ成起居ニ至る迄介抱致し

丁寧ニ致抱かゝへ遣候ニ付而其余薬等

ニ親出生も自分ニて不叶之所手振持ニ而

又母ハ病気も無之貧しく彼者ニ有之候

持ニ候様老人之衣食ニ不自由無之候

此段達嘉者奇特なる者ニ付褒美遣候

享和二戌年二月御褒美銀被下 （小書）附箋之通

備後國神石郡[illegible]村

持高三石七斗壱升弐合　百姓　貞七　當巳四拾七歳

右之者孝心之趣村役人訴出ニ付相糺候

之処無相違実躰なる者ニて実母ともニ丁寧ニ

取扱妻子へも申付置夜ニ寝し母ともニ丁寧ニ

取扱得物等自分ハ麁食いたし母ハ別ニ

拵へ其上母之好ニ随ひ少も忘すニ二月農業も

諸人ニ勝れ昼夜のわかちなく出精いたし
右躰奇特なる者ニ付遠江守在所ニ付享和
二戌年七月褒美として差遣ス其時歳七拾歳

豊前国宇佐郡元村
百姓
内蔵七後家
むめ
当巳五拾六歳

持高弐石弐斗五升九合

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之処無類貞実なる者にて極老之姑居
之処当百町嘩ニ来ハ別久猶病等之津当
進之右極老之事故歩行も不叶成候ニ付

佛参詣致し候事ハ勿論脊負ひ候連参女
之身分ニ而勿論農業諸稼等他人ニ勝レ
實躰奇特なる者ニ而遠近之者感居候ニ付享和
二戌年褒美銀被下 此時むめ 四拾九歳

豊前国宇佐郡乙女村
百姓
金作
當巳年拾弐歳

持高三石六斗

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處無類實躰なる者ニ而母へハ至而叮嚀ニ
半ハ無之貧しく右者ニ而居宅在村中へ
日分差出小舟ニ而其日稼之漁猟ニ出
母老年ニ随ひ盲人ニ相成候ニ付而ハ其節ニ

幼少より農業出精いたし其時〻ハ漁事をも
致し夜分も切縄稼ハ勿論父ハ病苦を
厭ひ候朝も疾より起て老母其日中之給物
等拵置万事母之心ニ不背若等之儀
より農業も諸人ニ勝き出精いたし
持高之外ニ田付無之無地ニ而茂
苦労ニ不厭出精いたし候ニ付奇特なる者ニ
相達候ニ付享和二戌年七月御褒美として銀 当時金作 二拾巳歳

豊前国下毛郡加来村
百姓 為吉
当巳弐拾巳歳

孝行

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之処兼而実体なる者ニ而母祖母ハ勿論
叮嚀ニ致シ祖母ハ老年ニ随ひ気随ニ而
相成母ハ病身等ニ而不相勝ニ有之候処耕作
無拠母之中合も心を扱ひいたし尤夜分等も

右祖母之儀凡よつ年何無く而老衰し数年来ら
祖母も不及病身者ニ而寺等之仏庵より
近郷之交睦しく込るる者ニ付居候
他之田畑九反余も不作ハ無し農業相励
中ニ而寺寄特なる者ニ付遂差候ニ付
享和二戌年　九月褒美として鳥目被下
此時為吉拾七歳

豊前国上毛郡　村
百姓
武重
当巳六拾七歳

持高六石七斗

右者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候所
無高之実躰なる者ニ而父久しく積相煩
老年ニ及ひ候増候養必止之難渋ニ
有之候処昼夜無怠介抱いたし万事父之
意ニ不背可寧ニいたし農業も諸人ニ

渡世出精いたし、右躰奇特なる者ニ付遂
詮議ニ付享和二戌年九月褒美銀被下候 此時六拾歳

豊前国下毛郡蠣瀬村
百姓
徳兵衛娘
らく
文化二丑年四月
弐拾四歳ニ而死去
仕候

孝行

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而貞実なる者ニ而父母并兄壱人有之
至而貧しく相暮居候処父母とも老年
ニ及ひ盲人ニ相成、兄ハ幼年ゟ怪我いたし

不具ニ相成候處心正しく難澁ニ相成候ニ付老らく
甚ニ稼いたし其給金を以父母を見継一夜
並二夜並寛其々其上先脇を見父母へ
安否を伺ひ孫者ニ至る迄髪形も相整
實躰ニ而養育人茂情ニ給金ニ外々も宛
仕津等篤いたし其由を相心て相進め者も自分ニ
而因書料ニ足しいかと彼是仕を配り候
町寧ニ取扱候由奇特之段享和二戌年
九月褒美被下置候此時ニ拾六歳其後益丹誠を尽し
母抱御座候奇特之儀ニ付尚又翌年九月
褒美被下置候

豊前國下毛郡大允村
百姓
兎吉
當巳ノ拾七歳

持高八石弐斗

右之者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
之處無類之実躰なる者ニ而父母へ至而丁寧ニ
事へ父母共生得酒を好候ニ付貧しき中より
不絶求め差進之衣服等迄心を添兄弟
妻子等ニも申教置候一統睦しく有之

農業も諸人ニ勝れ出精いたし、右様奇特
なる者ニ付、褒美遣候ニ付、享和三亥年
同二月褒美銀被下之候 此時寅吉 四拾壱歳

豊前国下毛郡蒲田村

持高四石九斗四升余 百姓 傳蔵 文化元子年十月 六拾弐歳ニ而死去仕候

右者孝心之趣村役人より申出候ニ付相糺候
処、無類之実躰なる者ニ而、母へ至而丁寧ニ
年〻罷在候、右母中風相煩候ニ付難渋ニ
成行、母ハ無怠介抱いたし、作間ニハ日雇

稼等いたし其餘残を以姑之衣服を誂させ
寒夜ハ其身終夜火燵を抱へ置姑を暖め遣し
右等之病症有之度々ハ不寝事も有之候
之看病等隣之致させ親類共方へ参候
之由申姑を脊負ニ而連参可申由
叮嚀ニ取扱候由右体奇特なる者ニ達
御聴ニ付享和三亥年三月褒美として銀五枚 付傳蔵 六拾壱歳

豊前國宇佐郡[illegible]村
百姓 岩蔵 當巳四拾七歳
持高九石弐斗六升
右之者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候
之處至而実躰なる者ニ而老母其儀拾
八九年来中風相煩起臥等不自由有之候
之処昼夜抱起いたし大小便等之世話
其身妻子共へも取扱せ候自分獨ニ而

母之随ひよく扱昼夜貧しく其者ニ有之
後老母之給物斗ハ別段叮嚀ニ拵置
進之妻子等へも申教置度一統老母を
叮嚀ニ扱其上農業諸稼等昼夜と
なく致出精いたし兼而奇特なる者ニ
相違無之ニ付享和三亥年十二月
褒美として鳥目被下之 于時岩右衛門五拾壱之歳

豊前国宇佐郡村部村
百姓
唯右衛門 当巳五拾壱歳

持高七石九斗

右之者孝心之趣村役人ゟ申出候ニ付相紀候
之処同郡同村百姓岩右衛門之兄弟迄
別家いたし毎し兄又貧しく暮候処
右老母其頃十八九年来中風相煩起臥等
不自由有之ニ付岩右衛門方へ引取昼夜介抱

叮嚀ニ介抱いたし、或佛参致度旨老母
申出候得は、早速召連参り、かたわらしく小
脊負召連参り候事も有之、母ニ孝を尽し
取斗、農業出精いたし、至而寄特
なる者ニ付、御褒美被遣候旨、享和三亥年
褒美被遣置候　此時惟蔵四拾五歳

豊前国下毛郡洞田村
百姓
条吉　当巳二拾弐歳

孝行

右者寄特なる趣村役人訴出候ニ付相糺
候処、無高貧しく相暮、幼少ニて両親ニ
相離レ、祖父母ニ養育請成長いたし候
ニ処、至而実躰なる者ニて、幼年より右祖
母を叮嚀ニ致、諸稼昼夜ニ出精、別而相働候

衣食足寒く憂無く相可申よい無し旅
寺特なる者にて申遣候其に付文化元子年
二月褒美として鳥目被下候　当時久米吉 弐拾七歳

豊前国宇佐郡寒水村
百姓　陸蔵　当巳三拾八歳
持高四石壱斗七升
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
兼而貧しく相暮候得共実体なる者にて
極老之父母へ孝道可申よ事ニ而父母老年に
随ひ衰弱より至而病身なる事故相勤
抑其上耕作可申よ孝心農業相励

奇特なる者江被遣置候ニ付文化元子年
七月褒美被下置候 廿附陸鳥 又拾三歳

備後国神石郡光信村
組頭 惣兵衛
當巳六拾歳

持高六石壱斗三升八合

右之者孝心之趣村役人共申出ニ付相糺候処
兼而実躰なる者ニ而極老之実母を始
丁寧ニ取扱候ニ付妻子共見習之一統共
律義大切ニいたし殊ニ右母老衰いたし
種々之給物等好候ニ而も言ニ不背志小

求め兼給させ其上後言農業たゆまぬ所入能
奇特なる者ニ付遠藤若狭守より文化
元子年五月褒美へ鳥目遣候（此時忠兵衛五拾五歳）

備後國神石郡光信村
百姓
持高六石九斗壱升六合　仁助
當巳五拾六歳

右者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
之處無高ニ而貧窮なる者ニて老母へ孝行心懸ケ
事へ老母生得酒を好ミ候ニ付貧しき中より
稼之手隙を以おゝ究め求め盃酒を
其外食物等別而心を盡し常々農業も出精

出精いたし右之者儀獨斗并例年他ニ小
勝之出精之段致奇特なる者ニ付遂
吟味之上文化元子年青銅貳拾貫文差遣之　此附仁加 □拾壱歳

豊前国宇佐郡今井村
百姓　神太郎　當巳三拾九歳
持高五石七升四合弐夕
右之者孝心之趣村役人共申立候ニ付相糺
候処貧しく暮極老之母有之候處
其頃六七ヶ年来之目人ニ相成食事等
自身ニ而者いたし兼候次第ニ有之候看病と
して膝之妹相頼候得共何分母之心ニ不叶候處

離縁いたし幼抱等獨りにて世話いたしよ
く扱耕作ハ勿論諸役目等も村方並合ニ
劣る事なく遠方へハ不参我一図ニ大切ニ
取扱候ニ付奇特なる者ニ而近邊迄も聞居
ニ付文化元子年十月褒美として遣之 [illegible] 二拾八歳

豊前國宇佐郡若林村

持高三石七斗五升六合　百姓　友蔵　當巳三拾三歳

右者孝心之趣村役人謂出候ニ付相糺候處
無高ニ相成候者ニて其身父母へ至而丁寧ニ
半年以前父母共病身ニ罷成候ニ付貧窮之中
より薬用等世話丁寧ニ幼抱共衣食等
不自由無之様いたし夜分も稼方仕候處也

父母之側へ参り四方山之咄等いたし病苦を
慰め候ニ付父子共敬ひ候て村中ニても
やさしき者と申候由、農業出精いたし家内
睦しく隣家之交も厚く殊勝なる者ニ付
言上ニ付文化二丑年二月褒美として銭を
村友蔵　弐拾九歳

豊前国宇佐郡萱津村
百姓
持高六石七斗九升弐合　兵蔵
當巳二拾弐歳

右者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺
兼而貧しく相暮候年より農業稼いたし
其給分を以父母を相育み其後先より
日々安心致させ候由、御年貢等も自由に相勤候様
漸く家内相応に追々父母老衰いたし候ニ付別而

農業手稼等昼夜ハ不及申別而出精いたし
困窮之中より朝夕食物等別ニ拵置為
給候いたし候処右母老衰いたし折々病気
なる節ハ中与頭保養其外深切叮嚀ニ手当いたし候処
近来歩行も不相成候ニ付昼夜看病いたし
保養いたさせ候中母死去いたし候後父ハ益叮嚀ニ手当いたし
旁之段奇特なる者ニ相違無之ニ付文化二
丑年二月褒美として銭被下之 父兵右衛門 八拾八歳

豊前国下毛郡大新田村
百姓 和助 当亥四拾二歳
持高弐斗八升壱合五夕
右者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候処
幼少より父ニ離し母を養育いたし若年より手稼をいたし
候処母も日々叮嚀ニ事へ其身者手稼いたし
農業ハ出精いたし相励持高之外下作高七石六斗余
自作いたし昼夜之差別なく相励居候由也

渡世いたし衣食等之憂無之様いたし
遣し、尚又不出精酒を好候ニ付、色々異見
を以申聞、完日之為稼又は同村酒店ニ参
又ハ價等持参ニ而致呑候ハヽ為稼罷出候
之紙数并無益事仕間敷可心寧いたし猶教
なる者ニ相遂候ニ付、文化二丑年七月
褒美として鳥目遣ス　亡父和助 三拾九歳

豊前国下毛郡今津浦
漁人
惣五郎 当巳四拾七歳

右之者孝心之趣浦役人并出候ニ付、相糺候処
兼而実体なる者ニ而、父母江も可寧ニ仕、尤
勿論漁猟ニ出精いたし、衣食等不
自由無之様いたし、殊ニ家内一統睦しく有之候
之処、母死去後ハ父極老ニ而歩行も不相成ニ付

ニ付祭日ニ者佛参等為致或年浦一統疫病
流行いたし家内無別家兄悪次郎与申者
且又家内之儀老親始右悪次郎妻家之看病
丹誠を尽し介抱いたし候段奇特なる
者ニ付褒美遣候旨文化二丑年四月褒美
銀被下 此時悪次郎 四拾二歳

備後国神石郡東油木村
百姓 又助
当巳五拾弐歳
持高弐石九斗八升九合
右之者孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候
処至而実体なる者ニ而母へ至而叮嚀ニ
いたし其上妻之親兄妹始同前ニ取扱候
之処間々世話いたし女房之母ニも至而
叮嚀ニ致不自由無之様相心かけ夫家内ハ

勿論近鄰之交り等迄睦しく有之
且農業昼夜之無差別出精いたし候
奇特なる者ニ付被遣候ニ付文化三
寅年七月褒美銀被下候　此外又助　又拾歳

孝心

豊前国宇佐郡尾永井村
百姓
勇助
当巳二拾八歳

右之者奇特なる趣村役人申出候ニ付
相糺候處無類貧しく相暮妻と
祖母并母共是を相養月之着も無之し
相暮候處困窮之中へ少文宛ニ祖母同家
而る叮嚀ニ取扱持高茂無之候得者不仕合

農業ハ勿論出精其隙ニハ縄綯稼
いたし候而衣食等見継憂無之様相計月々
殊ニ寄特なる者ニ付褒美遣置候旨申達候ニ付文化
四卯年四月褒美ハ為取之 此時年齢二拾六歳

筑前国怡土郡荻浦村
百姓 定治
当巳五拾五歳

持高弐斗弐合

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之処無る貧しく相暮兼農業之稼いたし
居候処実躰なる者ニて極老之母へ孝当
可致与手業之先より毎夜之相務母之
安否を伺ひ肴海老并物等遣之しくれ候

得と自身も一夜之仮寝もいたさず、母へも衣食等
不足無之、寒暑之憂無之様相心掛、常々丁寧ニ致候
之段奇特なる者ニ付、御褒美遣ス旨伺之通申付、文化
四卯年二月、御褒美銀五枚 当時実治 又拾三歳

豊前国宇佐郡大村 百姓
持高壱斗弐升 喜兵衛 当巳之拾又歳
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付、相糺候
之処、無比貧しく、喜兵衛幼年より生立
稼いたし、其外実躰なる者ニ而、極老之
母へ孝行丁寧ニ事へ、生立候より日々之
安否を伺ひ、勿論農業致出精いたし

并未立入之為当一ヶ出精いたし候ハヽ
薪等伐出し持返り又ハ津出等之處より
夜繩等色々と覚いたし暑寒之差別なく
いたし候且夜分ハ稼仕舞帰り候を母へ
孝養等格別朝暮不自由無之様丁寧ニ
いたし候段奇特なる者ニ付褒美遣之候ニ
付文化己卯年五月褒美遣之候 当時七拾二歳

豊前国宇佐郡上植木村
百姓
磯吉
當巳年拾弐歳

持高三石六斗

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處無高至而貧しく其暮同村ニ而年季奉公
いたし兼而知実躰なる者ニ而盲人之母へ
至而丁寧ニ仕事ハ勿論添ニ宿へ帰り母へ食物
等色々と津出等格別不自由無之様取計いたし候

之處右母追々老衰いたし候ニ付其日稼も
不相成極難渋ニおよひ候処農業諸稼昼夜
之無差別出精いたし色々之光を以養
ひ憂無之様丹誠を尽し叮嚀ニ手入候
奇特なる者ニ付達御聴候ニ付文化四卯年
五月褒美銀遣之 此時孫吉八拾歳

豊前国宇佐郡下庄村
百姓
浪蔵後家
ふさ
當巳七拾八歳

持高三石弐斗余

右者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
之處無類貞実なる者ニて姑へ対し叮嚀ニ
手入候処夫浪蔵死去いたし其上幼少之子供
五人有之候得共益困窮ニおよひ候処右ふさ手も

不厭農業も勿論手稼迄昼夜之無差別
出精いたし養飢渇之憂無之起臥等迄
心を尽し万事丁寧ニ取扱候奇特なる者ニ
付遠ニ注進ニ付文化己巳年七月褒美
為取之 此時姉ニ三拾二歳

豊前国下毛郡森山村
百姓
持高六石壱斗弐升五合 倉吉
当己巳拾八歳

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處貧窮之実躰なる者ニて極老母ニ而有
丁寧ニ事へ勿論農業ハ出精いたし其隙ニ
城下ニ而酒造稼ニ出候ハ右之處行程二里程も
隔り候ニ一夜而無之候ニ付母之安否も伺ひ

右等之處より衣食等夢文也を盡し
不自由無之様相勤候得者家内者勿論親類
之交も睦しく有之右体奇特なる
者ニ付褒賞遣候ニ付文化四卯年二月
褒美として鳥目遣候　此節倉吉　四拾六歳

豊前国下毛郡呂則村
百姓　源右衛門　當巳四拾壹歳
持高四石三斗八升
右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處兼而実躰なる者ニ而極老之父へ
至而叮嚀ニ仕事ハ勿論農業出精いたし
衣食等之憂無之様仕候得ハ殊ニ近年之父
老衰いたし候ニ付他行等別而心を盡し手増

叮嚀ニ事へ候處近来老耄いたし候ニ付
其病難なる事右申ニ付候尚以猶又叮嚀ニ
取扱ニ候奇特なる者ニ付褒美遣候文政
己卯年六月褒美として遣之 已附源馬 三拾九歳

備後国神石郡階見村
百姓
持高弐石七斗六升九合　忠兵衛 當巳五拾三歳
同人妻 ち津 當巳三拾八歳
右者兼而孝心之趣村役人申出候ニ付相糺候
之處無高之身分貧しく相暮候得共実躰なる
者ニて若年より父母へ至る迄叮嚀ニ事へ殊ニ父母も

老病ニ而去冬共頃二ヶ年程之前臥候ニ付猶更
相労リ看病なる事ハ不及申夜中も度々起
丁寧ニ取扱薬用并衣食等困窮之
中より種々作略いたし右等不足無之様いたし
尚又農業之合間ニ手稼等迄出精いたし
家内親類迄茂睦しく有之誠奇特
なる者ニ付遂吟味候ニ付文化四卯年
七月領主より褒美遣ス 此時忠兵衛湯四拾九歳 同りつ二拾四歳

豊前国宇佐郡小山村
大庄屋 小山安兵衛
持高八石七斗弐升 専之丞 当巳又拾四歳
右之者孝心之趣ハ其身ニ付親戚迄善
實体なる者ニ而日頃
公義をおそれ且又父母ニ事る丁寧ニ其上
又生得酒を好ニ付少々宛不弱未納ニ進め
何事茂父母之意ニ不背又兄弟いたし候

才蔵ハ母へ益叮嚀ニ仕へ先祖佛事等ニ
聊怠りなく家内一統睦しく右老母を
大切ニ取扱別而姑儀ハ常若妻又母
祖母へ叮嚀ニ仕へ候由畢竟右之者行届
候故之儀ニ有之且又文化己巳年右之忠
組内同郡上矢部村孝婦いちと申者追々
相續之為配中付ハ如右家作之材木等ハ
自分之持山之内より出候寄特なる
之品ニ付追々御褒美被下候付同年九月より爲御褒美
老母生涯年々麦五俵宛被下 此時老母八拾弐歳

豊前国宇佐郡下拝田村
百姓忠兵衛店
傳蔵倅

源作

當巳四拾弐歳

右之者孝心之趣村役人共申出候付相糺候
之処素直ニ実躰なる者にて父ハ当時隠居
之取扱衣食等之儀も[illegible]父老年におよひ候
付主人忠兵衛方世話之役儀父ニ代り勤る

実躰ニ而耕作而已心懸無懈怠死去以後
ニ付其後者自分之宅へ引取下作等
相預ケ農業出精いたし候得者家業も有之候
得共右家相続人故先方へ立入一旦
立合相家督相続並親類共農業之
無之付田畑山林掃除等迄先者先方入添
相生之内同人与相互ニ津守又随分念入
取計其外奇特なる者ニ有之候故右之趣御聞ニ付

文化四卯年十月より為褒美又被成生涯
年々麦弐石宛 此村源七 四拾歳

備後国神石郡小畑村
百姓
安兵衛後家
たき
當巳四拾弐歳

持高三石四斗八升余

右たきハ孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
処貞実なる者ニ而姑へ平日丁寧ニ事へ候
之處右姑疾病相煩起臥不自由ニ有之候
ニ付猶以丁寧ニ介抱いたし　農業ハ手稼等も

昼夜不怠別出精いたし薬用等之儀
女之手業ニて不等閑衣食等之憂
無之様相心を盡し常々奇特なる者ニ付
諸人ニ付文化四卯年十二月褒美として鳥目被下 此時たち四拾歳

越後國魚沼郡栃湯村
百姓 清四郎 當巳五拾歳
持高拾弐石弐斗四升
同人弟 兵次郎 當巳四拾六歳

右之者共孝心之趣村役人訴出ニ付相糺
之處兼而実躰なる者ニて極老之父ヘ
至而叮嚀ニ仕ヘ勿論農業無怠出精

いたし衣食等迄も寒暑之憂無之様手
に自由無之様致し其外常々夫婦睦しく
親類等并交遊之者江も和順いたし奇特なる者ニ付
相達候ニ付文化四卯年十一月褒美
銀被下候

同村 清四郎 四拾八歳
同 兵次郎 四拾四歳

備後国甲奴郡大前九村

持高拾壱石壱斗六升 百姓 兵十郎
當巳 五拾五歳

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處至而実躰なる者ニて平生父江孝
行ニ仕農業ハ勿論手稼等迄も
昼夜無怠別出精いたし衣食之不自由
無之様いたし夏ハ蚊帳を釣冬ハ夜具之暖迄

叮嚀ニ取扱候段奇特なる者ニ付遂詮
松任ニ付文化元子年十二月褒美として銀遣ス 此時六十二歳

豊前国下毛郡上深水村
百姓
徳兵衛
當巳五拾五歳

持高七斗七升六合八勺

右之者孝心之趣村役人弥出候ニ付相糺候
之處家内七人をも初め之子倅斗にすけ
ニ於候者も右之渇世過るに貧しく暮
実躰なる者ニて極老之母ヘ至る叮嚀ニ
其上兼而困窮なる者ニ有之候ニ付衣食等

手間之節ニ付農業之合間出精致候等、
深更ニおよひ候迄手稼等いたし、猶又
老人江ハ不自由無之様丁寧ニ孝養致
奇特なる者ニ付遂吟味候ニ付文化丙寅年
三月褒美鳥目遣之 [illegible]拾三歳

豊前国下毛郡永添村
百姓
持高九石八斗三升壱合夕　民助 当巳六拾六歳

右之者奇特なる趣村役人訴出候ニ付相糺
之處無類之誰人ニ相勝実体なる者ニて
農業之外ニ手稼等昼夜を不致次
可也ニ暮候ニ鄰家ハ極老之後家壱人
有之候ニ好身無之者も無之ニよる趣也

むつましく捨置候を憐ミ難渋救候而諸
家内同様ニ深切ニいたし當老衰ニ
随ひ候ハ叮嚀ニ世話いたし候段奇特
なる者ニ付褒遣候段申渡候文化五辰年
三月褒美として鳥目遣ス　此時六拾五歳

豊前国下毛郡加来村
百姓　兵衛
当巳六拾六歳
持高弐石六升八合七勺

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處兼而実躰なる者ニ而極老之母江
孝心を叮嚀ニ尽シ農業を勤海辺稼等
まて昼夜無怠別而出精いたし給物等之
儀者万事無怠叮嚀ニ尽し候段奇特なる

之趣相違無之候ニ付文化五辰年三月
褒美為取置候 此時奥年 四拾五歳

豊前国上毛郡大瀬村
百姓
持高六石壱斗　兵助
当巳二拾六歳

右者孝心之趣村役人聞出候ニ付相糺候
之処幼少之砌ゟ筆学ニ余念無之者ニ相知
兼而実躰なる者ニ而其上父ハ至而偏屈ニ
事ハ勿論農業之手稼等昼夜をも不の
毎次出精致し可也ニ渡世衣食等之憂

其後心懸律義丁寧ニ事へ候段身持宜家内
一統大切ニ取扱候段奇特なる者ニ付遂
詮議候ニ付文化五辰年九月褒美銀五枚遣候 時ニ年 三拾弐歳

豊前国下毛郡加来村
百姓
善作娘
まさ

持高五石

文化五辰年
拾二歳ニ而
仕ニ

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之処幼少より和順なる生質ニ而父母之
教訓背候儀無之成長ニ随ひ候而身実ニ
育し父母へ至而丁寧ニ事へ農業ニ相励

女ニ而仕事迄諸人ニ勝れ昼夜無油断
出精致し勿論孝心ニ而兄弟睦敷父を始物
等まて父母之世話ニ而兄弟独ニて世事等末
世話いたし其上夏秋農業廻し候
其余も少々稼ニ酒を求め父母へ為給候事
行届可申ニ付事ニ候処去ル還諸社ニ而（拾六歳）
褒美可差遣旨吟味之処病死いたし候ニ付
右名前出候ニ付先年之者共可相成候ニ付
孫弐者ニて奇特なる者ニ付出候ニ付文化
戊辰年十月石牌料親共へ差遣ス

豊前国宇佐郡元村
百姓
源之進
當巳三拾六歳

持高拾二石

右之者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處無高ニ實躰なる者ニて父母へ至而丁寧ニ
来り、別而農業諸稼等昼夜無差別
出精いたし、衣食等暑寒之憂無之様
仕、其上律儀丁寧ニ致、殊ニ候奇特なる者ニ付

[illegible]遠奇特ニ付文化元子年十二月褒美
被下置候　時源蔵三拾五歳

豊前国宇佐郡元村
百姓
沖右衛門
当巳ニ拾壱歳

持高拾石弐斗

右者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
処、無高之貧しく志厚候得共極老之
父母へ至而叮寧ニ事へ食物等心を尽し
殊之外困窮之中より彼是心を配り衣類等
暑寒之憂無之様叮寧ニ取扱且農業

至る去加迄郷之文等迄聴しくれ候
之段奇特なる者ニ付遂吟味候ニ付文化
五辰年十二月褒美として銀遣候　此時汁右衛門三拾七歳

豊前国下毛郡上深水村
百姓
庄蔵
當巳三拾八歳

持高二石九斗

右者孝心之趣村役人申出候ニ付承候
之処無高之実躰なる者ニて極老之母へ
至る迄丁寧ニ事甚上難渋之伯母を同道
親同様ニ丁寧ニ取扱候処母老衰ニ及候ニ
付夜食飲乾物等迄仕其津夜中

後夜炉火を焚き又其身も枕ニ添ひ介抱いたし無
油断近隣之者共感涙ニ及候程相勤候処
極老之母無病母存命之内者介抱之儀
難斗存候儀一図ニ大切ニ致夜農業
諸稼等昼夜無怠出精田畑等も追々
相求候等奇特なる者ニ付達御聴候
二
付文化二丑年十二月褒美銀被下置候 此時歳三拾七歳

豊前国下毛郡今津村
持高弐石三斗弐升六合七夕 百姓 利助 当巳二拾七歳

右者孝心ニ而村役人共申出候ニ付相糺候
処無程貧しく其暮方実躰成る
ものニ而父母へ安否叮嚀ニ事へ農業を
勿論其外稼等迄昼夜ニ無怠別而出精いたし
衣食等之儀も寒暑季ニ応し叮嚀ニ仕

平日ハ別而奇特なる者ニ付褒美遣候ニ付
文化三寅年十二月褒美ニ鳥目被下 此時多助二拾二歳

豊前国下毛郡大畑村
百姓
庄八娘
志け
当巳弐拾六歳

持高弐斗弐升

右之者孝心之趣村役人評出候ニ付相糺候
処、生得和順なる者ニ而父母ヘ孝養之心厚
平日ハ無高困窮なる者故幼年之時より
奉公稼いたし其給金を以父母を扶育之

其上数年来心掛候而家作等いたし置
割元役老年ニ随ひ病身ニ相成候ニ付其先
より毎夜中ニ脈を見ニ罷越又安否を伺ひ
薬用等之儀も律儀ニ大切ニ致介抱いたし居
ニ付去辰年十二月父死去いたし候ニ付葬式等
ニ至迄親類共之指図ニ不依諸事入念
取計候而厚く法事も相勤候以母へ無油断孝
尽候段近村ニ而も奇特なる者ニ付遂吟味候
ニ付文化六巳年正月褒美銀差遣候

豊前国下毛郡大新田村
百姓
吉次郎妻
やゑ
当巳弐拾五歳

持高三石八斗

右之者貞心之趣村役人共申出ニ付相糺候
処、兼而貞実なる者ニて、夫ハ三ケ年以来
事ニ而農業更ニ難渋、病夫養可仕様も無之
益貧窮ニ付、右やゑハいまた若キ者
他ヘ嫁之儀、夫吉次郎病中之節

其村名主支配中之孫角當二月爲差紀
親元へ参り候ニ付親類組合者共右村寄合相談之者
之病症差發ニ付上下一統ニ不安ニ相成抱り候
差返候儀者其支配中之ニ付有様窮屈ニ
候ニ付里方共一統難渋致しニ付御沙汰
益貞操之身分抱置候而ハ薄ニ農業諸
稼等差障ニ付而ハ出精致し候ニ付
近郷ニ而者右近邊迄も鱗ニ而申聞たなる
者も相違無之ニ付文化六巳年二月褒美
差遣候

豊前国宇佐郡大塚村

持高五石八斗三升四合　百姓　佐兵衛

当巳拾弐歳

右之者孝心之趣村役人共申出候ニ付相糺候
処兼而実躰成者ニ而農業ハ勿論
叮嚀ニ相勤且父極老ニ及ひ中風相発
起臥等不自由ニ有之候処如在無く相抱いたし
并父之療養等迄心を付ハ当時者壱人ニ而

又ハ随分ニ相稼候由田畑農業ニも出精
いたし家内一統睦しく奇特なる
者ニ付褒美遣候旨ニ付文化六巳年正月
褒美為取遣候

豊前国宇佐郡上橋本村
百姓 又四郎
当巳二拾七歳
持高三石六斗四升

右者孝心之趣村役人訴出候ニ付相糺候
之處同郡大塚村百姓佐兵衛事又兵衛与
申者之実子ニ而幼少之時右上橋本村へ
貰受ニ参候処五里余茂相隔候処実父
中風ニ而起臥も不自由ニ有之候旨二三日

右躰ハ始終心を配り安否を窺ひ遠路之處
往来等迄も丁寧ニ手入いたし奇特なる者ニ付
相違無之旨申立候ニ付文化六巳年三月褒美為取之

豊前国宇佐郡若林村
百姓
松蔵妻
加祢
当巳弐拾九歳

持高弐石三斗七升

右之者孝心之旨同村村役人申出候ニ付
相糺候処右同人儀至而貧しく相暮
其上夫松蔵儀三ケ年以前より癪病
発し農業も不相成見苦敷躰ニ相成

右体之者ニも不厭叮寧ニ介抱いたし
其上松葉へ母乱髪なる者ニて依頼ニも
悪癖なる段申候得共不肖附属候ニ付
無之衣食無乱以前ニも無之を附け立る
叮寧ニ穀剤御与へ子供等迄諸農事
無すけに相勤候者も無之追日困窮ニ相成
之處右体之老人ニて精力を尽くし
農業之間海漁猟等昼夜之無別
出精いたし或山ニ行柴薪を伐採又ハ
人ニ雇はれ候得残をも取色々少々薬用等も
女ニてハ業不及無之いたし山仕
悪病之段其上老母も無之追日相募候処
益貞操等無之等深致介抱いたし候段
奇特なる者ニ付褒美遣候旨在候文化六
巳年二月褒美被下之

豊前国上毛郡今吉村
百姓　吉七
当巳年拾八歳
持高弐石六斗

右之者兼而実躰之趣村役人申出候ニ付
相糺候処農業ハ不及申油断無之出精いたし諸年貢
並諸役向等閑不致身分相応之付合無滞
何事も村方役人江不相背人之為ニ相成事ハ少も
相成者と有之ニ付右之者年来之頃ハ留

孫治まて三拾歳頃迄農業稼いたし然
実躰ニ相勤候ニ付農業人ハ其主人より
申付ニ是太七ノ勤振見習候様ニと申付候
有之今ハ農業人ニ而年来相励候ニ付其後
農業稼相止夜ハ草履作り自分ニいたし追々田畑等も
相求め其外抱田地等も見又自作いたし
家内之交も睦しく奇特なる者ニ付
寛政十二年文化六巳年巳月褒美として被下之

豊前国宇佐郡小稲村
百姓
倉蔵悴
清四郎
当巳弐拾三歳

持高拾弐石八斗余

右之者孝心之段村役人訴出ニ付相糺
之処無而実躰なる者ニて父母ハ叮嚀ニ
申ハ家内之交りも睦しく而ニ農業
出精いたし奇特なる者ニ付御褒美

此段達ニ付文化六巳年五月褒美被下置

豊前国宇佐郡犬毛見村
百姓 倉蔵
当巳ニ拾八歳

持高七石六斗

右之者兼々実躰ニ而村役人申出ニ付
相勤耕作并農業出精いたし年々
作高も相増諸年貢無滞役目并等実
大切ニ心かけ所并渡何事も村方役人ニ

旁以奇特なる者ニ付達 御聴候ニ付
文化六巳年十月褒美銀為取之

豊前国宇佐郡小稲村
百姓
又兵衛
當巳四拾歳

持高拾四石五斗余

右之者兼而実躰之趣村役人訴出候ニ付
相糺候処農業出精いたし家内之者
までもおのつから右之者を見習同様ニ
農業出精いたし　奇特なる者ニ付達
御聴候ニ付文化六巳年十月褒美銀為取之

豊前国下毛郡土田村
百姓
律七後家
留て
当巳拾弐歳

持高弐石弐斗余

右之者兼而実躰ニ而村役人共申出ニ付
相糺候処子供三人有之夫病死之節ニ者末子盲去
子供壱人ハ律方ニ而弐人之子供及兼
連来迎ニ若無拠稼等いたし夫死去

いたし候後も怠りなく田地減し
不申并農業出精いたし諸年貢并諸
役目等大切ニ心かけ附合何事も村方
和熟ニ而家業奇特なる者ニ付褒美被下
文化六巳年七月褒美被下之

豊前国下毛郡土田村
百姓
添兵衛後家
ふこ
当巳七拾七歳

持高弐石五斗余

右之者平日実躰之趣村役人申出候ニ付
相糺候処昼夜無油断農業并出精いたし
諸年貢并諸役目等まて都而大切ニ
組附合并滞何事も村方和熟ニ不相成

奇特なる者与遠近諸社ニ付文化六
巳年七月褒美被下置候

豊前国下毛郡一松村
百姓
要助
当巳弐拾九歳

持高七石

右之者孝心之趣村役人共申出ニ付相糺候
之処父母とも極老ニ而漸之年齢
邑出てかと出も業無油断いたし丁寧ニ而
先後家内者去二三ヶ年以前より
痳病発し候處右之人ニ食物其外

何事も弥助獨ニていたし　其上先間
年ゟいたし居候日ハ城下江出
勤之透ニ而ハ田畑手おくれ不申候
二付昼夜共油断なく農業出精いたし
極老之父母ハ丁寧ニ事へ病人之兄ハ一ト
看病行届奇特なるとの事ニ褒遣
奇特ニ付文化六巳年八月褒美遣候

豊前国中津城下
諸町
役頭
繁都
当巳七拾二歳

右者無高ニ而親ハ事ハ方匠級町役人許出候
二付老親候紐実ハ孫七ニ家業ニ於て職候
心掛出精いたし親之忌ニ参月夜叉塚江宮も
夜具ニ不拘通り等持へ遠風等ニ致候候

然ル処津要草子類其外以海辺ニ而澤山ニ
有之ニ付海老商賣致度不足毛のさゝ多かり
御領ニ又右巨細ニ承り川西之入江ニ於て
足揃候[illegible]載候ニ雑ニ掛置ヘ為申付
可申旨被仰付候月ゝ成候處是又無程見候
ニ而海老法のへ可奇特なる者ニ付遠
旨住ニ付寛政巳年褒美銭被下 此時[illegible] 三拾六歳

豊前国中津城下
桜町
商人
英屋
儀六
當巳四拾九歳

右者兼而親江孝ニ而方同町役人
ゟ申出ニ付相糺候処平日右之老母
江出孝心を尽し其日稼之身分ニ而
能相嘱ニ而親殺兄弟之ニも睦しく

有之趣奇特なる者ニ付申達置候ニ付
享和二戌年褒美遣置候 此時四拾弐歳

豊前国中津城下
豊後町
商人
今津屋嘉兵衛悴
貞助
當巳四拾壱歳

右之者親江孝心之趣町役人訴出候
ニ付遂吟味候処至而困窮ニ而漸々取続候処
実躰ニ而孝心ニ有之他人之交も叮嚀ニ

親類近所郡内之中ニ而も他ニ類無之奇特
なる者ニ付遠江守殿ニ而享和二戌年
褒美銀被下置候（七附矢助 三拾八歳）

豊前国中津城下
米町
商人
浦田屋源兵衛母
こと
当巳八拾九歳

右之者兼而親ニ事へ方至極能候人
所出候ニ付相續之処去巳七拾七歳ニ而
夫死去いたし候老母并初孫之子供弐人
以之家内四人暮之所殊相林高く老人

子供養方月いたし老母酒を好候ニ付
貧窮之中より毎日相應宛も給させ
萬事叮嚀ニ致し孝心之趣奇特
なる者ニ付褒美遣候ニ付享和二戌年
褒美銭遣之　此時巳ヒ五拾弐歳

豊前国中津城下
米町
源治
佐兵衛
當巳ニ拾八歳

右之者無二親ニ事へ方近頃町役人
訴出候ニ付相糺候処実躰ニ而老母を大切ニ
いたし老母歩行難相成候ニ付安便等
之送迎ニ志つらひ自身能いたし

并ニ母之意ニ随ひ兄弟妻子等も
共ニ睦して孝養致中ニ而奇特なる者ニ付
御達書付ニ付享和二戌年褒美為銀 此付佐次兵衛 同拾壱歳

豊前国中津城下
塩町
商人
塩屋長兵衛妻
姑つ孫
きや
當巳六拾七歳

右之者無之親ハ半ハ方匠職町役人所出
ニ付而親組無之老母ハ孝心之趣奇特
なる者ニ付御達書付ニ付享和二戌年褒美

若者江此附紙
口拾口歳

豊前国中津城下
京町
商人
平村屋与兵衛母
ふ貞
当巳六拾二歳

右之者養母親へ半へ方匠鍛町役人
被出以之付折乱以處老母存生之ニ而孝公
之鍛其上平日実躰ニ有之家内熟和
いたし候与兵衛へ茂実躰ニ而奇特なる

者江御褒美被遣候旨ニ付享和二戌年褒美

若狭江　此附ふミ　又拾九歳

豊前国中津城下
姫路町
庄頭
捏蔵妻
たみ
当巳四拾歳

右之者兼而貞実之趣町役人訴出ニ付
御糺細ニ而難渋之并捏蔵病身之處
致教等迄其上平日貞心ニて奇特なる
いとの江御褒美被遣候旨ニ付享和二戌年褒美

喜蔵ほ 此内たゝ
三拾二歳

豊前国中津城下
京町
商人
西枡屋清助倅
要助
当巳三拾弐歳

右之者当三先ゟ勤方宜敷町役人
申出候ニ付相糺候処幼少より桜屋ニ奉公
中者方江数年当ニ而し平日勤方実躰
ニ而家内江締等ニ至迄律義神妙よ

孝心いたし奇特なる者ニ付御達有之候ニ付
享和二戌年褒美被下置候　此附多助 四拾五歳

豊前国中津城下
姫路町出町
商人
和泉屋文右衛門悴
文次郎
当亥弐拾三歳

右之者兼而親へ事へ方宜敷町役人
訴出候ニ付御糺之処孝心奇特なる者ニ付
御達有之候ニ付享和三亥年褒美

豊前國中津城下
姫路町
大工
庄之助
当巳弐拾七歳

右之者兼而親へ孝行宜敷町役人
訴出候ニ付相糺候処至極神妙なる孝行
有之奇特成者ニ付褒美遣候ニ付
文化四卯年褒美之善吉 竹村庄之助 弐拾五歳

善吉 竹村文次郎 拾五歳

豊前国中津城下

桜町

商人

井筒屋

伊兵衛

当巳三拾五歳

同人妻

ちか

当巳三拾八歳

右之者共儀両親姑へ事へ宜敷町役人
訴出候ニ付相糺候処儀孝心之段其ニ之

近年母病中別而大切ニ致救夫婦ニ而者
若添候抱候処奇特成る者ニ付遂
吟味候処文化四卯年褒美之品遣之
悴伊之助 三拾七歳
同 ちよ 二拾六歳

豊前国中津城下
豊後町
商人
川内屋
善次郎
当巳四拾八歳

右之者当毎母へ随分いたし町役人
訓出ニ付相紀候処孝心其上弟妹
之姉妹多有之ニ付自分之妻子も之次

納所之妹之子佐等迄も行届世話
いたし奇特なる者ニ付被遂詮候ニ付
文化四卯年褒美として銀ニ付 時若輩 四拾六歳

豊前国中津城下
桜町
商人
高田屋儀重娘
さやう
当巳拾六歳
同人忰
紋太郎
当巳拾四歳

右之者左親ハ法之ハ方豆瓶町役人訴出ニ付
母乳為遣継母ハ孝心之趣甚宜候間

不勝手之中右継母伊勢屋宮様立入處
至而貧しく此者方之中よりきゆうハ
衣類等并究分りけハ無し紋太郎ハ
究之存ニ而費ハ無しニ中より撰議等
仕職伊勢屋宮様さセ候無人之者切なく
身上ニて右体之志有之奇特なる者ニ付達
高聞候処文化四卯年褒美銀被下候
但時きゆう 拾四歳
同紋太郎 拾弐歳

豊前中津城下
新博多町
商人
中嶋屋勘一郎店
収作
當巳五拾歳

右之者勤方正敷町役人添出候付支配
之處勘一郎初年之頃身上おとろへ候ニ付
順之差入り相続候處勘一郎兄弟之者共立
商売方も錐し数十年来実躰ニ出精

い無し御勤奇特なる者よ御遣銀被下候
ニ付文化四卯年褒美被下置候　当時水花　四拾八歳

豊前国中津城下
古博多町
商人
車屋
清次郎
當巳二拾歳

右之者親ハ来ハ方匹敵町役人許出ニ付
相乳給才上合も極くよお夢老母ハ
別而懇ニ〆来ハ母之親等迄も相除相通

極て老掛ハ奇特なる者ニ付遠路被仰以
ニ付文化六巳年褒美差遣ス

豊前国中津城下
塩町
商人
茶屋
儀兵衛
當巳四拾六歳

右者親ハ半ハ方正敷町役人所出候
ニ付親類家内七人ニて至極難渋ニ居
当暮家内睦しく老母ニ孝
ニ実ハ称ニ半ハ事ニ方難渋度母も右

ゝ和布参申候ニ付好男とも方へ参居候処返し
罷渡候中から酒食等也と津帯ニ致候
奇特なる者ニ付褒遣相望候ニ付文化六
巳年褒美差遣候

右之通御座候以上

文化六巳年十二月

奥平大膳大夫家来

筑紫是助

豊前豊後国之内孝心奇特者名前

松平主殿之家来
川口長左衛

豊後國国東郡
芝崎村傳九郎娘

きち

当酉四十六歳

一 籾米弐斗

右きちハ人柄宜、母八十八歳ニ相成候処、右きち儀
幼少之頃ゟ先祖野山之佛ニ仕、母好ニ応し何ニ而茂相語セ
寒中ニ而茂薪木世話仕、寒暑之無厭相凌、母申付候儀ハ何事も
相背不申、至而孝心有之、実ニ之所ゟ相應候而母壱人
残置候而ハ服方ゟ難ニ而夜入候迄ハ仕、中々相後不知
不及、其方ゟ揃ニ而織候而夜毎宿ゟ手絹組夕

代を附置候育仕候付毎度家候処猶又村役人
申出候ニ付遠江守殿ゟ為褒美寛政元酉年五月米
遣申候

一　孝行

豊前国宇佐郡
宇佐村
林助
当酉六十一歳

右林助二十六歳之時豊後国出来郡高田村之庄屋
徳兵衛方江年代奉公ニ参当年迄三十六年相勤申候
右林助儀庄屋ニ相勤候而二年程之内右徳兵衛
病死仕悴今助幼年ニ付庄屋ゟ又兵衛病氣之間林助ニ
申付候ニ付右方商賣之道も覚候而不絶申渡ニ付之候
渡世致候之病氣今快ニ付江戸へ罷出當戌年今助十七八歳ニ
相成候ニ付右之段世話仕悴商賣之道教家相續致候様申含
其後徳兵衛病死仕候後右林助遣云右今助を
大切ニ致候育仕商賣方も出精仕私欲無之候様申合
庄屋今助ゟ商賣方能教候而今助十六歳ニ相成候ニ付
妻縁組仕剰徳兵衛之跡を改名相續候様右徳兵衛十八歳ニ
相成候後氣分相續不申相續ニ而不相成商賣方も

不仕候処林助儀兼而労仕無之業用無是非仕候処
何分相勤不申林助儀ニ而致相談離縁仕度旨
嫁候儀ニ同年ニ而相立候処男子出生仕小吉郎と
名附林助丁寧ニ労り養育仕候然処又候病気分
相勝不申夫婦中不和ニ相成候ニ付林助儀ニ相宮
候得共相用不申ニ付離別仕悴小吉郎儀者未無
之遣置候処又候病身ニ付又候難多相掛仕候
林助并ニ為親類共ニ相頼養育仕候林助方ニ引取
候処不便ニ付見合候ニ而又同所右候相続難儀候
及ひ不申右体ニ相成候者極く難渋仕候ニ付今之一子を
介抱ニ申候得共宜敷加く泣養忍度候ニ付親類亘那与数度
之請ニ致置候不申候林助不便之儀ニ而申何卒
離縁致候親又者縁者共相頼ニ而不申候ニ付兼而難渋仕候
右体実躰ニ者不相成候ニ而右之者共儀相続難成ニ付候者
林助方之可相成候一応申談候不仕候旨度相頼
親類又親類共内ニ林助ニ申聞候処相続難儀致右体
病気ニ付当年ニ罷成候ニ付妻之入相続致度旨
致世話呉候様願ニ申聞候処妻常仕候ニ而兼之

恩を忘さる様致し公儀之紀成難斗由庄屋共見聞
据候而小右衛門を守立家相続為仕安堵ニ仕候者
右庄屋共申ニ妻常々得心右様之服方ニ候ても
相成候段人柄ニ付庄屋共村役人申出候ニ付遣方申附
為褒美寛政元酉十二月大麦壱石被下候

豊後国国東郡
蕗村百姓忰
業八
当酉二十六歳

一 持高壱石五斗

右業八人柄宜庄屋共申候ハ親只右衛門七十二歳ニ相成
只右衛門妹五十七歳ニ罷成候二人ニ而業八孝心ニ而母ニも
幼少より離れ候者ニ付庄屋共申候ハ平生之孝心ニも有之候
故之病ニ罷成日々相稼右二人之者を養育仕候処
伯母十年以前離病相煩候ニ付候ても殊ニ丁寧ニ
看抱而海親ニも孝心ニ付候ニ至而ハ罷成候而
病気之養生差之入候而孝方ニ罷成候食事ニ
之儀難成者ニ付庄屋共右業八人好候通ニ仕居申候
親共之中相応ニ相営候而小者ニ至迄平生実体之者ニ
離親共ニ而只申親共親ニ付候妻常ニ致候

相進候得共女房持候ゟハ若親伯母ニ不孝ニ相成候而ハ
却而私之為ニ相成不申候旨妻帯不仕候ニ付実体
奇特成者ニ御座候段村役人申出ニ付相違無御座候ニ付為
褒美寛政元酉十二月大麦遣申候

同国同郡
拂田村庄屋
伊左衛門
当戌二十三歳

一 持高弐拾五石七斗

右実躰成者ニ而役場之用向大切ニ相勤殊ニ細之儀
能心を相用万事念を入出精其上ニ而親をも大切ニ仕不依
何事親申付候通相背不申親共も歓喜相暮
申候村方之儀格別世話仕至而難渋之百姓を伊左衛門
為之手段を以為取続候様仕村中一同ニ感服仕罷在候
隣村之者迄及承申庄屋共も伊左衛門を手本ニ仕候程
之庄屋ニ而同役共之者難渋之儀不有之様ニ心を捨置不申
同人方ニ而難渋之者一切ニ世話仕奇特者ニ御座候段大庄屋
申出ニ相違無御座候ニ付為褒美寛政二戌正月被遣申候

同国同郡
加礼川村百姓
吉太郎
当戌四十七歳

一 持高八升五合

右惣右衛門儀成長之上ハ母江丁寧ニ仕朝夕之食事
等之世話迄も自身ニいたし母気苦労無之様ニ仕候付
母儀存生之内ハ相索女房を持候而ハ進候得共女房持候而ハ難儀
中悪人ニ而候儀相増候ハゝ彼之者不申候哉中之取計
不致候処其後再応相進女房貰候様一年宛相営ニ
同意之趣進詞之者ハ断候而女房事母を不孔扱ニ相成
候而難儀之者ニ候得ハ仮料ホ七貫儀相尋不申候女房
致離縁候而母ハ無難能ニ罷在候処其後離縁仕候
相之母江丁寧ニ仕候得共巳年以来母儀中風之病症ニ

起居不叶相成七十余歳之老人ニ而立居成兼二便ホも
右之處ニ而取扱候而相成母様ニ難儀之者ニ而其身も立兼
候故母ハ湯し沐浴ニ而其身も不遣候而も母之始末
不足無之様仕候処追々相増母親始ニ者難渋致候様ニ付
孫江申候而食物之類介抱仕食事も両便之始末
年来候儀母ハ格別之用ニ而不足無之様差遣
差別追々近此一同ニも迄不及儀官ニ而不孝介抱仕
実ニ母之儀ニ而者候ニ付孝心之者ニ候村役人申出
之ニ付遠相尋候処相違無之寛政二戌二月大麦差申候

同国同郡

大平村百姓

傳右衛門

当亥三十八歳

一 持高弐石三斗

右傳右衛門儀、人柄宜、実体成者ニ而、年々御年貢米入念撰立
相納、且耕作出精仕、人並宜斗ニ而も無之、格別
孝行ニ而、平居何事も大切ニ仕、在宅も作場江罷出候節ハ
度々立戻、母之側ニ居申付候、何ニよらす背き不申候
右傳右衛門妻も去ル年相果、当月勇吉と申者を老母娘を見
組合惣家内睦敷相暮候様致、右傳右衛門孝行之趣同
睦敷候ニ付、自然と近所之者迄も人柄宜
相成候段、村役人申出ニ付、為御褒美被下置候段
三亥八月大貫出シ候

同国同郡

茅場村茂兵衛伜

道蔵

当亥二十三歳

一 持高四石五斗

右道蔵儀、人柄宜、実体成者ニ而、親茂兵衛儀先妻之連子ニ
而、此茂兵衛儀、当時之母ハ継母ニ而、大切ニ仕、実之母ニも不相替
孝行ニ而、茂兵衛儀も当時中風ニ而、親之申付ニ不背、何事

相背不申両親共至而親切ニ仕候親共儀用事ニ而
他方江参候節者途中迄送迎介抱仕其外萬端等閑ニ無之
飯之儀も随分念入遣候者勿論大切ニ取扱候付両親共至而悦
耕作方之儀も精出し農業之間ニハ縄なと仕候故親共孝心之段悦申候
此段奇特成者ニ御座候段村役人
申出候ニ付遂吟味候処相違無御座候寛政三亥八月大麦(?)中出

同国同郡
小田原村百姓友之進
後家
当亥四十六歳

一 貞節

右友之進儀同年以前病死仕候後後家當ニ姑一人
御座候処当亥八十七歳ニ罷成老衰ニ而歩行も難相成
候処御座候処麻疹起居丁寧ニ取扱給物なと心を尽し
実躰ニ而二夜共世話仕候而孝心ニ御座候夫友之進
存命之砌茂格別之者ニ而當意候得共姑合事共
丁寧ニ仕候友之進病死後共借田畑壱石余作仕候処
人手加勢も請不申自身一ツ二而耕作取揚不仕年々
年貢皆済相納自分田畑ニ而共相応仕地主方ニ
上八月暮ニ迄女之手業ニ而耕作

仕候儀ニ御座候処近年打続候節々夫食不足之節ニ而右様ニ候
迎村被申付姑江孝行仕候旨被申ニ付当時ハ貫ひ申候ニ而三度ニ相
姑之為ニ能相斗ひ候得共当方も悉敷相と候得ハ候ニ付
迎村之者共右孝行之心ニ感心いたし相届被申ニ付候ニ付候
出来不申事共ニ而御座候処村役人之世話ニ而相成候気之毒ニ
存前同ニ付御手当之不案内ニ付当月九月下旬右姑病死
仕候処葬式病中之儀諸事丁寧ニ取扱殊ニ年々御吊ひ申候
為仕候村中之者共是迄之儀毎年申ニ辛労之段奇特
見分を田畑耕作取ニ而庚し　麦秋人ニ加勢稼致し相
営ニ付候而中ニ御座候処夜中ニ而も寛ニ不申夫余ニ相成候
由も有之候得共姑相果候ニ付以後香花供養いたし候
相勤候者ニ而近所私共も存命之節ニ当方大切存候段
中之存命之節御前之仏前江参詣仕孝行者ニ
御座候段村役人中江御達相成候ニ付為御褒美
寛政二寅十二月　大

一　鳥目拾貫文

同国同郡
某村百姓
丈吉
当寅四十五歳

右惣右衛門儀先年ゟ持高之内年ニ寄作合不足し
田畑少ク候ニ付貧窮ニ付困窮ニ付朋友之者共ゟ丈夫ニ
而持候ニ付困窮ニ付拾ヶ年ニ付困窮ニ付難渋ニ付相尋
候処丈夫ニ而持候ニ付困窮ニ付上ル米田ニ而候処多分之残
手前而已之田畑ニ候得共少々之作合不足ニ而も有之処中ニ
而も耕作之儀者惣右衛門作ニ而一己ニ而候付候得共作合
不足ニ而も手前之難渋成丈耕作仕候得共作ニ捨候処
共ニ相成無之ニ付年貢相済候段
中ニ而奇特成者ニ付候村役人中ゟ一同申立候
右之趣ニ付候得共寛政三亥年十二月名主申ニ付
同国同郡
荒尾村
和七
当子五十三歳
一 銭弐斗四升九合
右惣右衛門儀親代ゟ難渋者ニ而候処十六歳より
隣村安右衛門方ニ奉公仕両親江孝行仕候処十九歳之時
父相果母壱人ニ相成候処奉公相止候得共母江孝行仕手寄
之居候ニ付其後右奉公仕候付母壱人ニ而罷在候所
ゟ相続仕候ニ付世話仕親類新六と申者ゟ又々仕

和七事ハ至て活浪之飢渇丸潰申候和七實体成者ニ
付同村安右衛門方江十六年季奉公ニ出候夫ゟ実父
新六世話ニ而和七ニ女房を取候而兩人之女子弐人有之候
實父存命之内も若年ニ而候得共兩親江丁寧ニ
仕其後実父ニ死別候以後ハ不相替丁寧ニ仕兩親共ニ
格別ニ孝成耕作ニ精出し候程兩親之氣ニ
背不申候何事も得と申聞候実父新六ハ存生之
孝心申候極文年貢諸納物大切ニ相勤候得共極貧
渡世取續成人相成候親共病ニ而寝申候所右之

何迚茂丁寧ニ介抱仕二夜共ニ自分ニ而も九ツ頃迄寝不申
一向外不申介抱仕候付親共氣ニ入毒ニ渡労し申候得
廿ヶ年以前ニ申候得共相残候ヘ共親之年分ニ不背外ニ
俤ニ致申兼入不申候様ニ候有之候得共世話ニ介抱
仕候然ル處又新六儀人柄宜候所右之和七丁寧成を以
相應家内睦敷村方ニ而も心ニ成者ニ付右之段
村役人申出ニ付右遠相叶候付為褒美鳥目被下候
十二月大麦壱申候

同国同郡
杉林村

兼七 当子四十八歳

一 持高九石九斗四升

右之者極貧ニ而村役人共ゟ申付候守耕作方至而
出精仕年貢ハ不及申諸役等迄も丁寧ニ相勤并年
々難渋者ニ施在候ニ付耕作方之世話ニ相励耕
貴成候ニ付不仕候処年々少々宛田畑相求当村之余人
下作等為致候処相成申候儀ニ付年々上ハ米等も不
宛他所減少いたし諸色平生耕作ニ付為も余人
体候得ハ自分之ものを取足余人之作方迄も気を付届
候事都て世話仕村方之もの共ニ相成候様之者ニ付候
村役人共ゟ当年遠相守候間為褒美寛政四子
十一月木綿壱反遣ス

一
豊前国宇佐郡
佐田村卯平娘
さく 当巳二十九歳

一
同
すみ 当巳十九歳

右当人儀ハ兼而孝心ニ有之候処、父母共去ル寅年
病死致、卯年後妻女房病死後ハ中風ニ而手足痺も
一向不相叶候ニ付、給食ニ至迄当人儀ニ而世話致候処
有之候得共、姉儀丁寧ニ介抱致、勿論農業間ニ仕候得共
少之暇を以相勤候、今以手足不相叶長病之儀ニ
有之候得共、姉儀共丁寧ニ取扱、食物も親好ニ応
薬等調候様相成、自分之廉飯を給候様耕作方ニ出候
節者当人留守之砌者、居合候親之介抱致、寒暑之節
姉妹之儀、右之通ニ而病者并家内共丁寧ニ取扱、田畑も
少〻之儀ニ而為致難渋者ハ相救、村方一同感心ニ罷在
卯年ゟ酒を好候ニ付、折々調遣候、姉妹睦敷耕作方も
出精、年貢米早稲相納候、尤村役人共ゟも精勤之
趣ニ付、村役人共ゟ申出、当人儀ハ孝心奇特成者ニ付、此度被
村役人申出ニ付遂吟味、為褒美宛行致候也
六月大麦壱斗ツヽ

一　持高壱石七斗五升八合

豊後国国東郡
横尾村吉蔵倅
為吉
当巳二十五歳

右弥吉妹
いよ
当巳七十六歳

一 右いよ儀者至而人柄宜未両親存命之節ゟ
父吉右衛門儀当巳六十三歳ニ罷成二十ヶ年以前ゟ足痛ニ而
耕作方難相成農業手間仕候得共快方ニ不相成六年
以前ゟ両足共ニ不叶為自身療治も相成不申候
為吉儀者同人方ニ而者妹いよ何気乱を附二度
介抱仕候得とも弥吉介抱仕候母当巳五十三歳ニ罷成
候ニ付又十九年以前ゟ眼病相煩一向相見不申家内之

歩行も不相成兄弥吉ニ者甚不自由ニ候大切ニ介抱仕
両親共ニ長病ニ候得共万事心遣相成兼候得共
何事ニ寄らず相背不申父吉右衛門ニ食物抔も家業中ニ而も
是迄到而資用候ニ付又近村迄参り未或者色
相応ニ家業之間ニ候得共速ニ帰り相話入相手
相離歴候不仕妹いよ儀も能ク相勤世話仕候以前者両親共ニ
数年之間病身内之漸ク罷出折ニ者相勤相応ニも不足
仕候得共母育同様之事ニ付相勤有之候成丈相尋候得共
残り之相成候ニ付何寄も両親江進メ相勤

至身も一向請不申候儀も度々有之両親兄弟
不成ニ付以身持者ハ相續之上両年来養育いたし
請取を不何事両親ニ家督相渡其後於ても
主人ニ従ひ毎度不絶不相替丁寧ニ介抱仕候段
者ニ候得ハ朋友ニ交もよく睦敷者ニ而孝心
奇特者ニ付庄屋村役人申出ニ付遠相伸以身持
褒美寛政七卯六月大麦遣申候

同国同郡
小濱村辻人
新母
当卯四十二才

一 持高三石七斗

右父親者幼少之時相果母七十五歳ニ成候處
四十ヶ年以前ニ眼病相煩療治致候得共三十ヶ年
以来者一向相見不申其上病身ニ罷成四五年以前
ニ居候得ハ相成由候ニ付新母夫婦ニ而介抱仕候處文
新母婦四十五歳ニ罷成候處二十年来差又眼病ニ而
一向相見不申其上病風与申病ニ而手足一向
不叶候ニ付居候身朝夕食事ニ至迄新母相續二度之
女房之儀ハ未致出し新母其女房共ニ実体致世話
母婦共ニ至而大切ニ取扱奇特成者ニ付庄屋村役人

申出ニ付遂吟味候処奇特之段寛政元酉六月米を
申付

一 褒美米五斗

同国同郡
長谷尾村吉七伜
伊右衛門
当申五十一歳

右親吉七九十三歳ニ罷成候得共農業相励候を
老年之事ニも罷成候ニ付伊右衛門儀孝心ニ而諸事気を附
介抱丁寧ニ仕村中交りも睦敷親吉七服方ニ至
迄心を用仕来候処相止候様申聞候得共孝心ニ付村役人
申付候段ニ付御用ニ而平日人柄宜者ニ付庄屋村役人
申出ニ付遂吟味候処奇特之段寛政十二申四月
大麦を申付

一 褒美四斗七升

豊前国宇佐郡
下市村孫七伜
廣助
当酉十七歳

右廣助儀孝心者ニ而庄屋ニ而祖母并母相煩母十ケ年
以前ゟ病身ニ罷成痛風ニ而手足不叶祖母も同様ニ而
相成候ニ付廣助丁寧ニ介抱仕親存生之節代ゟ持ち来る

指石町持法仕候處、父ハ六年以前病死仕、母長病ニ付
持高減少之窮之小商致を立相渡世仕候処、母難
母之側ニ寄添子同前ニ致介抱、夜中ニ而茂度々遣寄自分之
佛神を信仰いたし　夫ゟ弥持茶仕候母々為請
飯後母之側ニ寄添、今日之何村ニ商売ニ参候由申聞
罷出商売ニ出候節茂母之安否を相尋、遠路不罷出
近き所江計参今抱仕候一両年以前ゟ之村内寺方ニ而[illegible]
一日大雨降候節、雨食ニ参候処、中ニ而余大降ニ成候所
今日之所ニ而食事無之ニ付候[illegible]中ニ而涙を流し候処
何持中ニ而無方ニ飯候處ニ而、涙を流し候[illegible]中ニ而
食事之節ニ而茂完而母小用ニ参候節[illegible]母
難儀之段を存夫を相考候所、中ニ而持参仕候
不致候中閑之節[illegible]商ひ之儀を村中ニ而
當前之節夕飯持仕候而も母之側ニ参候而
病中湯之母を小用ニ連参中ニ而若年之者ニ者
母を丁寧ニ仕候奇特成者之由、村役人中ゟ申達
相守候ニ付為褒美寛政十二酉正月米被下候

同国同郡

乾王村軍八倅

宗三郎

当酉十七歳

一 持高九斗三升五合

右宗三郎儀両親に孝行仕候、父母共年以前より両手足に
不相叶候故、朝暮宗三郎飯櫛等仕、両親に相勤不申候
何事も両親之申付相背不申、毎朝両親之機嫌を
伺、自分も佛法を信仰仕、親軍八儀ハ遠方之所迄罷出
親子之為商売仕、身元大分に相成申候様精勤致候、老母
宗三郎ハ下女之為成候由申候、下女をも無之候由
両親之介抱手前之為致候仕候、親之心に不叶候儀
却而両親之心を悪く候旨申之、下女成不申
朝夕丁寧に致扱申候、随而之見え格別に不相成之由候段
両親之気遣をも又不申候、是に不及相勤候
至而実体成者之由相聞候に付、孝心奇特
成者之由承及候段村役人申出に付遂相尋候処、至殊に十三
両所同為同世話申出

同国同郡

西木村

徳右衛門

当酉四十三歳

一 六ろ

右又親ハ十五ケ年以前ゟ病死仕母斗ニ而老衰致候處
病身ニ有之候ニ付気遣ひ致実躰成者ニ而母江も丁寧ニ仕
女房共茂実躰成者ニ而家内睦敷年貢も不及申
諸役ニ至迄大切ニ相勤候ニ付去亥上八木代斗役致
上八木村ニ而常々同村病人有之候ニ付方々遣ニ
者有之候得ハ加勢仕病人能者ニ而候母七十五歳ニ
罷成候得共老病ニ而紀合事一向結不申候処菓子斗
相調持参療紀老ニ付徒然ニ丁寧ニ介抱仕農業ニ罷出
仕罷候得ハ宿々罷出候毎ニ相伺其上相尋申候付
迎ニ参り老衰徒然慰申し孝心感入候村之者
手本ニも相成ニ付人柄ニ而庄屋始村役人申出ニ付相違
相聞候ニ付御褒美被下置寛政十三酉正月右同書申付

豊後国国東郡
小浦村
五兵衛
当子九十一歳

一 持高八石五斗

右之者ハ元来難儀成者ニ而老衰致候得共生得人柄宜仕年ニ付
諸人ニ勝れ農業出精仕至而達者ニ而至極丈夫ニ而
御田畑不残ニ相求伜共ニ先年相譲[illegible]

実体成者ニ而親子兄弟睦敷朋友之交茂宜耕作方
出精仕夫之儀先年ニ及候得共今ニ達者ニ而悴夫ニ
耕作并出精仕村役人中申付を茂能相守年貢諸役人
先ニ皆納仕候正路成者ニ而奇特之儀ニ付庄屋并村役人
中より江戸表遠江守方ニ而褒美文化元子三月遠江守様ニ
木綿悴共者ニ而同様申上候

右之通寛政二戌年以来孝行之唱候程之者ニ有
之候庄屋并孝行之志有之候者并人柄宜耕作
家業出精仕候者ニ付褒美遣候者書面之通御座候
以上

文化六巳年十二月

松平主殿頭家来
川口長之清

昌平坂

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan